



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本学術会議活動報告 (令和5年10月～令和6年9月)

Annual Report 2023

年次報告 第2編活動報告

令和6年10月21日

日 本 学 術 会 議

日本学術会議活動報告（令和5年10月～令和6年9月）

第2編 活動報告 目次

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）	…	1 頁
2. 組織ごとの活動報告		
（1）総会	…	2 頁
（2）幹事会	…	4 頁
（3）幹事会附置委員会	…	5 頁
（4）部	…	9 頁
（5）機能別委員会	…	12 頁
（6）課題別委員会	…	26 頁
（7）分野別委員会	…	29 頁
（8）部が直接統括する分野別委員会合同分科会	…	173 頁
（9）地区会議	…	177 頁
（10）若手アカデミー	…	181 頁

1. 日本学術会議の概要（組織の概要と改革）

（1）経緯

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的として、昭和24年1月、内閣総理大臣の所轄の下、「特別の機関」として設立されました。

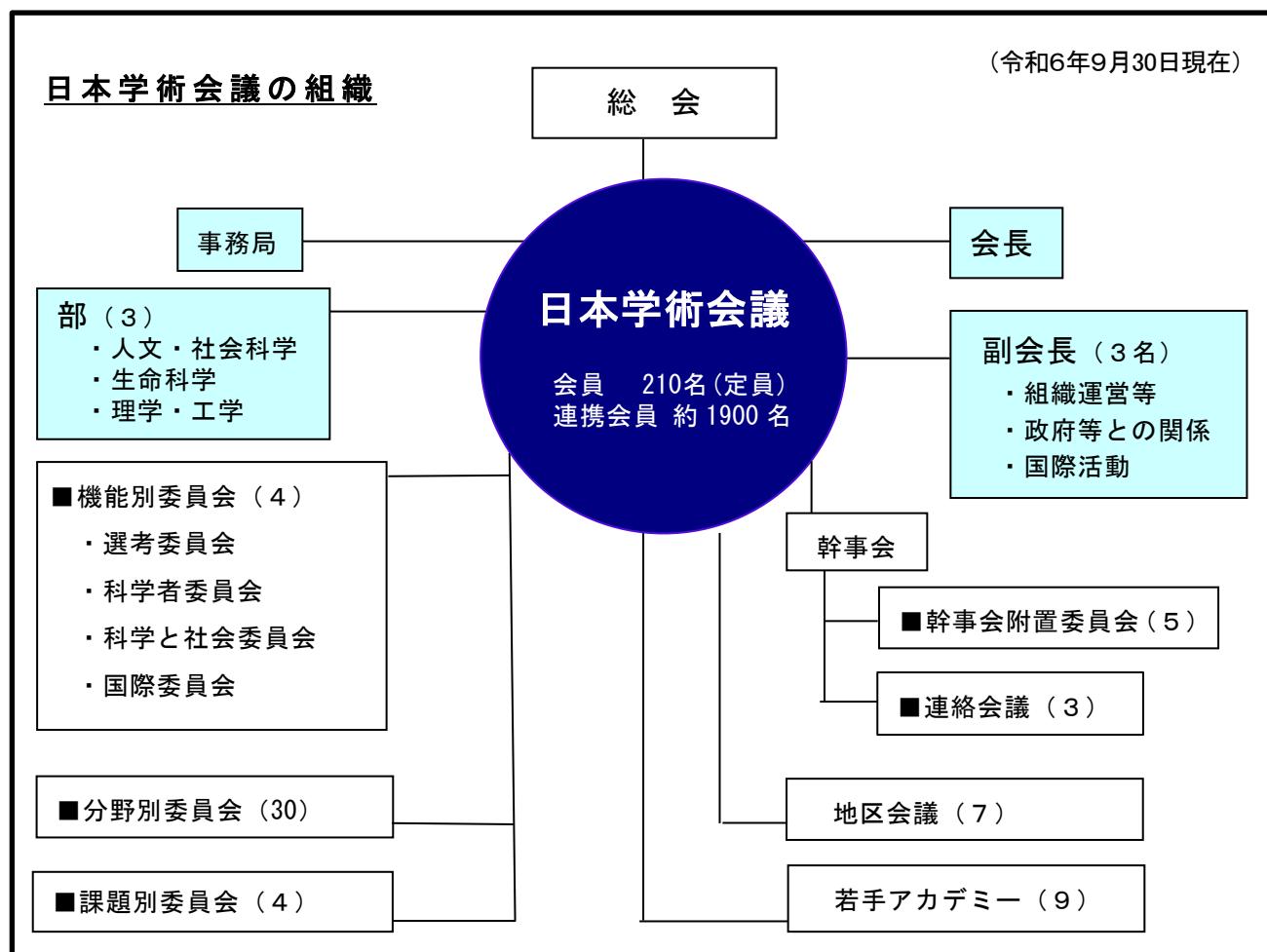
その後、平成13年の中央省庁改革に伴い、総務省に移管されましたが、平成16年に「日本学術会議法の一部を改正する法律」が成立したことを受け、平成17年4月に内閣府に移管されました。同年10月には同法が完全施行され、会員選考方法の変更、定年制の導入、7部制から3部制への移行、連携会員の新設等を内容とする改革が実施され、現行の体制が発足しました。

（2）組織

日本学術会議は、内閣総理大臣から任命された210名（定員）の会員と日本学術会議会長から任命された約1,900名の連携会員で構成されています。

会員・連携会員の任期は6年で、3年ごとにその半数が改選されることとされています。

日本学術会議には、法の委任の下に意思決定を行う幹事会、3つの部（第一部に人文・社会科学、第二部に生命科学、第三部に理学・工学）、4つの機能別委員会及び30の分野別委員会、課題別委員会等が設置されています。また、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的に7つの地区会議が、若手科学者の連携を図り、その活動を通じて学術の振興に寄与することを目的に45歳未満の会員又は連携会員で構成される「若手アカデミー」が、それぞれ設置されています。



2. 組織ごとの活動報告

(1) 総会

総会

総会

－第189回総会（令和5年10月2日～4日）－

（10月2日）

- ・ 会長の互選が行われた結果、光石衛会員が新会長に選任、就任挨拶。
- ・ 梶田隆章前会長、望月眞弓前副会長、菱田公一前副会長、高村ゆかり前副会長より、第25期の活動報告。また、科学と社会委員会年次報告検討分科会の前委員長である菱田公一前副会長より、年次報告書について報告。
- ・ 第26期会員の所属部を決定。

（10月3日）

- ・ 光石会長から、新副会長について、科学者委員会担当に三枝信子会員、科学と社会委員会担当に磯博康会員、国際委員会担当に日比谷潤子会員の指名があり、承認。
- ・ 部会が開催され、各部において部役員の選出、各委員会委員の推薦、連携会員説明会の日程についての検討等を審議。
- ・ 地区会議が開催され、代表幹事、運営協議会の委員を選出。
- ・ 幹事会が開催され、各委員会等の委員の承認等を審議。

（10月4日）

- ・ 幹事会及び各種委員会等を開催

－第190回総会（令和5年12月9日）－

- ・ 日本学術会議の在り方について内閣府より説明及び質疑応答。
- ・ 声明「日本学術会議のより良い役割発揮に向けた基本的考え方 ―自由な発想を活かした、しなやかな発展のための協議に向けて―」を議決。
- ・ 幹事会を開催。

－第191回総会（令和6年4月22日～24日）－

（4月22日）

- ・ 松村祥史内閣府特命担当大臣（経済財政政策）からのメッセージを読み上げ。
- ・ 第191回総会及び部会におけるオンライン参加の併用の承認を議決。
- ・ 講演「研究力強化と学術会議への期待」として、豊田長康先生（鈴鹿医療科学大学学長）、松本洋一郎先生（東京大学名誉教授・外務大臣科学技術顧問）、山口周先生（東京大学名誉教授）にご講演いただく。
- ・ 外部評価有識者から外部評価書、会長から外部評価書に対する見解を報告。
- ・ 会長、各副会長、各部部長、若手アカデミー副代表より活動報告。
- ・ 「日本学術会議の在り方」について日比谷副会長より説明及び議論。
- ・ 「第26期アクションプランの検討状況」について沖第三部部長より説明。

- ・ 幹事会を開催。
(4 月 23 日)
- ・ 「日本学術会議の在り方」について議論。
- ・ 声明「政府決定「日本学術会議の法人化に向けて（令和 5 年 12 月 22 日）」に対する懸念について～国民と世界に貢献するナショナル・アカデミーとして～」を議決。
- ・ 「第 26 期アクションプラン」について議論。
- ・ 幹事会及び部会を開催。
(4 月 24 日)
- ・ 各種委員会等を開催。

(2) 幹事会

幹事会

幹事会	
幹事会構成員 四 役 光石 衛 会長、三枝 信子 副会長、磯 博康 副会長、日比谷 潤子 副会長 第一部 吉田 文 部長、大久保 規子 副部長、小田中 直樹 幹事、西山 慶彦 幹事 第二部 神田 玲子 部長、尾崎 紀夫 副部長、奥野 恭史 幹事、堀 正敏 幹事 第三部 沖 大 幹 部長、北川 尚美 副部長、奥村 幸子 幹事、関谷 毅 幹事	
審議経過	主要な決定事項は以下のとおり。 ・各委員会等委員（連携会員（特任）を含む）の決定。 ・各委員会等の運営要綱の決定及び改正。新規設置は、7 機能別委員会小分科会、2 同小委員会、1 課題別委員会分科会。 ・意思の表出について、回答 1 件、提言 4 件を承認。 ・連絡会議が発出する記録を承認。 ・日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規等規則関係の決定及び改正。 ・令和 6 年度共同主催国際会議等の取り扱いの決定。 ・令和 5 年度代表派遣実施計画、その他の国際会議や海外アカデミーとの意見交換等に係る派遣についての承認。 ・日本学術会議協力学術研究団体の指定。 ・各地区会議の運営協議会委員の変更の決定。 ・日本学術会議主催学術フォーラム、委員会等主催シンポジウム等の開催の承認。 ・国内会議・国際会議の後援の承認。 ・外部機関からの依頼に対する委員候補者の承認。 ・賞候補者の推薦。 ・連携会員の辞職の承認に同意。
開催状況	令和 4 年 10 月 24 日、11 月 28 日、12 月 8 日、12 月 21 日、令和 5 年 1 月 5 日、1 月 26 日、2 月 16 日、2 月 22 日、3 月 23 日、4 月 5 日、4 月 13 日、4 月 17 日、4 月 18 日、4 月 19 日、5 月 25 日、6 月 15 日、6 月 29 日、7 月 13 日、7 月 24 日、7 月 31 日（メール審議）、8 月 10 日、8 月 29 日、9 月 15 日、9 月 25 日

(3) 幹事会附置委員会

外部評価対応委員会

広報委員会

「学術の動向」編集分科会

国内外情報発信強化分科会

地方学術会議委員会

財務委員会

科学的助言等対応委員会

外部評価対応委員会					
委員長	光石 衛	副委員長	磯 博康	幹事	三枝 信子、日比谷 潤子
主な活動	審議内容				
	・外部評価対応委員会委員から外部評価有識者に対し、令和5年度年次報告書等に基づき、令和4年10月～令和5年9月の日本学術会議の活動状況について説明 ・外部評価有識者からの意見聴取及び意見交換 ・令和6年4月総会において、長谷川眞理子外部評価有識者座長より外部評価書について説明				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年3月14日				
今後の課題等	第26期外部評価有識者の選考 令和5年10月～令和6年9月の日本学術会議の活動状況に関する外部評価のための準備				

広報委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	中村 征樹	幹事	狩野 光伸、永井 由佳里
主な活動	審議内容				
	・役員の選出				

	・広報委員会の運営方針、広報方針の決定 ・分科会の設置 ・広報・コミュニケーションのプロフェッショナル人材をアドバイザーとして委嘱
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和5年11月15日 令和6年6月25日（国内外情報発信強化分科会との合同）
今後の課題等	HP（トップページの改修、動画、SNSの活用）、パンフレット、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）、地方学会会議、産業界・NGO/NPO等との連携を通じて、タイムリー・スピーディな意思の表出と情報機能の強化を進める。

広報委員会（「学術の動向」編集分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	岩井 紀子	幹事	
主な活動	審議内容				
	日本学術協力財団の『学術の動向』編集委員会と連携して同誌の内容及び編集方針について審議を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	『学術の動向』の発行そのものが、学会全体全体の意思の表出と深くかかわっており、本委員会として別個の意思の表出は考えていない。				
	開催シンポジウム等				
	本委員会としてのシンポジウム等の開催は当面考えていない。				
開催状況	第1回（令和5年12月21日）、第2回（令和6年2月20日）、第3回（令和6年5月8日）、第4回（令和6年8月16日）				
今後の課題等	令和5年4月から季刊化し、紙面を一新した。より魅力的な新生『学術の動向』となるように、学術界だけでなく一般読者も念頭に置いた特集を企画するなど審議を重ねている。企画や編集には多様な意見が必要であり、引き続き内外との連携強化が課題である。				

広報委員会（国内外情報発信強化分科会）					
委員長	狩野 光伸	副委員長	加納 圭	幹事	
主な活動	審議内容				

	ホームページとりわけトップページについて改善方策の検討、またパンフレット改訂作成の方針を中心に、誰を対象に何を伝えたいのかという観点から議論を進めた。この中で実現可能なところから広報委員会とともに実装を進めた。
	意思の表出（※見込み含む）
	特になし
	開催シンポジウム等
	特になし
開催状況	令和6年2月8日、3月28日、6月25日（広報委員会との合同開催）
今後の課題等	ホームページ、YouTube、SNS など今後の情報発信の進め方について、限られた人的・資金的資源の範囲内で何を最優先していくかの検討。

地方学術会議委員会					
委員長	三枝 信子	副委員長	内田 誠一	幹事	加納 圭
主な活動	審議内容				
	第24期、第25期に開催された地方学術会議の開催実績等報告を行い、今後の地方学術会議の開催や今後の進め方についての審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年3月27日				
今後の課題等	今後の地方学術会議の進め方（開催形式、開催地、開催サイクル、開催内容）及び第26期アクションプランにおける当委員会の位置づけについて議論を行う。				

財務委員会					
委員長	三枝 信子	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	・学術会議に係る予算執行のうち重要な事項（審議に係る予算執行）について審議を行うため設置。主に各年度の予算配分及び予算執行管理を行う。 ・今回は委員会を2回開催し、令和6年度審議等予算の配分の決定や令和5年度決算及び令和6年度の予算執行について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和6年3月4日、6月20日（いずれもオンライン開催）
今後の課題等	会員と事務局間で緊密な連携を図り、予算執行状況を適宜情報共有して予算逼迫を防ぐとともに、必要に応じて再配分を行うなど、効率的かつ効果的な予算執行を行う。

科学的助言等対応委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	山田 八千子	幹事	小林 武彦、森 初果
主な活動	審議内容				
	・役員の決定・審議の進め方等（委員会の公開、開催方法・頻度、委員会懇談会の設置）の方針決定 ・意思の表出の質の確保を図るため、意思の表出を行うことを希望する分科会等（作成分科会等）から申し出のあった検討課題や提言の骨子に対する助言を行った。まず、作成分科会等から、検討課題等を記載した申出書等を受け付け、① 過去 10 年間の意思の表出との関連の調査、② 関係分科会・委員会との関連の調査、③ 作成分科会等への助言の発出を行った。これら、個々の事案の手続き等は、随時メールやBOXを用いて行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年1月31日 ※このほか委員会懇談会を開催（4月3日、6月11日）				
今後の課題等	今後審議案件が飛躍的に増えていくことが予想されるため、委員会（年2回、臨時1回）に加えて、委員会懇談会を随時開催するなどし、作成分科会等から申し出のあった検討課題や提言の骨子への助言、意思の表出の案の査読、承認などの手続きを、BOX等を活用し（今後、日本学術会議全体で査読システム導入も検討）、機動的に対応していく。				

(4) 部

第一部

第二部

第三部

第 一 部			
部長	吉田 文	副部長	大久保 規子
幹事	小田中 直樹、西山 慶彦		
主要な活動	審議内容		
	会員任命問題に関する件、日本学術会議の在り方に関する件、人文・社会科学の役割と振興に関する件、第一部の国際活動に関する件、第一部における分科会設置方針、「意思の表出」に関する件、など		
	意思の表出（※見込み含む）		
	なし		
	開催シンポジウム等		
	なし		
開催状況	第1回（令和5年10月3日、対面・オンライン併用） 第2回（令和6年4月23日、対面・オンライン併用） 第3回（令和6年6月10日～令和6年6月20日、メール審議） 第4回（令和6年8月1日、対面・オンライン併用）		
今後の課題等	第1編 1.（第一部）に記したとおり		

第 二 部			
部長	神田 玲子	副部長	尾崎 紀夫
幹事	奥野 恭史、堀 正敏		
主要な活動	審議内容		
	第二部が関与する学術領域である生命科学は、生命を理解する知を体系化し、その基盤を構築するとともに、人類の福祉・社会の進歩に貢献することを目的とする学問である。第 26 期の第二部においては、25 期で活動した分科会の見直しの末、9 の分野別委員会の下に 79 の分科会を設置し、生物学、医学、農学に関連した広い分野に関する問題の審議がスタートした。また第二部附置の分科会として生命科学系学術雑誌問題検討分科会（令和 6 年 3 月設置）、第二部ジェンダー・ダイバーシティ分科会（令和 6 年 8 月設置）を立ち上げ、計 81 分科会が特徴ある活発な活動を展開した。特に、原料に紅麹を用いたサプリメントの消費者に重篤な健康被害が生じたことを受けて、獣医学分科会と食の安全分科会が公開シンポジウム「『紅麹サブリ食品事故』から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～」を開催し、事故の原因となった根本的な問題と今後の改善について多方面から議論を行った。またコロナ禍のため令和元年以来中止していた夏季部会の地域開催を再開し、ホストとなった岡山大学と共同で公開シンポジウム「ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考える～」を開催した。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	各分科会の審議の進捗により、分科会または部としての科学的助言を発出予定。すでに提言 1 件、見解 1 件の発出を科学的助言等対応委員会へ登録している。		
	開催シンポジウム等		
	26 期がスタートした令和 5 年 10 月以来、公開シンポジウム 17 件を開催し、科学者コミュニティおよび国民との対話を進めた。		
開催状況	部会は、令和 5 年 10 月 3 日、令和 6 年 3 月 5-15 日（メール審議）、同年 4 月 23 日、同年 6 月 5-15 日（メール審議）、同年 8 月 8-9 日（夏季部会）の 5 回開催した。また二部役員と分野別委員会委員長で構成される拡大役員会の会合を 1 回開催した（令和 6 年 2 月 17 日）。		
今後の課題等	第二部が対象とする生命科学は、医療、看護、食料など人類の健康と福祉に直結し、さらにヒトを含めた生物の深い理解を通して、人類を包含する生態系、地球環境の維持へも重要な知見を提供する。生命科学の学術としての健全な発展のために、それぞれの専門分野にとらわれない横断的審議を行って、俯瞰的視野と実効性を備えた意思の表出につなげたい。 特に、第二部が連携している学協会連合と共同で公開シンポジウムの開催等を行うなど連携をより一層強化し、学術コミュニティが社会との対話や社会的問題の解決に貢献した実績を積み上げていきたい。		

第 三 部			
部長	沖 大幹	副部長	北川 尚美
幹事	奥村 幸子、関谷 毅		
主要な活動	審議内容		
	日本学術会議のあり方に関して、全体の議論と平行して、第三部でも議論を行うとともに、理学・工学系学協会との連携についても議論を行った。さらに科学的助言機能の強化に向けて、第三部内の査読プロセスなどについて議論を重ね、第 26 期に公表を予定する意思の表出への適切な対応について確認、意見交換を行った。		
	意思の表出（※見込み含む）		
	第三部関連分野別委員会から、提言 2 件を発出予定。		
	開催シンポジウム等		
	第三部、分野別委員会又は関連分科会等主催によるシンポジウムの開催は、12 件。 令和 6 年 8 月 1 日に、第三部、大阪大学及び近畿地区会議が主催する公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろう～社会課題の解決に取り組む研究者概論～」をハイブリッド方式で開催した。世界を駆け巡り問題解決に取り組んでいる研究者から、想いと思い描く未来を紹介し、次代を担う学生たちに研究者の魅力と経験を伝えると共に、グループディスカッションでは、参加者の高校生等と交流する機会を持った。参加者は約 370 名（現地参加者 140 名、オンライン参加者 230 名）。		
開催状況	・ 第三部会：令和 6 年 10 月 3 日、令和 6 年 4 月 23 日、8 月 1 日～2 日に開催。なお、8 月 1 日～2 日は、大阪大学を開催拠点とした地方開催部会であり、併せて上記の公開シンポジウムも開催。 ・ 第三部役員と副会長によって構成される拡大役員会を令和 5 年 10 月 27 日、11 月 27 日、12 月 22 日、令和 5 年 1 月 25 日、2 月 29 日、3 月 25 日、5 月 31 日、6 月 28 日、9 月 30 日（予定）に開催。各分野別委員会委員長も含む拡大役員会を令和 5 年 11 月 27 日、2 月 29 日、3 月 25 日、6 月 28 日に開催。なお、3 月 25 日は理学・工学系学協会連絡協議会を同時開催。		
今後の課題等	第三部傘下の分野別委員会、分科会、小委員会は今期の発足時にある程度整理・統合され、概ね適切に運営されてきている。しかし、意思の表出や公開シンポジウム、委員会運営、連携会員の分科会所属率など活動の質保証という観点から、第三部役員会や分野別委員会相互のコミュニケーション・情報共有をより一層効果的に行う。「人材育成」に関しては、議論すべき観点の整理を行い、第三部として執るべきアクション（施策）についてまとめる。		

(5) 機能別委員会

①選考委員会

選考委員会

選考委員会					
委員長	光石 衛	副委員長	三枝 信子	幹事	吉田 文、神田 玲子
主な活動	審議内容				
	・定年により退任する会員の連携会員への就任について、連携会員候補者名簿を作成し、6月28日の幹事会に提出した。[6月28日] ・定年により退任する会員の後任となる補欠の会員候補者の選考について、補欠の会員候補者名簿を作成し、8月30日の幹事会に提出した。[7月29日]				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年3月25日、6月28日、7月29日				
今後の課題等	・次期改選に向けた選考方針の検討				

②科学者委員会



科学者委員会					
委員長	三枝 信子	副委員長	尾崎 紀夫	幹事	西山 慶彦、関谷 毅
主な活動	審議内容				
	科学者の連携に関して、日本学術会議協力学術研究団体の指定、地区会議との連携などの審議を行うとともに、委員会に設置されている5分科会を取りまとめている。令和6年3月～令和6年8月までに協力学術研究団体は43団体を新たに指定した。また地区会議からは6回の学術講演会の開催があった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	<学術フォーラム> なし <学術講演会> ・北海道地区会議「人間と野生生物の共生のために－北海道の最新研究と実践－」令和5年11月18日 ・中国・四国地区会議「地方大学の持続可能な開発目標（SDGs）へのアプローチ」令和5年11月25日 ・中部地区会議「微生物がつなぐ文理融合研究－野生酵母クラフトビールと地域振興」令和5年12月15日 ・九州・沖縄地区会議「革新的技術の創出によって養殖（水産業）の未来を作る」令和6年3月18日 ・中部地区会議「未病から Well-being を考える」令和6年6月14日 ・近畿地区会議「市民とともにつくる学術知：シチズンサイエンス/シビックテックの挑戦」令和6年9月7日				
開催状況	令和5年11月13日、令和6年1月12日※、令和6年3月15日※、令和6年4月17日※、令和6年5月16日※、令和6年6月18日※、令和6年7月11日※、令和6年8月9日※、令和6年8月23日※				

	※はメール審議 第 26 期総計 9 回開催
今後の課題等	

科学者委員会（ジェンダー・エクイティ分科会）					
委員長	高橋 裕子	副委員長	森 初果	幹事	島岡 まな、熊谷 晋一郎
主な活動	審議内容				
	26 期の活動として「第 6 次男女共同参画基本計画小分科会」、および「包括的反差別法小分科会」を設置し、各小分科会での活動を踏まえて、ジェンダー・エクイティ分科会より提言または見解を発出することが審議された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1）ジェンダー・エクイティ分科会：「提言または見解：第 6 次男女共同参画基本計画に向けた提言/見解」（予定）				
	2）ジェンダー・エクイティ分科会：「提言または見解：包括的反差別法の立法に向けた提言/見解」（予定）				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「ジェンダー・エクイティへの取り組み～ナショナルセンターの役割と将来への期待～」令和 6 年 10 月 10 日（オンライン開催予定）				
	・公開シンポジウム「第 6 次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待」令和 6 年 12 月 22 日（オンライン開催予定）				
開催状況	令和 6 年 3 月 18 日（オンライン）、令和 6 年 4 月 22 日※メール、令和 6 年 6 月 12 日※メール、令和 6 年 7 月 9 日※メール、令和 6 年 7 月 31 日※メール、令和 6 年 8 月 31 日※メール、開催回数：総計 6 回				
今後の課題等	26 期に発出予定の 2 つの「提言/見解」に向けて、2 つのシンポジウム開催等の活動を推進する。				

科学者委員会（学術体制分科会）					
委員長	林 和弘	副委員長	中村 征樹	幹事	杉本 舞
主な活動	審議内容				
	アカデミアの将来と科学技術・イノベーション政策に資する議論を踏まえて第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けた提言を取りまとめた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」（予定）				
	開催シンポジウム等				

	日本学術会議近畿地区学術講演会（令和6年9月7日開催）での話題提供 https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/368-s-0907.html
開催状況	第1回（令和6年2月27日）、第2回（令和6年3月29日）、第3回（令和6年4月25日）、第4回（令和6年5月20日）、第5回（令和6年7月2日）、第6回（令和6年7月26日）
今後の課題等	提言の内容を基本計画への反映するための関係者とのコミュニケーション（提言が予告している日本学術会議の今後の意思の表出の内容を含む）並びに、社会との対話。

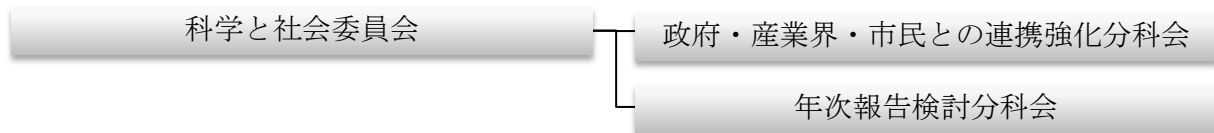
科学者委員会（学協会連携分科会）					
委員長	三枝 信子	副委員長	西山 慶彦	幹事	三尾 裕子、村山 美穂
主な活動	審議内容				
	第25期の学協会連携分科会の活動について報告を行い、第26期の日本学術会議と学協会との連携を進める取組、特に多数の学協会を束ねる学協会連合との連携強化の可能性や、協力学術研究団体からの要望について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年6月19日				
今後の課題等	第26期アクションプランへの当委員会からの貢献を含め、日本学術会議と学協会のより良い連携の進め方について議論を進める。				

科学者委員会（研究評価分科会）					
委員長	尾崎 紀夫	副委員長	関谷 毅	幹事	林 隆之、柚崎 通介
主な活動	審議内容				
	研究評価のあり方について、国際的な動向 DORA (San Francisco Declaration on Research Assessment)、CoARA (Coalition for Advancing Research Assessment) も踏まえ、さらに第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言(学術体制分科会)の内容も参考にして、審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	研究評価のあり方に関する意思の表出の予定。				
	開催シンポジウム等				

開催状況	令和6年3月27日（水）に第一回、令和6年6月3日（月）に第二回の委員会を開催し、DORA 導入後の状況について、東京大学新澤裕子先生（連携会員（特任））および JST 金子理事からヒアリングを実施した。令和6年9月10日（火）に第三回の委員会を開催予定。
今後の課題等	研究評価のあり方に関する意思の表出を如何に進めるか。

科学者委員会（学術研究振興分科会）					
委員長	森田 一樹	副委員長	山本 晴子	幹事	山崎 典子、早川 誠
主な活動	審議内容				
	25 期に 1. 重要な学術研究の計画に関する検討 2. 研究資金（科研費・寄付金等）に関する諸問題の検討 3. 研究評価基準に関する問題の整理と課題の抽出 を経て公表した提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」の周知・普及を行い、国民等の思いやニーズ・関心を把握するための双方向コミュニケーションの充実を図る。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	学術フォーラム「未来の学術振興構想 ー実現に向けてー」開催予定（令和6年10月4日）				
開催状況	第1回 学術研究振興分科会 令和6年2月28日				
今後の課題等	25 期に公表した提言のフォローアップを念頭に、アンケート等を通して、今後 20～30 年先を見通す学術振興の「19 のグランドビジョン」とそれを実現するための「学術の中長期研究戦略」の内容を精査し、必要に応じて更新を検討する。				

③科学と社会委員会

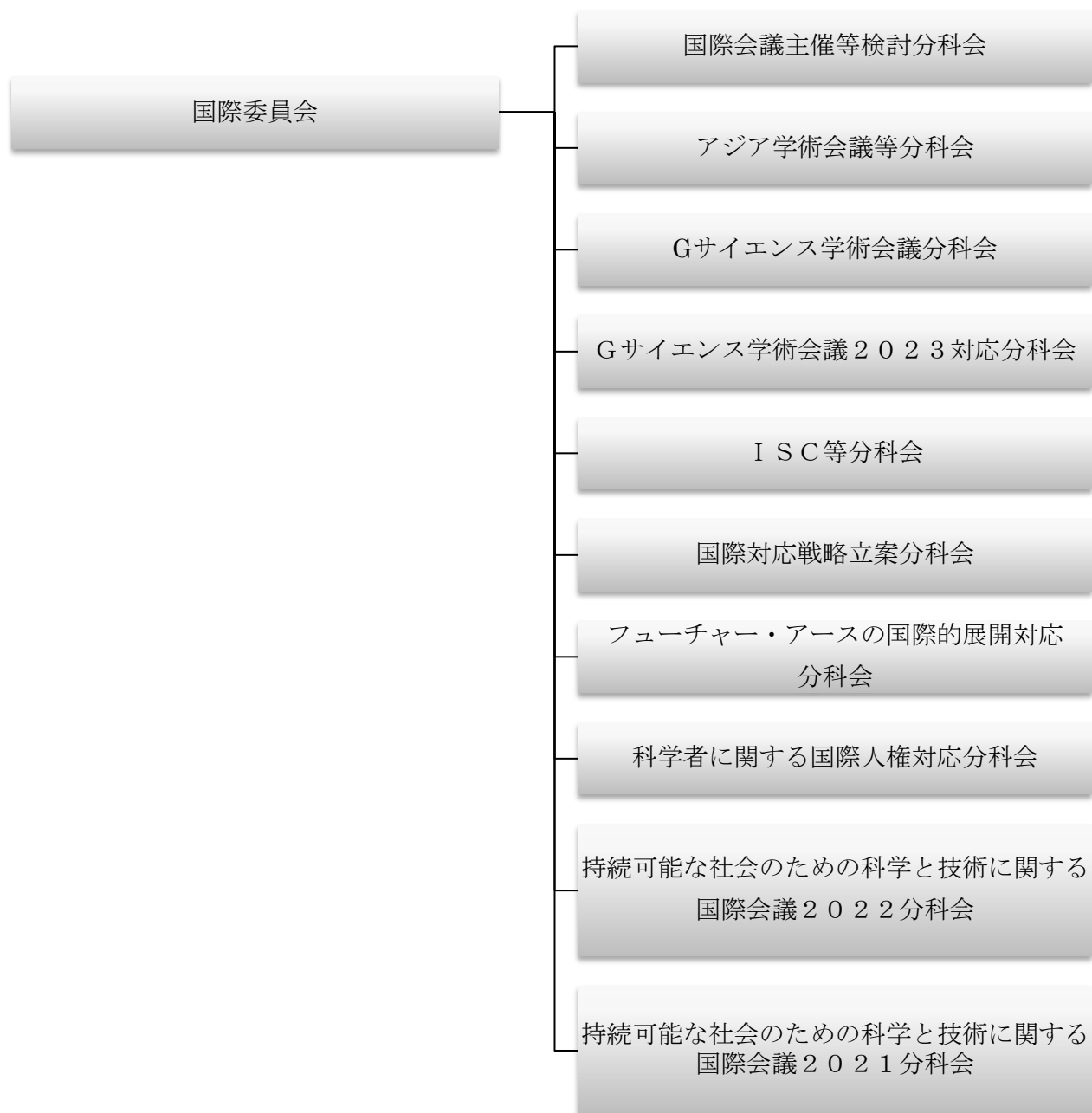


科学と社会委員会					
委員長	磯 博康	副委員長	中村 征樹	幹事	五斗 進、多々納 裕一
主な活動	審議内容				
	・ 役員の選出 ・ 分科会（年次報告検討分科会）の設置 ・ サイエンスカフェ開催時の届け出先を「政府・産業界・市民との連携強化分科会」（前期に設置されていた分科会）から本委員会へ変更（令和5年12月22日の幹事会で承認）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和5年12月19日（第1回）				
今後の課題等	・ 学会会議と政府または産業界との双方向のコミュニケーション （第26期アクションプラン企画WGにおいて産業界に所属する会員との意見交換を実施、COCN（一般社団法人産業競争力懇談会）と日本学会会議会長・副会長等との意見交換を実施予定） ・ 市民との交流 こども霞が関見学デー（令和6年8月7～8日）において、学会会議庁舎内で小中学生や幼児を対象にしたサイエンスカフェやミニゲームなどを実施、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）等との連携活動 ・ 国会議員に対して直接的な意見を伝えていく方法の検討 ・ 意思の表出のフォローアップ・レポート、インパクト・レポートの活用 ・ 社会のニーズに合致した意思の表出に向けて、多様な意見を取り込む方策の検討				

科学と社会委員会（年次報告検討分科会）					
委員長	磯 博康	副委員長	大久保 規子	幹事	奥村 幸子
主な活動	審議内容				

	・役員の決定 ・年次報告（令和 5 年 10 月から令和 6 年 9 月まで）の作成方針の決定：「第 1 編 総論」に「日本学術会議第 26 期アクションプラン」を追加 ・上記作成方針等に基づき各執筆者が作成した年次報告原稿の取りまとめ、確認等
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和 6 年 7 月 25 日、10 月 3 日
今後の課題等	

④国際委員会



国際委員会					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	沖 大幹	幹事	小田中 直樹、堀 正敏
主な活動	審議内容 ・本委員会は、日本学術会議における国際活動の調整及びその他学術会議の国際的対応に関することについて審議している。 ・具体的には、国外で開催される学術に関する国際会議への代表派遣、国内における国際会議の共同主催、アジア学術会議、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議、Gサイエンス学術会議等について審議するとともに、国際学術交流事業の実施に関する内規、各国アカデミーとの交流の活性化、今後の国際活動のあり方などについて審議している。				

	・第26期は、第25期で議論し第184回総会（令和4（2022）年4月）で報告された「日本学術会議の国際戦略～国際活動のさらなる強化に向けて～」（対象期間は第26期（令和8（2026）年9月）まで）を踏まえ、地球規模課題等への対応について、各国アカデミーや国際学術団体等との交流や連携強化、アジア地域におけるリーダーシップの発揮、国内外に向けた情報発信の強化を掲げているほか、日本学術会議第26期アクションプランに基づき国際活動のさらなる強化を目指している。 ・同アクションプランのうち、「ナショナル・アカデミーとしての国際的プレゼンス向上」について、海外のナショナル・アカデミー等との連携を強化し、日本学術会議の国際活動への助言等を行うことを目的とする国際アドバイザリーボードの開催が、第369回幹事会（令和6（2024）年7月29日）で決定された。現在、開催に向けて海外アカデミー等と調整中である。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和5（2023）年11月13日、12月21日※メール、令和6（2024）年2月27日、3月21日※メール、4月19日※メール、6月27日※メール、7月26日※メール、8月29日※メール、9月27日※メール
今後の課題等	国際活動の強化や各分科会の今後の課題等を踏まえた検討。

国際委員会（アジア学術会議等分科会）					
委員長	澁澤 栄	副委員長	佐竹 健治	幹事	—
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、アジア学術会議（Science Council of Asia：SCA）の在り方等の検討及びその活動の推進に関すること並びにアジア科学アカデミー・科学協会連合（The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia：AASSA）への対応に関することについて審議している。 ・令和6（2024）年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を策定の上、令和6（2024）年11月30日～12月2日に開催される第23回アジア学術会議バン格拉デシュ会合への代表派遣者等について審議した。 ・令和6（2024）年10月30日にフィリピンで開催される第6回AASSA総会への代表派遣者について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和6（2024）年2月21日、8月9日※メール
今後の課題等	第23回アジア学術会議バンガラデシュ会合の開催準備及び各種調整等。

国際委員会（ISC 等分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	高田 保之	幹事	後藤 由季子、北村 友人
主な活動	審議内容 ・本分科会は、国際学術会議（International Science Council：ISC）やインターアカデミー・パートナーシップ（Inter Academy Partnership：IAP）等への対応について審議している。 ・ISCには、令和3（2021）年10月以降、執行部に日本人役員2名が参画している。本分科会では、両役員の参加を得て、日本の科学者がグローバルな課題に関する議論に関与し、国際的な活動をリードし貢献できる場として、ISCの活動に積極的に参加すべく意見交換を行った。また、ISC加盟の国際学術団体に役員等として参画する会員等の交流・連携を促進するための会合（プラットフォーム会合）を令和6（2024）年3月27日にオンラインで開催した。 ・IAPの共同声明（IAP加盟アカデミーが起草し、政府等に対して発出）の作成に当たり、起草のためのワーキンググループに日本学術会議より委員を参加させ、本分科会委員に声明案への意見照会を随時行い、日本学術会議の意見を反映させる取組を行っている。 ・ISC及びIAPの新規プロジェクトや共同声明等に関するワーキンググループに参画する委員として、日本人科学者を推薦した。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	令和5（2023）年12月28日、令和6（2024）年1月26日※メール、2月8日※メール				
今後の課題等	令和7（2025）年1月26日～30日にオマーンで開催予定のISC総会に関する情報				

	収集、次回の ISC 及び IAP 役員選挙への対応、ISC や IAP との連携強化等。
--	---

国際委員会（国際会議主催等検討分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	荒井 秀典	幹事	岩井 紀子、中村 卓司
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、国内で開催される各分野の学術に関する国際会議において日本学術会議が主催することについての審議及び開催に関すること並びに後援について審議している。 ・令和 7（2025）年度共同主催国際会議候補を審議し、同候補は令和 6（2024）年 2 月の幹事会で決定された。 ・国際会議の後援について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	期間中 6 件の共同主催国際会議を開催した。				
開催状況	令和 5（2023）年 12 月 12 日、令和 6（2024）年 2 月 6 日、8 月 9 日※メール、9 月 10 日※メール				
今後の課題等	・10 月から申請が始まる令和 8（2026）年度共同主催国際会議についての審議。 ・後援申請についての対応。 ・「日本学術会議が共同主催する国際会議におけるロシアの研究機関等から参加を希望する者についての取扱い」（令和 4（2022）年 8 月、幹事会決定）について、状況の変化に応じた機動的な対応。				

国際委員会（Gサイエンス学術会議分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	高山 弘太郎	幹事	黒橋 禎夫、宮本 悟
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、G 7 サミット参加各国等のアカデミーが、G 7 サミット参加各国の政府首脳に向けて科学的見地から政策提言を行うことを目的とした G サイエンス学術会議でとりまとめられる共同声明について審議している。 ・令和 6（2024）年 4 月の G サイエンス学術会議 2024 に際し、共同声明案の内容等について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和6（2024）年2月8日
今後の課題等	令和7（2025）年に開催予定であるGサイエンス学術会議2025に向けた、共同声明案の内容等に関する審議及び検討。

国際委員会（国際対応戦略立案分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	沖 大幹	幹事	—
主な活動	審議内容				
	・本分科会は日本学術会議が加入している国際学術団体の見直しと、日本学術会議の国際対応戦略に関することについて審議している。具体的には「国際学術交流事業の実施に関する内規」に基づき、加入国際学術団体の見直しのための調査を実施している。第26期では、42団体の加盟国際学術団体の活動調査票等を確認し、外部有識者の参加も得て、それぞれの学術団体への加盟継続の要否について議論することを予定しており、審査に向けた準備を進めている。 ・日本学術会議が国際学術団体に加入し、活動する意義や成果について、国民に分かりやすく発信するための工夫についても審議し、ホームページの改善等を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6（2024）年3月12日、6月7日※メール				
今後の課題等	各加入国際学術団体の活動調査票及びヒアリングに基づく、加入国際学術団体の見直し審査の実施、各加入国際学術団体の活動成果の発信方法に関する検討。				

国際委員会（フューチャー・アースの国際的展開対応分科会）					
委員長	谷口 真人	副委員長	馬奈木 俊介	幹事	谷本 浩志
主な活動	審議内容				

	・本分科会は、日本学術会議が推進しているフューチャー・アースプログラムに関し、その国際的な展開と対応に関することについて審議している。 ・具体的にはフューチャー・アースの国際本部事務局の運営、フューチャー・アース主催の国際会議への日本学術会議代表者の派遣及び同会議への海外からの研究者の招へいについて審議した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和6（2024）年2月22日、4月9日※メール
今後の課題等	フューチャー・アース代表派遣及び招へい方針に則ったフューチャー・アースの国際的な展開への対応。

国際委員会（科学者に関する国際人権対応分科会）					
委員長	日比谷 潤子	副委員長	山口 香	幹事	—
主な活動	審議内容 ・本分科会は、科学者に関する国際的な人権状況及び問題を調査審議し、併せてアカデミー及び学術団体の国際人権ネットワーク（The International Human Rights Network of Academies and Scholarly Societies）への対応に関する事項を審議している。 ・第26期においては、分科会における審議事項の整理、審査基準の見直し、国際人権ネットワークから届くアクション・アラートへの対応等について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6（2024）年3月22日、8月19日				
今後の課題等	国際人権ネットワーク隔年総会への対応。				

国際委員会（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 分科会）					
委員長	加納 圭	副委員長	標葉 隆馬	幹事	岸村 顕広
主な活動	審議内容				
	・本分科会は、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 を開催するために必要な企画立案及び実施準備に関することについて審議することを目的としている。 ・令和 6（2024）年度の同会議は、令和 7（2025）年 2 月 3 日にハイブリッド形式による開催を予定している。 ・会議テーマを「持続可能なイノベーション創出のためのエコシステム～2040 年の科学・学術と社会を見据えて～」に定め、本分科会において、若手研究者を主体に、プログラムの企画立案及び登壇者候補者との連絡調整等の実施準備を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 6（2024）年 5 月 17 日				
今後の課題等	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 の開催準備を遅滞なく進める。				

(6) 課題別委員会

防災減災学術連携委員会

フューチャー・アースの推進と連携に
関する委員会

地球環境変化の人的側面分科会

循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立
社会への移行に関する検討委員会

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討
委員会

防災減災学術連携委員会					
委員長	竹内 徹	副委員長	目黒公郎	幹事	永野正行、山本佳世子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む） 防災減災の重要事項に関して分野横断的に審議し、意思の表出を目指している。防災学術連携体（防災に関わる 62 学協会のネットワーク）と連携してシンポジウム等を開催するとともに、政府の防災推進国民会議の一員として関係省庁や関係機関との連携を図っている。 意思の表出（※予定含む） 意思の表出に向けて、対象となるテーマについて検討を開始した。 開催シンポジウム等（※予定含む） 防災学術連携体と共催で、令和 6 年 3 月 25 日に公開シンポジウム「人口減少社会と防災減災」・「令和 6 年能登半島地震 3 ヶ月報告会」、7 月 30 日に「令和 6 年能登半島地震 7 ヶ月報告会」、8 月 22 日に「第 6 回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会：令和 6 年能登半島地震災害における課題と教訓」の 4 つを開催した。また 10 月 19 日（土）～10 月 20 日（日）に熊本で開催される防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2024（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の期間内に第 19 回防災減災学術連携公開シンポジウム『土地を知り、土砂災害・地盤災害に備える』の開催について（案）を計画している。				
開催状況	第 1 回：令和 6 年 2 月 1 2 日 第 2 回：令和 6 年 8 月 2 2 日				
今後の課題等	近年、巨大地震の発生が危惧されるとともに気候災害のリスクが高まっている。分野横断的な議論を行い、防災減災に資する意思の表出を目指したい。				

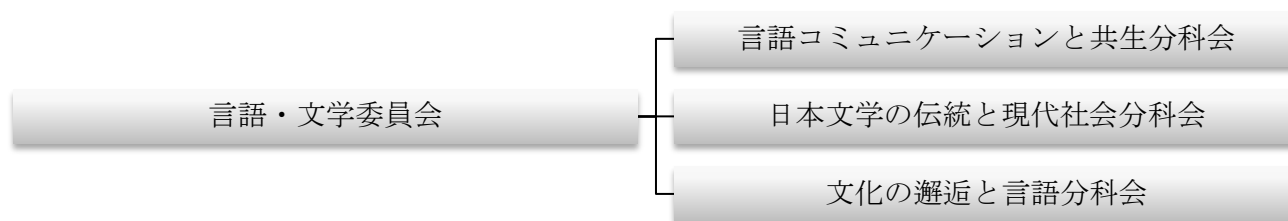
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会					
委員長	沖大幹	副委員長	亀山康子	幹事	近藤康久、張勁
主な活動	審議内容				
	研究、イノベーション、そして社会との協働により持続可能な社会への転換を目指す国際的な研究ネットワークである Future Earth の国内における推進と連携について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	審議して決定				
	開催シンポジウム等				
	審議して決定				
開催状況	第1回：令和6年4月12日、第2回：メール審議（令和6年4月18日～4月30日）、第3回：令和6年9月6日開催予定				
今後の課題等					

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（地球環境変化の人的側面分科会）					
委員長	谷口真人	副委員長	山下 潤	幹事	豊田光世、渡辺浩平
主な活動	審議内容				
	1. 地球環境変化の人的側面に係る課題の抽出と対応 2. 持続性国際プログラムや機関等との連携と社会貢献				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第1回令和6年7月26日				
今後の課題等	Future Earth、SDGs 等の持続性国際プログラムを成功させる上で地球環境変化の人的側面研究・教育の深化と振興の重要性は益々高まっており、第2回以降の分科会で、取り組むべき課題を精査した上で、シンポジウムを通じて論点を明確にし、意思の表出に向けた審議を進める。				

循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会					
委員長	森口祐一	副委員長	城山英明	幹事	鈴木朋子、野口和彦
主な活動	審議内容				
	炭素中立（カーボンニュートラル）、循環経済（サーキュラーエコノミー）、自然再興（ネイチャーポジティブ）は、いずれも極めて多岐にわたる観点から検討すべきテーマであるが、本委員会では、特に「2050年カーボンニュートラル」の実現という喫緊の課題に対応するため、循環型で自然資本を持続可能に活用する社会を目指すという視点に基づき、サーキュラーエコノミー及びネイチャーポジティブとの関係性や必要な施策等の諸課題を明らかにする。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和7年夏～秋頃の発出を目標に、提言案をまとめる予定。 意思の表出にあたっては、誰に向けたものかを意識し、俯瞰的でありつつも、主要分野の好事例を示すなど、具体的な対応に結び付く内容を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	現時点では未定だが、今後、開催について検討。				
開催状況	第1回：令和6年6月21日、第2回：令和6年7月23日 第3回：令和6年8月21日、第4回：令和6年9月19日				
今後の課題等					

（７）分野別委員会

①言語・文学委員会



言語・文学委員会					
委員長	原田範行	副委員長	平田オリザ	幹事	植木朝子、定延利之
主な活動	審議内容				
	日本学術会議の設置趣旨に則り、言語（日本語、外国語、言語一般）および文学（日本文学、諸外国の文学、文学一般）について審議を行い、わが国のこの分野に関する研究や教育、文化的活動の興隆を期して、適切に意思の発出を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26 期初年度である今年度は、本委員会の審議項目を精査するとともに研究および教育、文化的活動のさまざまな可能性を、分科会活動等を中心に進めており、目下のところ、意思の表出の予定はない。				
	開催シンポジウム等				
	分科会を軸に、課題を整理し、社会的交流・発信の機会としてシンポジウムを開催する予定で、今後、具体的な日程および内容を調整する予定である。				
開催状況	3 回開催（令和 5 年 10 月 4 日、令和 6 年 2 月 13 日、令和 6 年 4 月 24 日）。				
今後の課題等	生成 AI の利活用を含め、言語・文学をめぐる社会的環境は大きく変化している。この状況を適切に踏まえ、諸課題を十分に精査した上で、意義ある社会的発信を行う。				

言語・文学委員会（言語コミュニケーションと共生分科会）					
委員長	定延 利之	副委員長	平田 オリザ、庵 功雄、傳 康晴	幹事	林 良子
主な活動	審議内容				
	・第 1 回分科会では、役員、開催頻度、方針を決定した。 ・第 2 回分科会では、今後の活動計画について検討・決定した。 ・第 3 回分科会では、設置目的にある「話す言語（手話なども含む）や、話し方に由来する不平等」に関する理解を深めるために、高嶋由布子氏（国立障害者リ				

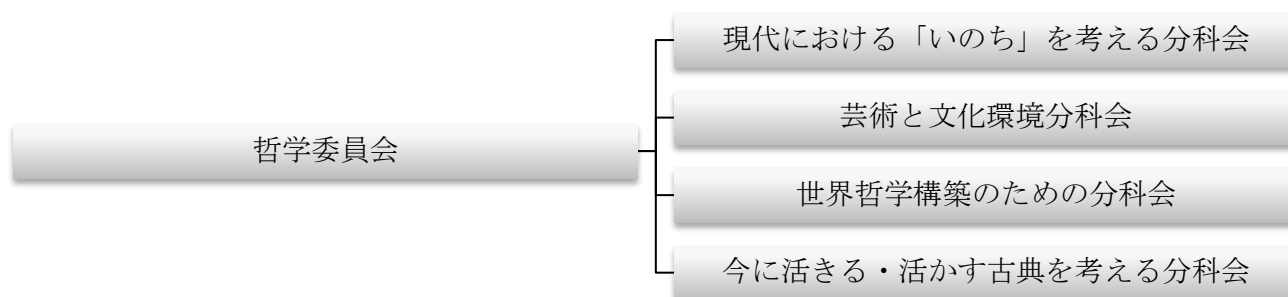
	ハビリテーションセンター）・杉本篤史氏（東京国際大学）を参考人として招致し、「日本手話をめぐる諸問題」についてご講演頂き、質疑応答を行った。 ・第4回分科会では、設置目的にある「周囲とのコミュニケーションがうまくとれないという人々の悩み」に関する理解を深めるために、合崎京子氏（麗澤大学）・浦野茂氏（三重県立看護大学）を参考人として招致し、「発達障害／精神障害者のコミュニケーションとその諸問題」についてご講演頂き、質疑応答を行う。
	意思の表出（※見込み含む）
	無し。
	開催シンポジウム等
	無し。
開催状況	令和6年3月20日 第1回分科会（オンライン開催） 令和6年6月8日 第2回分科会（オンライン開催） 令和6年8月9日 第3回分科会（ハイフレックス開催） 令和6年9月15日 第4回分科会（オンライン開催）
今後の課題等	設置目的に掲げたテーマについて更に理解を深め、まずは見解の作成を目指す。

言語・文学委員会（日本文学の伝統と現代社会分科会）					
委員長	植木朝子	副委員長	原田範行	幹事	海野圭介
主な活動	審議内容 設置目的を確認し、グローバル化が進む社会と、指導要領の改訂により若い世代が文学作品（古典作品）に触れる機会がますます減ることが危惧されている教育現場の状況も踏まえ、日本文学への理解を深める方法を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回：令和6年7月29日（月） 13時～13時50分 オンライン開催				
今後の課題等	構成員のプレゼンテーションを行い、外国文学、観光、美術、演劇、伝統話芸、情報学、漫画、アニメ、ゲームといった領域を視野に入れ、構成員の専門分野を生かして、日本文学の普及や古典の現代的活用について提言することを目指す。				

言語・文学委員会（文化の邂逅と言語分科会）					
委員長	原田範行（予定）	副委員長	審議中	幹事	審議中
主な活動	審議内容				

	言語・文学を基盤に据えた異文化間交流や多様な文化的国際交流の進化・発展は、国際社会におけるわが国の重要かつ喫緊の課題であり、①国際情勢や言語情報に関わる現況を踏まえた、言語文化交流に関する新たな指針の策定、②この指針の実現のための実践的な言語文化交流の具体的な方策についての検討、を主たる審議内容とする。哲学委員会とも連携しつつ審議を行う。
	意思の表出（※見込み含む）
	令和 6 年 7 月に分科会設置の承認を受け、活動内容を検討中である。
	開催シンポジウム等
	令和 6 年 7 月に分科会設置の承認を受け、活動内容を検討中である。
開催状況	令和 6 年 9 月に第 1 回分科会を開催予定である。
今後の課題等	審議・活動内容を決定した上で、ただちにこれを実施する予定である。

②哲学委員会



哲学委員会					
委員長	河野 哲也	副委員長	吉水 千鶴子	幹事	奥田太郎、中村征樹
主な活動	審議内容				
	令和 6 年における公開シンポジウムの日程、テーマ、登壇者について協議した。iPS 細胞や ES 細胞から脳組織を人工的につくる脳オルガノイド研究が大きく発展しているが、科学者とともに、倫理学・哲学・宗教学の観点から脳組織を人工的につくることの意味について多角的に検討する公開シンポジウムを、10 月 26 日にオンラインで開催することを決定した				
	意思の表出（※見込み含む）				
	哲学委員会として意思の表出を行う具体的な予定はない。				
	開催シンポジウム等				
	令和 5 年 11 月 25 日「AI 時代における哲学・美学・宗教学・倫理学」（オンライン開催）				
開催状況	令和 5 年 10 月 9 日（オンライン）、11 月 17 日（オンライン）、11 月 25 日（オンライン）、4 月 23 日（対面、日本学術会議）、5 月 6 日（オンライン）				
今後の課題等	さまざまな自然科学と人文社会科学の分野を繋げる活動を分科会への参加などを通して継続的に行う。同時に、日本哲学系諸学会連合（JFPS）が主催となって第 26 回 WCP（2028 年）が東京で開催されることが決定したため、哲学系諸分野の世界的な連帯と、包括的な対話のための国際的プラットフォームづくりにも積極的に取り組んでいく。				

哲学委員会（現代における「いのち」を考える分科会）					
委員長	安藤 泰至	副委員長	土井 健司	幹事	川端 美季
主な活動	審議内容				
	安楽死・尊厳死をめぐる国内および海外の状況および近年におけるその変化をふまえて、そこに含まれる問題点について、哲学・倫理・宗教・法学・看護学などの異なった分野の知見をすり合わせながら検討した。				

	意思の表出（※見込み含む）
	この一年間はもっぱら基本となる問題意識を共有することと、さまざまな分野からどのようにこの問題がとらえられるのかを検討し、見極める作業に終始したため、意思の表出は行っていない。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第1回分科会：令和6年2月2日、委員長・副委員長・幹事を選出し、今期のテーマと今後の予定について審議。 第2回分科会：令和6年4月27日、キリスト教と安楽死をめぐる土井健司委員の報告をもとに審議。 第3回分科会：令和6年7月4日、参考人として招聘した有馬斉氏の講演「安楽死の合法化に関する倫理的論点」とそれをめぐる質疑応答。 第4回分科会：令和6年8月25日、安楽死をめぐるメディア報道についての安藤泰至委員の報告をもとに審議。
今後の課題等	同テーマについて、現代日本社会における喫緊の状況をより具体的に知るべく、日本尊厳死協会の関係者や、異なる立場の医師などから話を聞く必要がある。

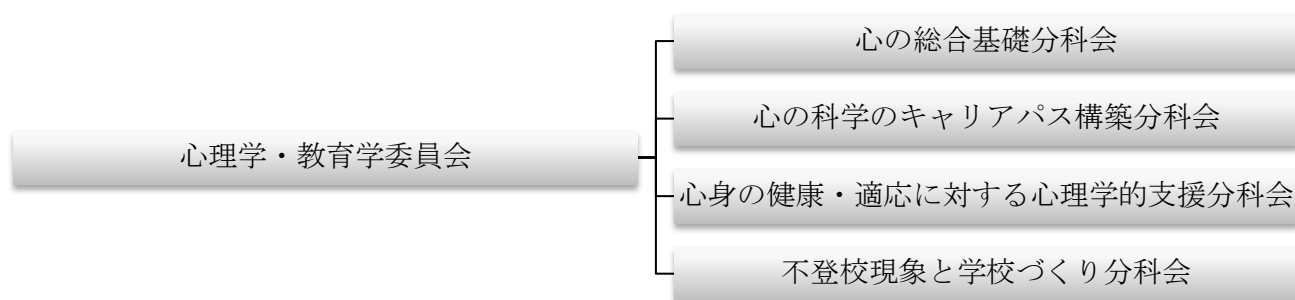
哲学委員会（芸術と文化環境分科会）					
委員長	吉岡 洋	副委員長	上原 麻有子	幹事	澁谷 政子
主な活動	審議内容				
	・「共通感覚」というテーマのより具体的・異分野横断的な展開。 ・オンライン配信を併用しつつ、参加者の交流という点から対面開催を基本とした公開シンポジウムの検討。 ・シンポジウムという形以外の、広く社会に還元できるような発信方法の模索。 ・様々なニーズや困難を抱えている人にとっての文化活動の役割の検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今のところ予定なし。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和6年2月21日 ※オンライン				
今後の課題等	25期に進めていた公開シンポジウムの計画をもとに、新しいテーマや活動形態も取り込んだ実施に向けてテーマや開催方法等を検討中。				

哲学委員会（世界哲学構築のための分科会）					
委員長	河野 哲也	副委員長	納富 信留	幹事	伊藤 亜紗
主な活動	審議内容				
	本「世界哲学」分科会の目的・趣旨は、「世界哲学」の理念を掲げながら、そのプラットフォームとなる国際的な連携を構築することにあることを確認し、とりわけ、FISP（la Fédération Internationale des Sociétés de Philosophie）による世界哲学会（World Congress of Philosophy: WCP）を日本招致することによって、この目的を追求する可能性について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和 6（2024）年 8 月 1 日から 8 日にかけて第 25 回 WCP がローマ（イタリア）で開催され本会委員が複数、参加。8 月 4 日の FISP 総会にて、令和 10（2028）年第 26 回 WCP が東京で開催されることが決定した。				
開催状況	令和 6 年 3 月 1 日、令和 6 年 8 月 6 日※メール				
今後の課題等	日本哲学系諸学会連合（JFPS）が主催となって、第 26 回 WCP が東京で開催されることが決定したため、それに向けて世界哲学の理念を整備し、国内外での実質的な準備を行う必要がある。				

哲学・心理学・教育学委員会合同（今に生きる・活かす古典を考える分科会）					
委員長	加藤隆宏	副委員長	頼住光子	幹事	八尾史
主な活動	審議内容				
	本分科会は、文学、教育、医療看護の専門分野の協力を得て、高校生、教員、医療看護の関係者や市民への調査と対話を通して「古典」の役割と活用方法を審議し、オンラインやデジタルデータを活用した古典と接する機会の創出をボトムアップで提言することを目指している。設置初年度となる今年度は今後の分科会の活動の方向性や具体策について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	大学共通テストの科目変更などに伴い、古典を含む倫理教育の現場にも影響が出ている。高校教員や現役高校生などの現場からの声を吸い上げ、高校等における古典教育環境の維持、確保などに関する意思の表出について準備を進めたいと考えている。				
	開催シンポジウム等				

開催状況	第1回 令和6年2月24日 第2回 令和6年8月26日
今後の課題等	・現在、高校生や大学生にむけて古典に関するアンケートの実施を検討している。アンケート結果を分析し、若い世代にむけてどのようなアプローチができるか検討を続ける。 ・東京都高等学校公民科「倫理」「公共」研究会（略称：都倫研）と連携をとりながら、主に高校における古典教育の課題を共有し、解決にむけて協働していく。 ・市民、大学生・高校生などとの対話などを通じて、「今に生きる・活かす古典」という本分科会のメッセージを社会に伝えていくべく、シンポジウムやワークショップなどを企画していく。 ・分科会メンバーが高校などに出向き、古典に関する授業などを展開する。都倫研メンバーと連絡をとりながら実施する。 ・2028年に東京開催が決まった世界哲学会議（WCP）でのパネル発表などについて、分科会内で企画案を検討する。 ・新学習指導要領（古典に関するもの）について、分科会からのどのような貢献が可能かを検討する。

③心理学・教育学委員会



心理学・教育学委員会					
委員長	坂田省吾	副委員長	勝野正章	幹事	明和政子・西岡加名恵
主な活動	審議内容				
	第 26 期の開始にあたり、中長期的視点と俯瞰的視野と分野横断的な検討の点から分科会の全面見直しを行った。心理学・教育学委員会が中心となって活動する分科会は 4 つになった。各分科会の委員長は結果として会員が務めることになった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期中に意思の表出ができるように各分科会内で議論が進んでいる。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和 6 年 3 月 9 日「大学における教員養成の未来－「グランドデザイン」をめぐって」				
	令和 6 年 7 月 28 日「不登校に関する政策動向」				
	令和 6 年 9 月 23 日「心理学国家資格「公認心理師」の社会的役割と活動の実際」				
今後の課題等	分科会の絞り込みのため数がすくなくなったことにより、未所属の連携会員が出ているので広く分科会活動の広報をする等の対策を考える必要がある。				

心理学・教育学委員会（心の総合基礎分科会）					
委員長	坂田省吾	副委員長	齋木潤	幹事	川合伸幸・綾部早穂
主な活動	審議内容				
	第 25 期にまとめた心理科学総合研究所構想のような心の基礎研究について総合的に広く議論する場所を作り、第 26 期で社会に向けての意思の表出を目指すことを検討している。				

	意思の表出（※見込み含む）
	「見解」を公表するための準備中である。
	開催シンポジウム等
	国民からの意見を求めることも含めてシンポジウム開催について検討中である。
開催状況	第1回 令和6年3月28日 ハイブリッド開催 第2回 令和6年9月5日 オンライン開催
今後の課題等	「見解」の内容を広く公表するためのシンポジウム計画について検討中である。

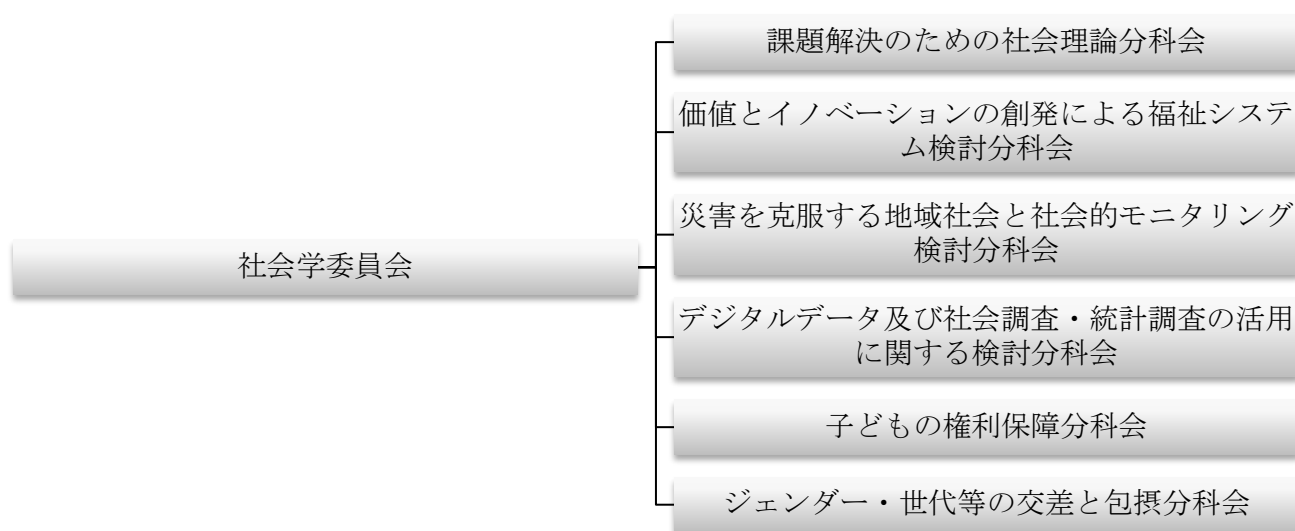
心理学・教育学委員会(心の科学のキャリアパス構築分科会)					
委員長	河原純一郎	副委員長	蒲池みゆき	幹事	伊丸岡俊秀, 高瀬 堅吉
主な活動	審議内容				
	第1回分科会では、第26期日本学術会議の組織構成、心理学・教育学委員会における本分科会の設置趣旨について世話人より説明した後、委員長の選任および役員の指名を行った。今後の取り組みとして、1) 高大接続(入口)の課題および学部卒業または修士・博士課程修了後の社会との接続(出口)までを射程とした課題について議論すること、2) その成果を「意思の表出」としてとりまとめること、を本分科会の目標とすることを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中に意思の表出ができるように分科会内で議論を進めようとしている。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	第1回 令和6年5月10日 オンライン開催 第2回 令和6年9月10日 オンライン開催(予定)				
今後の課題等	心理学と関連領域のキャリアパス構築に関して、上記「入口」「出口」ごとに意見の表出に向けた具体的な目標を設定する必要がある。				

心理学・教育学委員会・社会学委員会・法学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同(心身の健康・適応に対する心理学的支援分科会)					
委員長	嶋田 洋徳	副委員長	熊野 宏昭	幹事	佐々木 淳、佐藤 徳
主な活動	審議内容				
	分科会の開始に際し、公認心理師制度を取り巻く最新情報の共有を行った。公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野における活動を行っているが、その内容や専門性の発揮の仕方、具体的な社会貢献に関する				

	る実態は不明瞭な点が多い。そのため、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課公認心理師制度推進室、主要5分野の各エキスパート研究・実践者、公認心理師職能団体の代表者を交えた公開シンポジウムを行うこととした。 意思の表出（※見込み含む） 第26期中に意思の表出ができるように議論の準備を行っている。 開催シンポジウム等 令和6年9月23日 「心理学国家資格「公認心理師」の社会的役割と活動の実際」
開催状況	令和6年5月10日 オンライン開催
今後の課題等	公認心理師の主要5分野の各特徴に応じたエビデンスに基づく具体的な社会貢献のあり方に関して引き続き検討する必要がある。

心理学・教育学委員会（不登校現象と学校づくり分科会）					
委員長	西岡加名恵	副委員長	酒井朗	幹事	勝野正章・山名淳・伊藤美奈子
主な活動	審議内容 ・本分科会は、不登校をめぐる研究や実践の蓄積を集約するとともに、今後、求められる「学校」の概念、ならびに学校づくりの方向性について審議している。 ・第1回・第2回の分科会においては、重点的に扱うべき課題を検討するとともに、第26期中に「報告」をまとめるという方針について審議した。また、公開シンポジウムを複数回開催することにより、議論を深めていくという方針を定めた。 意思の表出（※見込み含む） 第26期中に「報告」を出せるよう、議論を進めている。 開催シンポジウム等 令和6年7月28日 公開シンポジウム「不登校に関する政策動向」（オンライン開催）				
開催状況	第1回 令和6年3月20日 ハイブリッド開催 第2回 令和6年7月28日 オンライン開催				
今後の課題等	第2回公開シンポジウムは「『学びの多様化学校』の学校づくりに学ぶ（仮）」、第3回公開シンポジウムは「不登校現象に関する研究の到達点（仮）」をテーマとする方向で検討を進めている。また、「報告」の内容について、今後、審議を進める予定である。				

④社会学委員会



社会学委員会					
委員長	白波瀬佐和子	副委員長	和気純子	幹事	阿部彩・有田伸
主な活動	審議内容				
	第 26 期社会学委員会では、(1)課題解決のための社会理論分科会、(2)デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用に関する検討分科会、(3)震災を克服する地域社会と社会的モニタリング検討会、(4)子供の権利保障分科会、(5)価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会、(6)ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会」の 6 分科会を設定し、現代社会が直面する課題、デジタル、災害、子ども、ジェンダー・世代、福祉システム等、政策議論をより意識した。特に分科会 4 は、哲学委員会、心理学・教育学委員会、法学委員会、経済学委員会と積極的な連携体制をとっており、異なる分野との積極的な議論も進めていく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム（社会学系コンソーシアムとの共催）「なぜ、社会的孤立は問題なのか？」（令和 6 年 3 月 9 日 13:00~16:30 オンライン開催）				
開催状況	第 1 回社会学委員会（令和 5 年 10 月 4 日 ハイブリッド形式にて開催）				
今後の課題等	現代社会の課題について、6 つの分科会での検討内容には重複部分があるので、適宜、情報共有に努める。				

社会学委員会（課題解決のための社会理論分科会）					
委員長	遠藤 薫	副委員長	山田真茂留	幹事	有田伸・筒井淳也
主な活動	審議内容				
	現代山積する社会的諸課題に対して、社会理論は大いに貢献しうるが、同時に、様々な他分野（人文社会科学系だけでなく、理工学や医学なども含む）との連携が必要である。その実現のために必要な具体的活動について、審議を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告もしくはそれに準ずる文書などを発刊予定。				
	開催シンポジウム等				
	今後開催予定				
開催状況	第1回委員会 令和6年3月29日 13:00～15:00 第2回委員会 令和6年8月26日 17:00～19:00				
今後の課題等	審議内容を踏まえて、他分野との連携による具体的実践を実現する。				

社会学委員会（価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会）					
委員長	和氣 純子	副委員長	金子 光一	幹事	木下 武徳、永田 祐
主な活動	審議内容				
	旧来型の福祉システムでは対応が困難な課題の増大に鑑み、包括性、多様性、当事者性、協働性、持続可能性等の価値の検討をふまえ、情報通信技術や人工知能などのイノベーションにより創発される新たな福祉システムのあり様を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「見解」の表出を行う予定にしている。				
	開催シンポジウム等				
	2025年1月にシンポジウムの開催を予定している（9月の幹事会に起案予定）。				
開催状況	令和6年3月20日 第1回分科会開催 令和6年7月7日 第2回分科会開催				
今後の課題等	2026年1月開催予定のシンポジウムをふまえ、新たな福祉システムに関する具体的な検討を行い、見解の骨子を議論し、見解の素案を検討する。				

社会学委員会（災害を克服する地域社会と社会的モニタリング検討分科会）					
委員長	山下祐介	副委員長	町村敬	幹事	池田恵子・中澤秀雄
主な活動	審議内容				
	本分科会では、東日本大震災に代表される災害事象に加え、パンデミックによる災禍等を視野に入れ、それらを地域社会及びそこに暮らす住民がどう受け止め、次の世代に受け渡していくかを長期的体系的に検討するものである。災害を克服する地域社会と社会的モニタリングのあり方 について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中である				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウム開催を検討中				
開催状況	令和6年（2023）年3月14日オンライン開催、9月オンライン開催予定				
今後の課題等	本年1月の能登半島地震、8月の南海トラフ地震臨時情報の発令など、災害と社会にかかわる課題は年々その質を変化させており、引き続き本分科会では日本の災害課題を社会と人間の関係のうちに析出していく。				

社会学委員会（デジタルデータ及び社会調査・統計調査の活用に関する検討分科会）					
委員長	浅川 達人	副委員長	瀧川 裕貴	幹事	玉野 和志、村上 あかね
主な活動	審議内容				
	1. 第25期が作成を進めた「報告 社会調査・統計調査データの政策的な活用のために」を基に、本分科会で協議して、意思の表出を行うことを決めた。 2. 生成AIを含むデジタルデータの活用について、現状を把握し、問題点を検討し、ガイドラインの作成に取り組むことを決め、専門家へのヒアリングを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「報告 社会統計・統計調査データの政策的な活用のために」について議論し、「報告」の発出手続きを進めることを決めた。				
	開催シンポジウム等				
	活動の進捗を見極めつつ、今年度中にシンポジウムを開催することができるか、検討する予定である。				

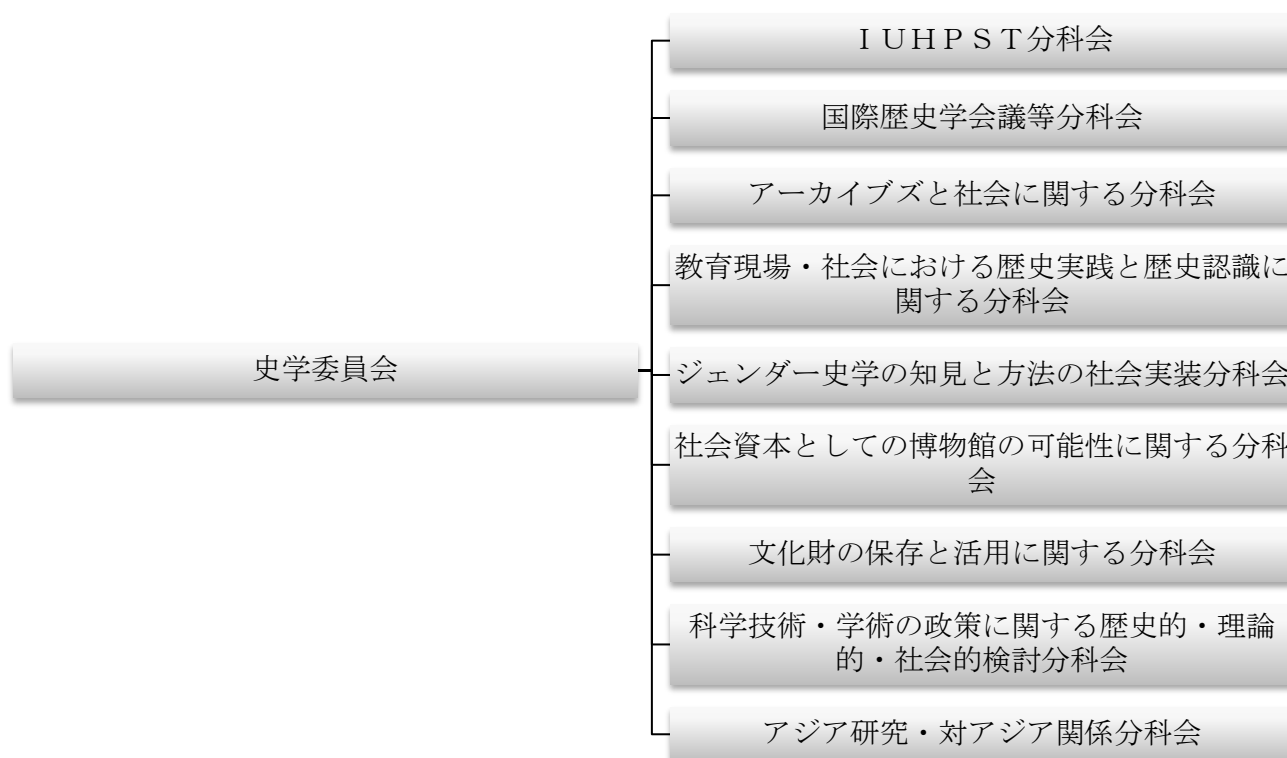
開催状況	令和6年3月5日：オンライン会議システム併用のハイブリッド開催。令和6年6月10日：オンライン開催。9月にも分科会を開催する予定で準備を進めている。
今後の課題等	従来主流であった社会調査（対面、留置、郵送、電話など）以外の方法によるデータ収集について、さらに数名の専門家に対してヒアリングを行う予定である。

社会学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・法学委員会・経済学委員会合同（子どもの権利保障分科会）					
委員長	阿部 彩	副委員長	河野 哲也	幹事	木村 草太
主な活動	審議内容				
	新しい分科会を立ち上げ、第一回の分科会を開催、3つのワーキング・グループ（子どもデータ、親権・意見表明権、学校教育）を作成した。子どもデータWGでは他の関連部会との連携、親権については6月の法改正を受けての今後の方針、教育については教育格差や不登校に対する参加型教育などについて議論し、今後の提言・シンポジウムなどに向けての企画を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和6年3月に第1回分科会を開催し、その後、3つのワーキング・グループにて、それぞれオンライン会議やメール審議を数回ずつ開催している。				
今後の課題等	各ワーキング・グループからの検討状況を共有し、分科会としての今後の提言・シンポジウム等の企画を進める。				

社会学委員会（ジェンダー・世代等の交差と包摂分科会）					
委員長	白波瀬佐和子	副委員長	大沢真理	幹事	河野銀子・住居広士
主な活動	審議内容				
	本委員会は、ジェンダー研究分科会と包摂的社会政策に関する多角的検討分科会を発展的に統合して設立した。統合の趣旨は、ジェンダーや少子高齢化で代表される世代間関係に着目し、包摂的な社会の構築に向けて、雇用や教育、社会保障や福祉政策といった制度設計にも踏み込んだ政策議論を展開することにある。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	第1回：令和6年3月28日（オンライン） 9月3日にオンラインにてインフォーマルな議論を経て、10月ごろ、第2回会議を開催する予定で日程調整中である。
今後の課題等	二つの分科会の発展的統合ということで組織づくりに時間がかかり、議論の開始時期が遅れてしまった。限られた時間の中で、本分科会が対象とするテーマが多い中、正式な委員会に加えて、インフォーマルな打ち合わせの形をとりいれつつ、具体的、かつ波及効果のある議論を目指す。

⑤史学委員会



史学委員会					
委員長	大橋幸泰	副委員長	芳賀満	幹事	松本直子・吉澤誠一郎
主な活動	審議内容				
	第 26 期の分科会編成について、議論した。個別の課題はそれぞれの分科会で検討することになるが、特に進めるべき課題として、日本学術会議のアーカイブズの保全と公開を進めることを確認した。具体的には、アーカイブズと社会に関する分科会で議論することになるが、史学委員会としてもこれをバックアップしたい旨、合意を得た。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
・公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐる（7））－「歴史総合」の授業と教員養成を検討する」（令和 5 年 10 月 28 日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用）					
・公開シンポジウム「第 29 回史料保存利用問題シンポジウム 裁判記録の現状と課題―保存と公開体制の確立を―」（令和 6 年 6 月 22 日開催、日本歴史学協会と					

	共催、対面・オンライン併用)
開催状況	第1回委員会、令和5年10月4日対面・オンライン併用開催 第2回委員会、令和5年11月3日オンライン開催 第3回委員会、令和6年4月22日対面・オンライン併用開催
今後の課題等	・アーカイブズと社会に関する分科会と協力して、日本学術会議のアーカイブズの保全と公開を進めること。

史学委員会 (IUHPST 分科会)					
委員長	隠岐さや香	副委員長	溝口元	幹事	佐野正博
主な活動	審議内容				
	国際科学史・技術史・科学基礎論連合 (IUHPST/DHST 及び IUHPST/DLMPST) への日本からの代表派遣・運営協力や日本の当該分野の国際発信・研究と教育振興のための情報共有および審議を行った。今期は特に DHST の Respectful Behavior Policy 改訂や DLMPST と DHST の連携について議論があった。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 令和5年(2023年)11月26日 第2回 令和6年(2024年)5月16日 第3回 令和6年(2024年)8月30日				
今後の課題等	IUSPST における日本の貢献をはかりつつ、同組織の動向を受けて国内向けに意志の表出をするかどうか検討していく。				

史学委員会 (国際歴史学会等分科会)					
委員長	吉澤 誠一郎	副委員長	小関 隆	幹事	浅田 進史、松方 冬子
主な活動	審議内容				
	・国際歴史学会議 (CISH) の国内委員会としての活動方針、特に令和6年10月総会の東京開催に伴う準備について ・日韓歴史家会議の運営について				
	意思の表出 (※見込み含む)				

	予定なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和6年1月31日
今後の課題等	令和6年10月総会の東京開催に伴う国際学術会議を成功させる。日韓歴史家会議を適切に継続していく。「歴史学の国際化とは何か」をめぐる議論を活性化する。

史学委員会（アーカイブズと社会に関する分科会分科会）					
委員長	大橋幸泰	副委員長	太田尚宏・奥村弘	幹事	岸本覚・西田かほる
主な活動	審議内容				
	第25期に発出した提言「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料、記録、記憶の保全と継承のために」のフォローアップと、大学におけるアーカイブズ教育の充実の方策について議論した。また、緊急を要する課題として、日本学術会議のアーカイブズの保全と公開を進めるための方策について着手した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「第29回史料保存利用問題シンポジウム 裁判記録の現状と課題—保存と公開体制の確立を—」（令和6年6月22日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用）				
開催状況	第1回分科会、令和6年2月23日オンライン開催 第2回分科会、令和6年7月7日オンライン開催				
今後の課題等	・大学におけるアーカイブズ教育の充実をはかるため、現状、どのような関連科目が開講されているか、情報を集めること。 ・日本学術会議のアーカイブズの保全と公開を進めるため、具体的な方策を策定すること。				

史学委員会（教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会）					
委員長	大橋幸泰	副委員長	鈴木茂	幹事	三時眞貴子・中村元哉
主な活動	審議内容				

	第 25 期に発出した見解「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題—対話に基づく複眼的把握と開かれた歴史教育をめざして—」をふまえて、教育現場や社会における歴史実践を進めていく課題について議論した。とりわけ、パブリックヒストリーの方法と課題、高等学校新課程に対応する教員養成のあり方について重点的に意見を交換した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(7)）—「歴史総合」の授業と教員養成を検討する」（令和 5 年 10 月 28 日開催、日本歴史学協会と共催、対面・オンライン併用）
開催状況	第 1 回分科会、令和 6 年 2 月 12 日オンライン開催 第 2 回分科会、令和 6 年 6 月 16 日オンライン開催
今後の課題等	・歴史教育の高等学校と大学との接続を視野に入れた、高校新課程に対応する歴史系教員養成の方法について議論を重ねること。

史学委員会（ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会）					
委員長	長 志珠絵	副委員長	高橋 裕子	幹事	小浜 正子、來田 亨子
主な活動	審議内容 ジェンダー史学の知見と方法の社会実装をめぐって、第 24 期・第 25 期の課題の確認および課題をふまえ、今期での見解等の発出およびシンポジウムの内容について検討を進めている。 意思の表出（※見込み含む） 見解（見込み） 開催シンポジウム等 令和 7 年度末に開催予定				
開催状況	令和 6 年 2 月に設置、令和 6 年 4 月 21 日第一回分科会開催、令和 6 年 8 月に連携会員（特任）追加案件の認定、令和 6 年 9 月 23 日第二回分科会開催				
今後の課題等	令和 6 年 11-12 月に第 3 回分科会開催予定 日程調整中（分科会内部より提題）				

史学委員会（社会資本としての博物館の可能性に関する分科会）					
委員長	芳賀満	副委員長	木俣元一	幹事	金沢文緒、橋本佳延
主な活動	審議内容				
	前期で発出した見解『2022 年改正博物館法を受けて 今後の博物館制度のあり方について』（2023 年）を踏まえて、現代社会における博物館機能の可能性に関して審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意志の表出に関してはまだ審議に至っていない。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	2024 年 4 月 26 日に第 1 回会合を開催した。				
今後の課題等	制度設計から 70 年以上の年月が経ち現状との乖離が激しい、現在の登録博物館制度の抜本的な改革の必要性を継続して社会に訴えてゆく。社会における博物館のあり方、特に社会資本としての博物館のあり方を具体的に検討する。				

史学委員会（文化財の保護と活用に関する分科会）					
委員長	松本 直子	副委員長	宮路 淳子	幹事	松田陽・辻田淳一郎
主な活動	審議内容				
	人口減少や気候変動が予測されるこれからの社会において文化財をめぐる状況の改善にいかに関与することができるか、さまざまな専門分野の委員からの問題提起を基に意見交換を行った。これまでの分科会の成果と課題を踏まえ、今期の活動方針について議論する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解等の提出を視野にいれて検討している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回 令和 6 年 3 月 11 日、令和 6 年 9 月 20 日（いずれもオンライン）				

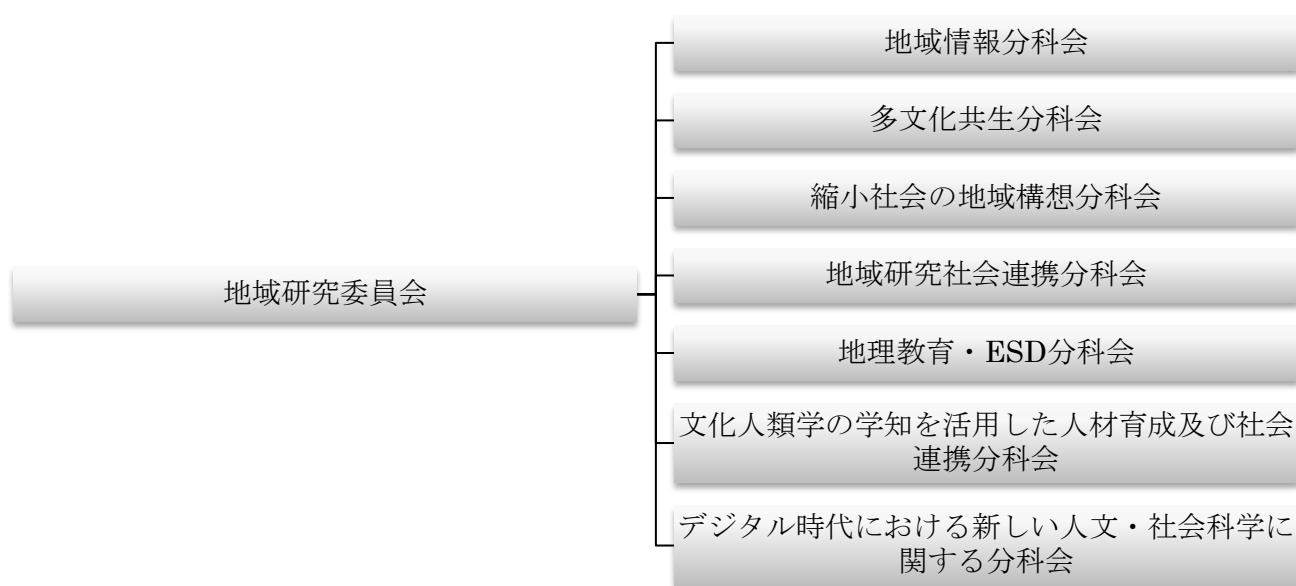
今後の課題等	多発する自然災害、地域社会の縮小など、さまざまな問題が絡み合う中で地域の文化財をいかに次世代に残していくことができるかが喫緊の課題である。専門的人材の育成、文化財の多様なあり方への対応など、関係する論点を洗い出し、効果的な施策について検討していきたい。
--------	--

史学委員会・哲学委員会合同（科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会）					
委員長	中村征樹	副委員長	杉本舞	幹事	隠岐さや香・野内玲
主な活動	審議内容				
	本分科会では、科学技術・学術の健全な発展とその有効な活用を可能とする科学技術・学術の政策のあり方について審議を行っている。第26期においては、科学技術・イノベーション政策のあり方、医療技術と倫理、および大学の自治とガバナンスをテーマとして取り上げることとし、ワーキンググループを作成して意思の表出を行うことを前提に検討を行うこととした。また、必要に応じて適宜、シンポジウム等を企画していくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 令和6年3月29日 第2回 令和6年5月30日				
今後の課題等	科学技術・学術政策に関わる上記テーマに関する審議を踏まえたうえで、どのような形で意思表出を行っていくかについては、今後の検討課題である。				

史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同（アジア研究・対アジア関係分科会）					
委員長	川島真	副委員長	吉澤誠一郎	幹事	三重野文晴・加藤隆宏
主な活動	審議内容				
	前期からの申し送り事項（第25期・第5回議事要旨参照）を出発点としつつ、新しく取り組むべき論点も加えて、活動を進めていくこととした。オンラインにて分科会を開催するのを基本としつつ、もし条件が整うならば対面にて開催する可能性も考慮することにした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	ウクライナ戦争、新型肺炎などを経て、アジア研究の置かれている環境は厳しさを増していることから何かしらの意思を社会に発信していくことを検討する。				
	開催シンポジウム等				
	特になし				

開催状況	2024 年 4 月 28 日に第 26 期第 1 回の会議を開催した。
今後の課題等	意見表出のための準備、課題設定などを行うこと。

⑥地域研究委員会



地域研究委員会					
委員長	小長谷有紀	副委員長	矢野桂司	幹事	宇山智彦、三尾裕子
主な活動	審議内容 以下の 8 つの分科会（うち 3 つは複数の課題別委員会との合同）を設置し、分科会の諸活動について情報を共有した。 地域研究委員会 地域研究社会連携分科会 地域研究委員会 地域情報分科会（地名・UNGEGN 小委員会） 地域研究委員会 文化人類学の学知を活用した人材育成及び社会連携分科会 地域研究委員会 多文化共生分科会 地域研究委員会 縮小社会の地域構想分科会 地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同 地理教育・ESD 分科会（学校地理教育小委員会、国際理解教育の社会実装小委員会） 地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同 デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会 史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同 アジア研究・対アジア関係に関する分科会 ・ガザ地区のみならず、世界の紛争に関して、日本における報道の偏りを注視して、今後の対応を引き続き検討することとなった。 意思の表出（※見込み含む）				

	意思の表出は分科会で行う。
	開催シンポジウム等
	シンポジウムは分科会で行う。
開催状況	第 26 期・第 1 回（令和 5 年 10 月 4 日） 第 26 期・第 2 回（令和 5 年 11 月 6 日） 第 26 期・第 3 回（令和 6 年 4 月 23 日）
今後の課題等	活動の中心は連携会員を多く含む分科会であり、連携会員を含めて学術会議の行方に関する情報を広く共有することが、当面の課題である。

地域研究委員会（地域情報学分科会）					
委員長	矢野桂司	副委員長	中谷友樹	幹事	伊藤香織, 埴淵知哉
主な活動	審議内容				
	本分科会では、様々な分野を横断する地域情報を的確に収集・管理・分析・統合・発信していく持続的な仕組みを構築するための議論を行う。また、代表的な地域情報の地図、地名、地域情報を扱う地理情報システム（GIS）などに関する国内的・国際的な社会的理解を促進するための技術的、制度的、倫理的、教育的な課題に関しても議論を進める。その目的のために、地域情報に関わる国内外の学協会や関連機関と連携し、膨大かつ多様な地域情報に関わる国際的な様々な課題を検討し、政策的な提言を行う。そして、第 25 期に提案した未来の学術振興構想のフォローアップを実施する。 また、地名・UNGEKN 小委員会では、見解などの意思の表出に向けて議論を展開する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地名に関する見解などの意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	地域情報と地名に関するシンポジウムをそれぞれ開催する計画である。				
開催状況	第 26 期・第 1 回地域情報学分科会令和 6 年 1 月 23 日（木） 第 26 期・第 1 回地域情報学分科会地名・UNGEKN 小委員会令和 6 年 5 月 1 日（水） 第 26 期・第 2 回地域情報学分科会地名・UNGEKN 小委員会令和 6 年 7 月 30 日（火）				
今後の課題等	地名に関する意思の表出に向けて、関連省庁などとの意見交換を行う必要がある。				

地域研究委員会（多文化共生分科会）					
委員長	竹沢 泰子	副委員長	吉村 真子	幹事	稲葉 奈々子、上杉 富之
主な活動	審議内容				
	政府等に求められる人種差別撤廃のための取組について、オンラインにて参考人を招聘し、質疑応答を行った。				
	多文化共生の特に次世代の高等教育のあり方について、一般社会に向けた公開シンポジウムの計画について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第1回令和6（2024）年2月1日、第2回令和6（2024）年5月13日				
今後の課題等	政府による人種差別撤廃のための取組について、オンラインにて参考人を招聘し、引き続きこの問題を検討する。令和7（2025）年1月25日にハイブリッドにて、一般社会に向けた公開シンポジウム「阪神・淡路大震災30年と次世代の多文化共生」を関西外国語大学と合同で主催する。				

地域研究委員会（縮小社会の地域構想分科会）					
委員長	中澤高志	副委員長	小池司朗	幹事	片岡博美・近藤章夫
主な活動	審議内容				
	本分科会の審議内容は、社会の規模縮小と多様性の増大に起因する諸課題に対してレジリエンスの高い地域のあり方について、ソフト・ハードの両面から構想することである。令和6年度は、多様な研究分野からなる委員を組織し、実証的分析と規範的議論の両面から、社会政策ならびに国土政策に資する意思の表出を目標に据えて活動する基盤づくりを行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回分科会（令和6年2月5日、オンライン開催） 第2回分科会（令和6年6月17日、オンライン開催） 第3回分科会（令和6年9月3日予定、オンライン開催）				

今後の課題等	・令和7年度の秋のシンポジウム開催に向けて準備を進める。 ・上記の成果に基づき、今期中に意思の表出をすることを目指す。
--------	--

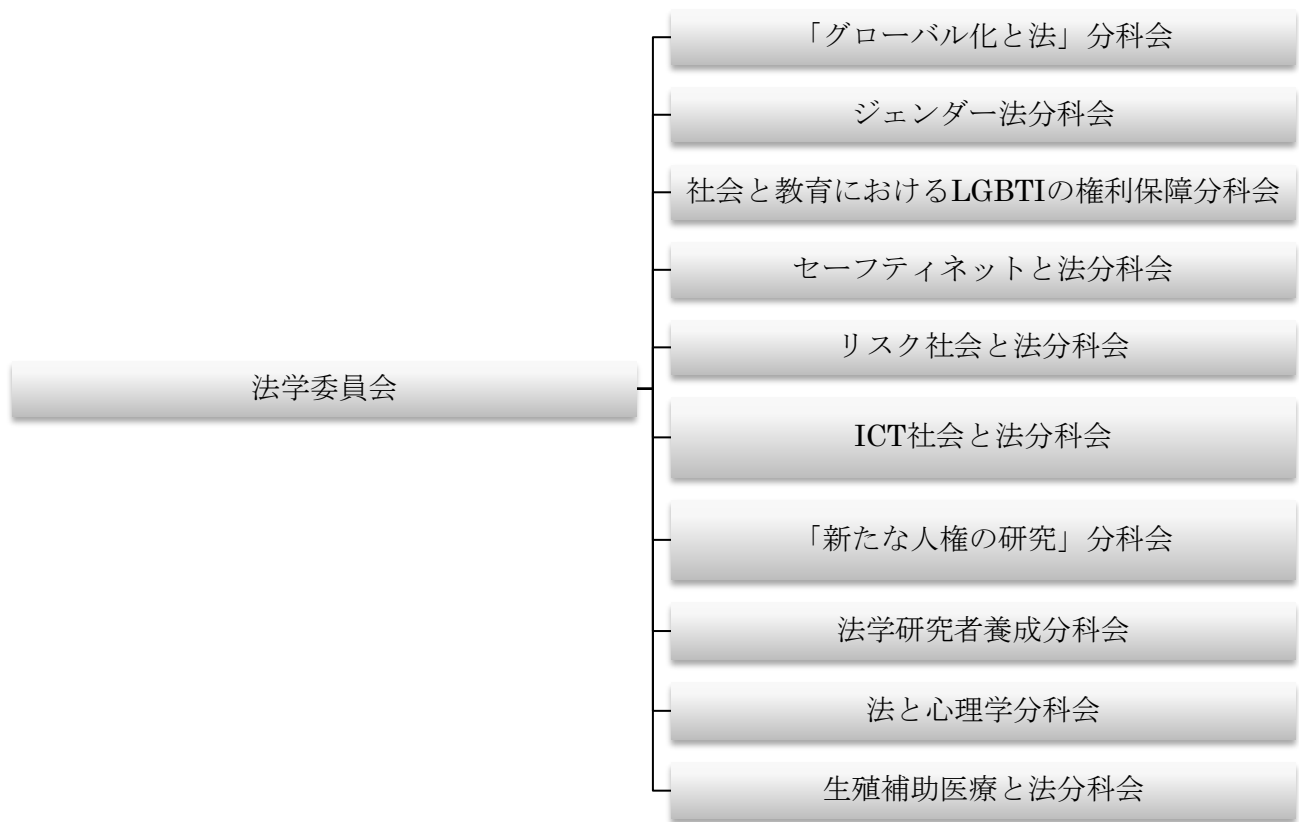
地域研究委員会（地域研究社会連携分科会）					
委員長	宇山 智彦	副委員長	川島 真	幹事	梅屋 潔、幡谷 則子
主な活動	審議内容				
	分科会委員を対象に、地域研究の社会連携に関する各自の経験、社会連携の意義・問題点と伸ばすべき方向性、学協会等の役割、分科会のヒアリングの対象などについての詳細なアンケートを実施したうえで、第1回会合で分科会活動の方向性について議論した。第2回会合では、地域研究の社会連携の実績と可能性について3人の委員の報告を聞いて、今後の具体的な活動を検討する予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回 令和6年1月29日※オンライン 第2回 令和6年9月29日（予定）※オンライン				
今後の課題等	地域研究の社会連携のあり方について、研究者同士だけでなく実務家とも意見交換をし、研究者と政府や社会との協力体制の構築方法を検討する。その成果をシンポジウム等で発信するとともに、何らかの形で社会的提言を行う。				

地域研究委員会・地球惑星委員会（地理教育・ESD分科会）					
委員長	井田仁康	副委員長	村山朝子・由井義通	幹事	久保純子・山野博哉
主な活動	審議内容				
	地理教育・ESD分科会は、学校地理教育小委員会と国際理解教育の社会実装小委員会とを設置し、学校教育の地理においてESDの推進を図り、SDGsを含む持続可能な社会・地球へ向けての教育について小学校から高等学校、大学までの一貫した地理教育および社会への発信について審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	2つの小委員会で審議された内容を分科会で検討し、提案としてまとめる。令和8年9月に見解を表出予定。				
	開催シンポジウム等				

	見解の表出に向けて令和 7 年の秋季に関係学会と共同主催で公開シンポジウムを開催することを予定。
開催状況	第 1 回 令和 6 年 3 月 4 日（第 26 期の分科会の活動方針の確認） 第 2 回 令和 6 年 4 月 12 日～令和 6 年 4 月 27 日（メール会議） 第 1 回学校地理教育小委員会 令和 6 年 8 月 6 日
今後の課題等	小委員会を含む委員会の発足が遅れ気味なので、これから審議の時間をできるだけ多く確保する必要がある。

地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同（デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会）					
委員長	永崎研宣	副委員長	矢野桂司	幹事	平田貞代、後藤真
主な活動	審議内容				
	人文・社会科学に関して、デジタル時代の新しい展開について総合的な議論を行う。特に、デジタル技術の特質を人文・社会科学に適切に活用できるようにするための方策を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解の提出に向けて準備に着手したところである。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウム開催について合意が得られ、その内容について検討を行っている段階である。				
開催状況	第一回の会合を 6 月 25 日、第二回を 8 月 18 日にそれぞれオンラインで開催したところである。				
今後の課題等	見解の作成とシンポジウムの開催の準備を通じて議論を深める予定である。				

⑦法学委員会



法学委員会					
委員長	川嶋四郎	副委員長	島岡まな	幹事	山田八千子・小畑郁
主な活動	審議内容				
	役員を選出した後、第 26 期における分科会のあり方（分科会の厳選設置と意思の発出等）、日本学術会議のあり方（法人化の問題等）、査読対応および任命拒否問題（下記）等について、情報の共有や意見交換等を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	法学委員会としては、予定なし。ただし、第 1 回会合において、第 25 期に 3 名の会員任命が拒否された法学委員会として、前期に引き続き、日本学術会議が推薦した候補者を内閣総理大臣が会員に任命しないことは、法律の趣旨のみならず法律の明文の規定にも適合しない事態であるから、速やかな説明だけではなく、即時の任命が必要である旨の再確認を行った。				
	開催シンポジウム等				
	第 14 回基礎法学総合シンポジウム「婚姻は、いかなる意味で、どこまで『契約』なのか—歴史・比較・展望—」（令和 6 年 7 月 20 日（土））を基礎法系学会連合と				

	共催した。なお、令和 5 年（2023 年）12 月 13 日開催の世界人権宣言 75 周年記念集会「包括的反差別法の実現をめざして―市民社会はなぜ包括的反差別法を必要としているのか―」の賛同団体になることを承認した。
開催状況	開催回数：3 回（いずれもハイブリッド形式で実施） 第 1 回：令和 5 年 10 月 4 日（木） 第 2 回：令和 5 年 12 月 9 日（木） 第 3 回：令和 6 年 4 月 22 日（月）・23 日（火）
今後の課題等	引き続き、法学委員会およびその分科会等の運営を推進するとともに、上記再確認事項をも踏まえ、当面する法人化の課題等に対して、法学委員会およびその構成員として様々なかたちで積極的に関与していきたい。

法学委員会（グローバル化と法分科会）					
委員長	小畑 郁	副委員長	河野真理子	幹事	竹村仁美
主な活動	審議内容				
	・グローバル化にともなう法の変化を、国際社会からの受容と日本からの発信という両面から捉えて、とくに後者の側面を重視して議論を積み重ねて、シンポジウム等の企画を行う。 ・シンポジウムの企画を睨んだ議論の柱立て、各柱についてのゲストスピーカーの分科会会合への招聘計画について議論を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・次期に向けて、意思の発出のための議論を積み重ねる予定である				
	開催シンポジウム等				
	・今期中にシンポジウムが開催できるよう、準備をすすめている				
開催状況	・2024 年 1 月 5 日、オンラインで、第 1 回分科会を開催した。委員長・副委員長・幹事を選出し、体制を整えた。 ・2024 年 5 月 19 日、オンラインで、第 2 回分科会を開催した。今期活動の問題意識・活動方法・想定スケジュール等について、委員長提案に基づき議論をすすめた。				
今後の課題等	法学の多くの分野をカバーするという要請から、比較的多人数の構成としたことは合理的であったが、オンラインで不定期に会合するということもあり、計画的に活動をすすめることについては、課題を残している。シンポジウムの開催を考えると、活動が遅れがちであるので、今後も、世話人会の機能強化、柱毎の企画責任者の設置など、体制を整えたい。				

法学委員会（ジェンダー法分科会）					
委員長	島岡まな	副委員長	南野佳代	幹事	石田京子・安田拓人
主な活動	審議内容				
	第 26 期の活動として、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会による「第 6 次男女共同参画基本計画及び包括的反差別法に向けた提言または見解」発出へ協力してゆく。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1）包括的反差別法の特にジェンダーに関わる部分のテーマに関する「記録」または「見解」（予定） 2）女性の政治参画推進にかかる意思表出を民主主義の深化と退行に関する分科会と協働で取り組む。				
	開催シンポジウム等				
	・包括的反差別法の特にジェンダーに関わる部分のテーマに関するシンポジウム開催（今後検討予定） ・国際シンポジウム「LGBTQ の権利保障をめぐる法整備の現状と課題」令和 6 年 10 月 27 日（日）（オンライン）、社会と教育における LGBTI の権利保障分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会と共同主催。				
開催状況	令和 6 年年 3 月 1 日（オンライン）、同 5 月 14 日※メール、同 8 月 9 日※メール計 3 回				
今後の課題等	上記の活動目標に関し、法学委員会の他の分科会や第 1 部の他のジェンダー関連分科会との協働について模索してゆく。				

法学委員会（社会と教育における L G B T I の権利保障分科会）					
委員長	三成美保	副委員長	南野佳代	幹事	鈴木賢・大河内美紀
主な活動	審議内容				
	LGBTI（性的マイノリティ）の権利保障に関して、国際比較を通じ、日本の法的・政策的課題を検討する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	トランスジェンダーの権利保障に関する見解及び婚姻平等に関する見解の 2 件を発出予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和 6（2024）年 10 月 27 日「国際シンポジウム：LGBTQ の権利保障をめぐる法整備の現状と課題」を開催予定である。 令和 7 年 1～2 月には「婚姻平等」に関するシンポジウムを予定している。				

開催状況	第1回 令和6年2月17日 分科会の体制・今期の計画について 第2回 令和6年7月30日 シンポジウム・「見解」等の準備について
今後の課題等	シンポジウム開催及び見解の準備。

法学委員会（セーフティネットと法分科会）					
委員長	丸谷浩介	副委員長	石田道彦	幹事	廣瀬真理子 高田清恵
主な活動	審議内容				
	下記の小テーマに分かれ、小テーマごとの検討課題を審議しつつ意思の表出に向けた取組を行うことになった。				
	1. 多様性社会におけるセーフティネット論の再検討				
	2. 法システムにおけるセーフティネットの構築				
	3. 働き方の多様化に対応するセーフティネットの構築				
	4. 社会保障立法における専門家の位置づけ				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	2024（令和6）年6月30日に第1回分科会を開催した				
今後の課題等	各小テーマの調整と公開シンポジウム等の方針について検討を行う。				

法学委員会（リスク社会と法分科会）					
委員長	大塚直	副委員長	中山竜一	幹事	島村健、林秀弥
主な活動	審議内容				
	第1回（令和6年3月13日）は、委員長、副委員長及び幹事の選出し、出席者から、リスク社会と法に関する各自の問題関心の披露・共有があった。討議の結果、今後、各自の問題意識の共通項を見だしつつ、特定の分野・論点に限定せず、立法政策的な観点を含めて幅広に検討し、との方針が確認された。				
	第2回（令和6年7月22日）は、中山竜一委員から「リスク社会論の論点整理：再論－法理学の視点から－」の報告があり、報告後に報告者と委員との間で、わが				

	国のリスク評価のあり方やリスクの認識論的基盤に関する再検討の必要性等につき、活発な質疑応答が行われた。
	意思の表出（※見込み含む）
	「見解」・「報告」を含む一定の成果物の作成を目指す。
	開催シンポジウム等
	2025 年夏のシンポジウム開催を目指す。
開催状況	第 1 回 令和 6 年 3 月 13 日 第 2 回 令和 6 年 7 月 22 日
今後の課題等	気候変動、自動運転、医療・環境、AI、プラットフォーム、原発など現在生起し又はしつつあるリスクに対し、法哲学、民事法（不法行為法、差止法）、行政法、刑事法等種々の分野を対象として、立法政策的な観点を含めて考察し、最終的には何らかの提言に結ぶ附きたい。

法学委員会（ICT 社会と法分科会）					
委員長	川嶋四郎	副委員長	林秀弥	幹事	木下麻奈子・川和功子
主な活動	審議内容				
	この分科会では、「利用者とプラットホーム」をキーワードとして審議し、各自の問題意識の共通項を見出しつつ、特定の分野・論点に限定せず、立法政策的な観点を含めて幅広く検討している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	様々ななかたちでの意思の表出を考えているが、現在のところ具体的には未定である。				
	開催シンポジウム等				
	今期末までには、「ICT 社会と法」の諸課題を取り扱う公開シンポジウムを、少なくとも 1 回は開催する予定である。				
開催状況	開催回数 2 回（いずれもオンライン開催） 第 1 回 令和 6 年 3 月 5 日（火）開催 第 2 回 令和 6 年 7 月 7 日（日）開催 第 3 回 令和 6 年 10 月 5 日（土）（開催予定）				
今後の課題等	多様な専門分野の研究者が分科会に参加していることから、公開シンポジウム等				

	に向けて、研究成果の蓄積を進めることとする。
--	------------------------

法学委員会（「新たな人権の研究」分科会）					
委員長	只野雅人	副委員長	小畑郁、葛野尋之	幹事	林真貴子
主な活動	審議内容				
	・内外の新たな人権状況を踏まえつつ、その教育・研究の動向を検討し、今期中に新たな人権の課題と可能性について、社会に向けた提言の発出を目指している。 ・今年度は、以上の目的のもと、①人権をめぐる新たな教育・研究の動向、②新たな人権をめぐる新たな課題と可能性といった視点を意識しつつ、審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・今期中の意思の表出を予定している。 ・今年度は、そのための準備作業として、様々な論点の析出・検討を行った。				
	開催シンポジウム等				
	・今年度の検討結果をふまえ、次年度以降、シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	・平成6年2月24日に第1回会合をオンラインで開催した。委員長・副委員長・幹事を選出すると共に、今期中に提言等を取りまとめること、1年間に3回程度の分科会を開催すること、シンポジウムを行うことなど、今後の活動計画を確認した。 ・平成6年7月7日に第2回会合をオンラインで開催した。2本の報告（「環境をめぐる権利の拡大とその特徴」、「親の権利と離別後アブユーズ」）をもとに審議を行い、人権をめぐる新たな動向に関して論点の析出・検討を行った。				
今後の課題等	・20名を超える様々な分野の研究が参加する分科会であることから、議論が進み方向性が定まってきた段階で、専門別あるいはテーマ別に小分科会を立ち上げ、議論の幅を広げつつ深化させていくことをも検討する。				

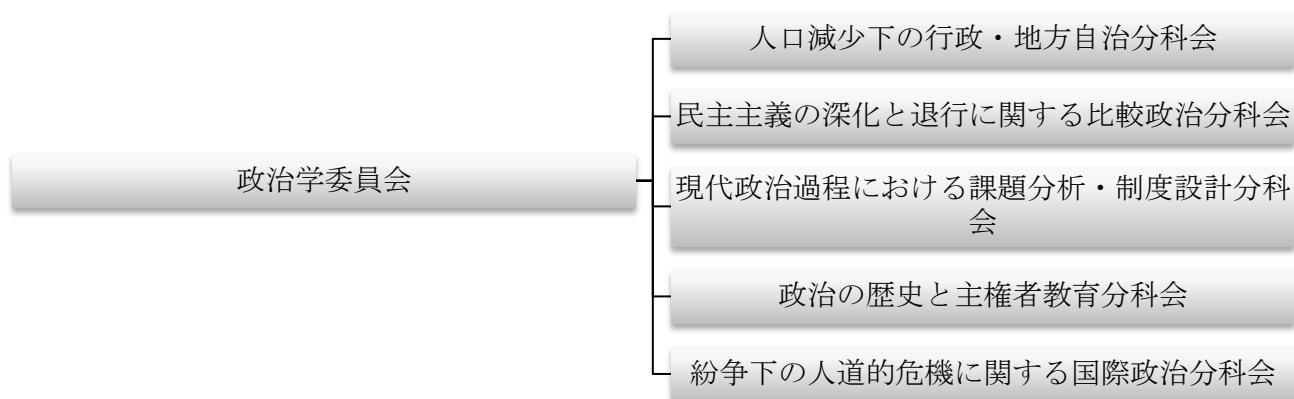
法学委員会（法学研究者養成分科会）					
委員長	川嶋四郎	副委員長	片山直也	幹事	本庄武、橋本祐子
主な活動	審議内容				
	日本学術会議では、この四半世紀の間、本分科会が審議の課題とする「法学研究者養成」について、いくつかの意思の表出を行ってきた。直近のものでは平成23年9月22日付『法学研究者養成の危機打開の方策－法学教育・研究の再構築を目指して』（第1部、法学委員会法学系大学院分科会提言）等がある。そこで、その後の状況を踏まえそれらの検討を行い、かつ、法学研究者養成に関する分野別の現状把握が必要であることなどを確認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	見解の発出や書籍等での活字化を目指す予定である。
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウムを開催する予定である。
開催状況	開催回数 1 回（いずれもオンライン開催） 第 1 回：令和 6 年 3 月 14 日（木） 第 2 回：令和 6 年 12 月までに第 2 回を開催予定
今後の課題等	多様な法学分野の研究者が本分科会に参加していることから、意思の発出や公開シンポジウム等に向けて、研究成果の蓄積を進めていきたい。

法学委員会（法と心理学分科会）					
委員長	笠井 修	副委員長	仲 真紀子	幹事	豊崎 七絵、笹倉 香奈
主な活動	審議内容 多様な法分野の政策立案過程・立法過程・実務等における心理学の知見の活用可能性について議論を行い、心理学を活用した新しいアプローチの手法やその波及可能性について検討を進めている。 今年度は、今日の心理学の研究状況に対する一般的な理解を深めることと、各委員の専門分野において心理学の知見を利用して取り組むべき具体的な課題を洗い出し、今後の分析・検討の基礎作りを行った。 意思の表出（※見込み含む） 各法分野における心理学の応用成果について意見表出をすることが望ましいが、現在のところ未定である。 開催シンポジウム等 今期末までには、「法実務と心理学」のテーマのもとで、公開シンポジウムの開催を予定している。刑事・民事を通じた法実務における心理学を活用した新しいアプローチの成果を示す予定である。				
開催状況	第 1 回会議（令和 6 年 2 月 28 日）：刑事・民事を通じた種々の法分野における心理学の知見の活用可能性について議論を行い、それによって見込まれる成果について検討した。 第 2 回会議（令和 6 年 6 月 28 日）：心理学の専門家から心理学研究の現状と傾向について報告を受け、法学分野への波及可能性について議論を行った。				
今後の課題等	第 3 回会議（令和 6 年 11 月 16 日予定）において、人間の意思形成や判断過程に関して報告と議論を予定している。また、同時に各委員の専門分野において課題として取り上げるべき実務上の問題を具体化し、順次報告と検討を行う。予定しているシンポジウムに向けて、研究成果の蓄積を進める。				

法学委員会（生殖補助医療と法分科会）					
委員長	建石真公子	副委員長	水野紀子	幹事	山田八千子、 来田享子
主な活動	審議内容				
	本分科会は、生殖補助医療の進展を背景に、法務大臣及び厚生労働大臣による審議依頼うい受けて設置された題 20 期課題別委員会「生殖補助医療のあり方検討委員会」以来、生殖補助医療の提起する法的課題について検討を続けてきている。前期には「生殖補助医療のこれから」と題するシンポジウムを開催し、現時点での課題を明らかにした。今期は、その課題を引き継ぐとともに、現在、国会で審議が進められている「生殖補助医療の提供等及びこれにより出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律」の改正について、特に「子の出自を知る権利」、精子・卵子・胚提供者（ドナー）の健康等をも含む人権保護および着床前・出生前診断における「選別」の課題などについて、社会的議論の参考となりうる「見解」を発出することを目指して活動を開始している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解				
	開催シンポジウム等				
	可能であれば令和 8 年の 8～9 月頃に、見解を元にした市民向けのシンポジウムを開催したい。				
開催状況	分科会の幹事会承認が遅れたことにより、活動開始が遅れた。 ・第 1 回分会の開催は 2024 年 4 月 29 日（月）（オンライン）。 ・第 2 回以降は、9 月以降、日程調整し決定する。 *年度内で 1 回は、オンラインでなく対面の分科会を開催する予定である。				
今後の課題等	生殖補助医療と法に関する法制度に関して検討すべき内容は多岐にわたっているため、いくつかのテーマに限定し検討し、委員間の意見交流を踏まえて見解へとまとめる事が課題である。				

⑧政治学委員会



政治学委員会					
委員長	鈴木基史	副委員長	谷口尚子	幹事	城山英明・早川誠
主な活動	審議内容				
	・26期の政治学委員会は、同委員会の具体的な活動を担う、以下の5つの分科会を設置する提案を審議した（5分科会の設置は幹事会によって承認された）。 政治の歴史と主権者教育分科会 人口減少下の行政・地方自治分科会 現代政治過程における課題分析・制度設計分科会 民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会 紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会 ・サイエンスカフェ「データサイエンスで政策の質を向上させる」を提案・審議した（科学と社会委員会によって承認された）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
	・令和6年8月1～2日に東北大学で開催された第一部夏季部会において政治学委員会を代表し、城山英明会員が研究報告を行った。 ・令和6年12月14日に同志社大学において、サイエンスカフェ「データサイエンスで政策の質を向上させる」を開催する予定である。				
開催状況	1回の公式会合：令和6年10月4日 1回の非公式会合：令和6年7月16日				
今後の課題等	上記の5分科会の活動が設置案に即して円滑に行われるように調整し、適宜助言する。				

政治学委員会（人口減少下の行政・地方自治分科会）					
委員長	原田 久	副委員長	入江 容子	幹事	伊藤 正次、嶋田 暁文
主な活動	審議内容				
	人口減少下で行政・地方自治が果たすべき役割について意見交換を行った上で、日本行政学会との共催で行うシンポジウムの内容・登壇者について審議を行った。また、関連する分科会との連携・協力の在り方について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	「公務員制度の変容－資源制約時代における応答要求への対応－」（日本行政学会及び学習院大学大学院政治学研究科と共催、令和6年5月18日（土）9時半～11時半、於：学習院大学）				
開催状況	第1回分科会：令和6年1月14日（日）10時～12時、オンライン 第2回分科会：令和6年5月19日（日）11時半～12時半、於：学習院大学				
今後の課題等	関連する分科会と連携・協力しつつ、人口減少時代の公共サービスの担い手という観点からシンポジウムを開催し、社会的貢献を行うことを今後の課題としたい。				

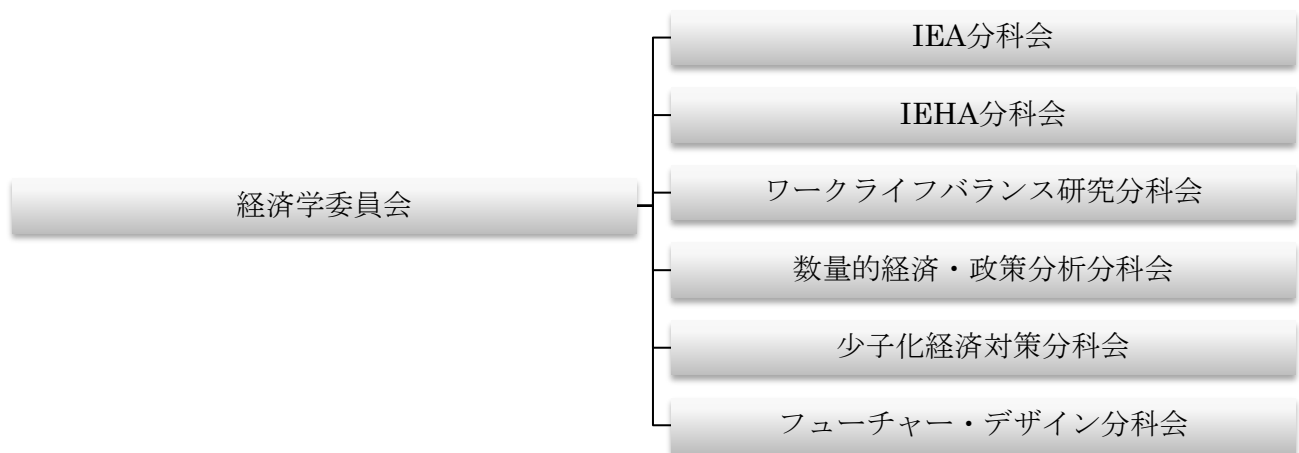
政治学委員会（民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会）					
委員長	大串 和雄	副委員長	粕谷 祐子	幹事	遠藤 貢、久保 慶一
主な活動	審議内容				
	「民主主義の深化」に関しては、意思の表出へのプロセスとして「女性の政治参画小委員会」を設置し、調査と検討を進めた。小委員会では女性の政治参画を促す法制度・環境整備について、諸外国の情報を収集するとともに、国内外の有識者、政党・議会関係者など20人にヒアリングを実施した。また「民主主義の退行」に関しては、そのテーマに関連する公開シンポジウムを開催するとともに、一連の研究会（一般には非公開）を企画し、その第1弾として3名のロシア専門家を招いて討議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	日本における女性の政治参画について今期中の意思の表出を目指している。				
	開催シンポジウム等				
	平成6年7月27日 公開シンポジウム「アジアにおける民主主義の後退と政治的分極化」（慶應義塾大学三田キャンパス）				
開催状況	分科会 平成6年1月21日、平成6年6月18日 小委員会 平成6年5月8日				
今後の課題等	女性の政治参画について意思の表出の準備を進める。また世界の民主主義の退行				

	に関する検討を進め、適宜公開イベントを実施し、必要に応じて記録を作成する。
--	---------------------------------------

政治学委員会（政治の歴史と主権者教育分科会）					
委員長（予定）	早川 誠	副委員長（予定）	田村 哲樹	幹事（予定）	中澤 俊輔
主な活動	審議内容				
	新しい期の開始に合わせ、政治学委員会内で討議検討し、新たに本分科会を設置した。メンバー勧誘等に時間を要し、設置提案書提出が令和 5 年 12 月、委員候補者名簿提出が令和 6 年 2 月となったため、本年度はまだ設置内容などに関する非公式の会合を数回実施したのみである。非公式会合を踏まえ、今後正式に分科会を開催する予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	新規発足の分科会のため、まずはシンポジウム開催を実現させることが優先される。その上で、シンポジウムの成果をもとに、提言をまとめていきたい。				

政治学委員会（紛争下の人道的危機に関する国際政治分科会）					
委員長	鈴木基史	副委員長	石田淳	幹事	都丸潤子、栗栖薫子
主な活動	審議内容				
	第 26 期の標記の分科会は、今期の分科会の設置案を審議し、令和 6 年 1 月の幹事会で承認されたことを受け、具体的な実施要領を審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし。				
	開催シンポジウム等				
	令和 6 年 10 月 5 日に公開シンポジウム「迷走する国際秩序と人道危機」を開催する予定である。 https://www.sci.go.jp/ja/event/2024/368-s-1005.html				
開催状況	2 回の公式会合： 令和 6 年 3 月 7 日・7 月 19 日 1 回の非公式会合： 令和 5 年 11 月 11 日				
今後の課題等	上記のシンポジウムを開催し、その結果を具体的な研究成果としてまとめる準備を進めつつ、その後継となる活動を分科会設置案に即して実施する予定である。				

⑨経済学委員会



経済学委員会					
委員長	大垣 昌夫	副委員長	依田 高典	幹事	臼井 恵美子、森口 千晶
主な活動	審議内容				
	第 26 期の経済学委員会は 2 回開催された。第 1 回の委員会では、加盟国際学術団体対応分科会（IEA 分科会、IEHA 分科会）以外の分科会活動の見直しの目的で、その他の経済学委員会が主たる所属分野別委員会として設置されている 4 つの分科会の第 25 期委員長に対して、経済学委員会委員長から、第 26 期の活動予定、意思の表出の準備状況とその予定、及びシンポジウム・フォーラム開催の予定について、情報提供を求めることを確認した。経済学委員会の委員長から、同委員会の分科会の委員長に対して、「令和 6 年度としては、分科会を 1 回開催する予算は確保している。2 回開催の場合の手当についても支払えるであろう。」との旨を伝えることが了承された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	複数の分科会で意思の表出を行うことを検討している。				
	開催シンポジウム等				
	ワークライフバランス研究分科会、数量的経済・政策分析分科会、少子化経済対策分科会は第 26 期中のシンポジウムを主催することを検討している。フューチャー・デザイン分科会は 2024 年のフューチャー・デザイン年次大会の共催を予定している。この他に分科会がセミナーや学会でのセッション等での主催・共催・協力の企画や検討を進めている。				

開催状況	令和5年10月4日、令和6年4月24日
今後の課題等	経済学委員会としては、分科会活動に注力し推進していくこと、学協会との関係について役割分担をより明確化していくこと、未来の学術振興構想やロードマップについて関与を検討していくこと、等が今後の課題である。

経済学委員会（IEA 分科会）					
委員長	澤田康幸	副委員長	グレーヴァ香子	幹事	竹内あい
主な活動	審議内容				
	IEA（International Economic Association）は、経済学の分野において各国の代表的な経済学会をメンバーとする国際組織であって、第二次大戦後、一貫して経済学に関する国際的な共同研究と研究情報の交流機構として、重要な役割を果たしてきた。活動の2本柱は3年に一度開催される世界大会と、随時開催される円卓会議であるが、その成果は経済学の標準的な参照文献として利用され、古典的な地位を確立した出版物も数多い。本分科会の目的は、日本の様々な経済学会との連携や、世界大会に関する組織的な協力や情報提供の中核となり、IEAを含む国際学会等の活動を支援することである。				
	本報告対象期間においては、2023年12月11日～15日に世界大会が南米コロンビア・メデジンで開催され、IEAのExecutive Committeeのメンバーである上東委員が、世界大会と、大会中に開催されたExecutive Committeeに参加し、日本とIEAとの関係を強化した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年9月27日（オンライン開催）				
今後の課題等	人文社会科学において経済学は国際性の高い分野の一つであり、今後もIEAとの関係強化を通じて、日本の国際的プレゼンスの向上に務めることが重要である。				

経済学委員会（IEHA 分科会）					
委員長	城山智子	副委員長	なし	幹事	高槻泰郎
主な活動	審議内容				

	IEHA 分科会は経済史分野の国際学術団体である International Economic History Association (IEHA)と日本の経済史学界の間の連携を主な役割としている。26 期第一回ミーティングでは、委員長と幹事の選出を行い、2025 年 7 月に IEHA が主催する国際経済史会議 (World Economic History Congress WEHC) への日本人研究者の参加について、議論を行った。令和 6 年 7 月には、分科会の推薦によって IEHA の理事 を務める、城山委員長が、IEHA の理事会 (於ルンド、スウェーデン) に出席し、WEHC 2025 の開催に関する審議に参加した。
	意思の表出 (※見込み含む)
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和 6 年 3 月 16 日 26 期第一回ミーティング (オンライン)
今後の課題等	経済史は自然科学・人文社会科学の諸分野の中で、国際学界における日本のプレゼンスが大きい分野であり、また、現在 IEHA ではアジアからの唯一の代表となっている。今後も、若手研究者の積極的な参加を求めつつ、こうした重要な地位を維持することが求められる。

経済学委員会 (ワークライフバランス研究分科会)					
委員長	臼井恵美子	副委員長	角谷快彦	幹事	安井健悟、菅野早紀
主な活動	審議内容				
	本年度は、日本的雇用慣行における諸制度、保育所等の整備、健康が働き方や家庭生活に与える影響など、委員各自のワークライフバランス関連の研究を報告し、ワークライフバランス研究の今後の在り方について議論した。これら最新の研究をもとに、前期の「記録」をさらに発展させていくことにした。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 6 年 3 月 7 日 (オンライン)				

今後の課題等	新型コロナウイルス感染症以降、テレワークの普及や雇用環境の変化、さらには育児・雇用関連制度の改正を背景に、日本の労働状況は変化してきている。このような中で、ワークライフバランス研究においては、従来とは異なる新たな課題が生じており、今後の提言の在り方について議論する。
--------	---

経済学委員会（数量的経済・政策分析分科会）					
委員長	宇南山 卓	副委員長	小原 美紀	幹事	高槻 泰郎、中村 さやか
主な活動	審議内容				
	・日本経済学会年次大会におけるチュートリアルセッションの提供について ・その他分科会での活動について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年2月16日15-16時（オンライン開催） 令和6年5月25日14-15時（ハイブリッド開催）				
今後の課題等	政策ニーズを把握するためのヒアリングの開催 チュートリアルセッションの今後についての検討				

経済学委員会（少子化経済対策分科会）					
委員長	上東貴志	副委員長	中室牧子	幹事	松尾美和
主な活動	審議内容				
	少子化は我が国最大の社会課題の一つであり、政府も現在対策を進めているが、これまで抜本的な対策は取られていない。日本学術会議においても少子化は様々な形で議論されており、現在、少子化対策としての具体的な提言に対する社会的必要性は極めて高くなっている。本分科会の目的は、経済学的観点から効果的かつ実行可能であり、さらに、分野横断的観点を踏まえ、社会的に受容可能な、少子化対策としての経済政策を（その有無も含めて）提言することである。 本分科会では、第26期中の提言に向けて、提言の構成や同時期に計画しているシンポジウムの開催について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	第 26 期中に提言を行う計画である。
	開催シンポジウム等
	第 26 期中にシンポジウムを行う計画である。
開催状況	令和 6 年 3 月 15 日（金）（オンライン開催）
今後の課題等	第 26 期中の提言に向けて、提言内容の具体性を高め、社会貢献に繋がる内容することが重要である。

経済学委員会・環境学委員会合同（フューチャー・デザイン分科会）					
委員長	西條辰義	副委員長	阿尻雅文	幹事	中川善典
主な活動	審議内容				
	さまざまなフューチャー・デザイン(FD)のサポートづくり。たとえば、① 阿尻・辻がサポートする周南市コンビナートを分科会がサポート。② ガラティ氏(イラン・タルビアト・モダレス大学)が実施する産業遺産である三池炭鉱のフューチャー・デザイン(FD)を平澤・西條がサポート。③ デンマークで開催された Nitrogen Workshop 2024 における FD ワークショップを中川がサポート。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定無し				
	開催シンポジウム等				
	・ 令和 6 年 9 月 14-15 日にフューチャー・デザイン 2024 を実施予定。キーノートはスウェーデン王立科学アカデミー人新世研究所所長のヘンリック・オステルブルム教授。				
開催状況	令和 6 年 3 月 2 9 日				
今後の課題等	・ 分科会のメンバーが要請に応じてフューチャー・デザインの研究成果を提供するためのさらなる体制づくり。				

⑩経営学委員会



経営学委員会					
委員長	野口 晃弘	副委員長	戸谷 圭子	幹事	原 拓志
主な活動	審議内容				
	経営学委員会として「AI時代に備える経営人材育成に関する分科会」、主体となる委員会として合同分科会「価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会」を設置し、合同分科会「デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会」の設置に参画した。さらに、経営関連学会協議会と意見交換を行った上で、ビジネス人材のリカレント教育に関する分科会（仮）の設置に向けた準備を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「AI時代に備える経営人材育成に関する分科会」では、意思の表出に向けた手続に令和7年3月までに入ることを目標に取り組んでいる。				
	開催シンポジウム等				
	「AI時代に備える経営人材育成に関する分科会」では、意思の表出の内容について、研究者コミュニティのみならず、他のステークホルダーとの対話の機会を確保するため、令和7年3月までに公開シンポジウムを開催する準備を進めている。				
開催状況	令和5年10月3日、令和5年12月9日、令和6年4月22日				
今後の課題等	狭義の経営学分野の分科会設置が課題となっており、経営関連学会協議会とのコミュニケーションをとりながら、設置手続を進めている。				

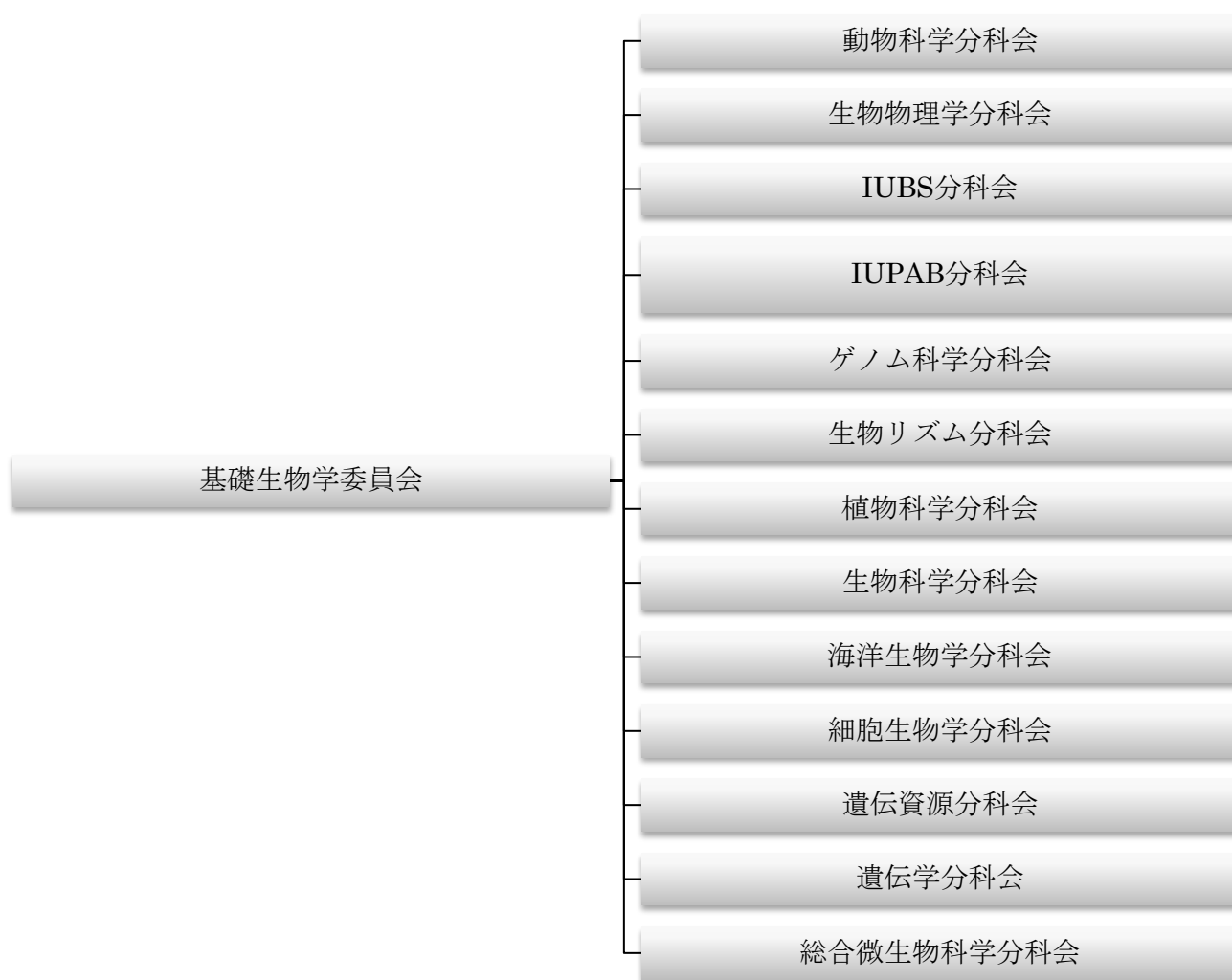
経営学委員会（AI時代に備える経営人材育成に関する分科会）					
委員長	原 良憲	副委員長	鈴木 久敏	幹事	佐々木 郁子 椿 美智子
主な活動	審議内容				
	2030年に向けた人口減少・AI活用時代における経営教育の変革に向けての意思の表出を行うため、4つのWG（①社会像WG、②ビジネスWG、③高度専門職人材WG、④教育WG）による討議を行い、審議を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	関係者との対話の機会を設けた上で、今期中に意思の表出を目指す。
	開催シンポジウム等
	2025 年 2 月～3 月頃に公開シンポジウム開催予定。
開催状況	第 1 回分科会 令和 6 年 1 月 5 日（金）、第 2 回分科会 令和 6 年 2 月 14 日（水） 勉強会 令和 6 年 5 月 1 日（水）、6 月 25 日（火）、8 月 1 日（木）（オンライン）
今後の課題等	2030 年における人と AI・IT の役割分担を明確化し、人口減少・AI 活用時代における経営学教育のあり方を提言する。

経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同（価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会）					
委員長	戸谷 圭子	副委員長	持丸 正明	幹事	山口 景子
主な活動	審議内容				
	サービス研究について、関連学会、研究の動向、社会における課題について、講演・ディスカッションを通じて共通認識を持った上で、本分科会のテーマと方向性について検討した。議論の論点は以下の通り。 - サービス産業の人手不足問題を解決するための IoT や AI の活用可能性：介護サービスでのロボット、バックヤードの遠隔ロボット - オペレーションの最適化、人が与えるサービスの付加価値向上可能性 - 業界のしがらみや慣習がテクノロジー導入による生産性向上の障壁となる場合、そのブレイクスルーはなにか - 医療分野における特定業務への従事者の偏りと、遠隔サービス導入による当該問題是正の可能性 - 経済的価値を中心にサービスの議論を進めていく限界点と、どのような非経済的価値（お金ではない Reward）がありうるか - Best available なサービスに関する先進国と発展途上国、地方と都市部、労働者間の格差 - 知識の寡占化問題：知識の管理方法や再配分のあり方 - サービス・ドミナント・ロジックの道具化の可能性				
	意思の表出（※見込み含む）				
	対象期間内にはなし				
	開催シンポジウム等				
	対象期間内にはなし				

開催状況	(1)令和6年3月21日、(2)令和6年5月18日、(3)令和6年8月8日
今後の課題等	論点の絞り込みと、それに応じた専門家招聘。アウトリーチのための、シンポジウム、意思の表出のスケジュール確定。

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	小林武彦	副委員長	岡田眞里子	幹事	杉本慶子・岩崎博史
主な活動	審議内容				
	基礎生物学委員会では 13 の分科会を設置して、主に以下の活動を行ってきた。 ・基礎生物学分野の諸問題についての意見交換 ・基礎生物学委員会所属の分科会の活動内容の共有 ・日本学術会議のあり方についての意見交換 ・より効率的な連携を目指ための仕組み作り ・分科会の委員長にも委員に加わっていただき、情報共有を円滑に行う				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	予定なし				
開催状況	令和 6 年 4 月 23 日（火） 15:45~17:00 令和 5 年 10 月 4 日（水） 13:30 – 15:30				

今後の課題等	基礎生物学分野の振興と普及
--------	---------------

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（動物科学分科会）					
委員長	深津武馬	副委員長	志賀向子	幹事	入江直樹
主な活動	審議内容				
	動物科学の普及や啓蒙、情報発信に資するシンポジウムの開催について審議した。動物科学の普及や啓蒙、情報発信に資するサイエンスカフェなどの活動について審議し、これまで未開催である滋賀県で開催することを決定した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	・日本学術会議サイエンスカフェ「虫の大きさでわかる温暖化」 沼田英治（京都大学学術研究展開センター特定教授、日本学術会議連携会員）を応用昆虫学分科会とともに令和6年7月27日（土）15:00-16:30 アル・プラザ彦根（滋賀県彦根市）にて開催した（参加者22名）。 ・日本学術会議公開シンポジウム「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する(3)」令和7年2月15日（土）13:00-16:00 Zoom オンライン開催予定				
	令和6年3月13日第1回分科会（Zoom オンライン）				
今後の課題等	動物科学の普及や啓蒙、情報発信に資する活動を行っていく				

基礎生物学・統合生物学・基礎医学委員会合同（ゲノム科学分科会）					
委員長	徳永勝士	副委員長	伊藤隆司	幹事	有田正規、建石真公子
主な活動	審議内容				
	分科会として大きな課題を議論している。ゲノム・オミクス情報や検体の利活用推進の重要性と課題について、倫理・法律・社会面も含めて広く伝える活動が望まれる。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和7年度中のシンポジウムの開催を検討する。				
	令和6年8月21日 分科会 オンライン開催				
今後の課題等	シンポジウム等の開催に向けて関連する分科会との連携				

基礎生物学委員会・心理学・教育学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（生物リズム分科会）					
委員長	深田 吉孝	副委員長	三島 和夫	幹事	志賀 向子、遠藤 求
主な活動	審議内容				
	令和6年3月6日に第一回分科会を開催し、役員と連携会員（特任）を選出した。その上で、第26期における本分科会の基本的な活動方針について議論し、生物が示す一日周期のリズムに関する基礎生物学的、基礎・臨床医学的、心理学・教育的な知見を広く社会に生かせるような議論や活動を行う方向性を決めた。また国民の思いやニーズを把握するための双方向性の活動が重要であることを確認し、公開シンポジウムの開催などを通して国民との対話を目指すこととした。また、日本時間生物学会が編集する刊行物「生き物とリズムの事典」（朝倉書店）に対し、本分科会委員を含む162名から全196項目の原稿を得て、編集協力を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第一回分科会 令和6年3月6日オンライン開催				
今後の課題等	地球の昼夜環境への適応の研究は人類の現代生活に重要な課題であることから本分科会は第23期に設立された。第26期の開始にあたってこの重要性を再確認すると共に、これまで国民の最大関心事の一つであったコロナ禍あるいは働き方改革により、オンライン会議やテレワークの導入が進んだ結果、生活リズムがどのように変化したか、また今後の生活リズムのあり方について、国民との双方向性の議論を通して理解を目指す。また、日本時間生物学会が編集する刊行物「生き物とリズムの事典」（朝倉書店）の編集協力を引き続き行ってゆく。				

基礎生物学委員会、統合生物学委員会、農学委員会合同（植物科学分科会）					
委員長	杉本慶子	副委員長	佐藤豊	幹事	上田貴志、吉田聡子
主な活動	審議内容				
	26期に植物分科会活動が行う活動内容を議論した。具体的には、植物科学に関する学術分野の更なる振興、社会への発信、科学行政に向けた意見の発出などについて、他の分科会とも連携して活動していくこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	予定なし				
開催状況	令和6年3月7日（木）第26期・第1回植物科学分科会・開催				
今後の課題等	他の分科会、関連学会、教育・研究機関などとともに、基礎科学を支える研究費状況について意見集約に協力し、為替や物価高などの社会的な情勢の変化に対応する科学研究費の増額を求める提言を検討する。				

基礎生物学委員会（生物科学分科会）					
委員長	小林武彦	副委員長	原田慶恵	幹事	入江直樹・松永幸大
主な活動	審議内容				
	・生物科学分野の諸問題についての意見交換 ・高等学校の生物教育における重要用語の改訂について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定有り。発出期のめど2-3月頃				
	開催シンポジウム等				
	予定あり、3月頃。				
開催状況	令和6年3月14日（金）13:00 - 15:00				
今後の課題等	基生物科学分科会では主に高校で学ぶ生物学用語の改訂作業を行う。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（海洋生物学分科会）					
委員長	原田 尚美	副委員長	安田 仁奈	幹事	堀 正和、山野 博哉
主な活動	審議内容				
	日本の海洋生物学が直面している問題、特に地球規模の海洋環境の変化と海洋生物との関わり、大学が持つ臨海実験所、水産実験所等で行われる教育、研究、地域連携の現状と課題、将来像等を中心に審議を行ってきた。第26期海洋生物学分科会の立ち上げを行い、第26期の活動方針の確認を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期中に他分科会との共同による意見の表出を目指している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第26期第1回（令和6年3月21日）				
今後の課題等	他の関係する分科会と共同し、今後も海洋生物学の諸課題をシンポジウムの開催、意思の表出により解決を目指し活動することが求められる。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（細胞生物学分科会）					
委員長	森 和俊	副委員長	渡辺 雅彦	幹事	岡田 由紀
主な活動	審議内容				
	今期も高校生を対象とした生命科学の面白さを伝える形態学シンポジウムの開催を予定している。基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会と合同で2025年開催に向け準備を進める。				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	今年度の予定なし
開催状況	令和6年3月26日に第1回委員会をオンラインで開催した。
今後の課題等	2025年開催予定の形態学シンポジウムの内容を詰めていく。

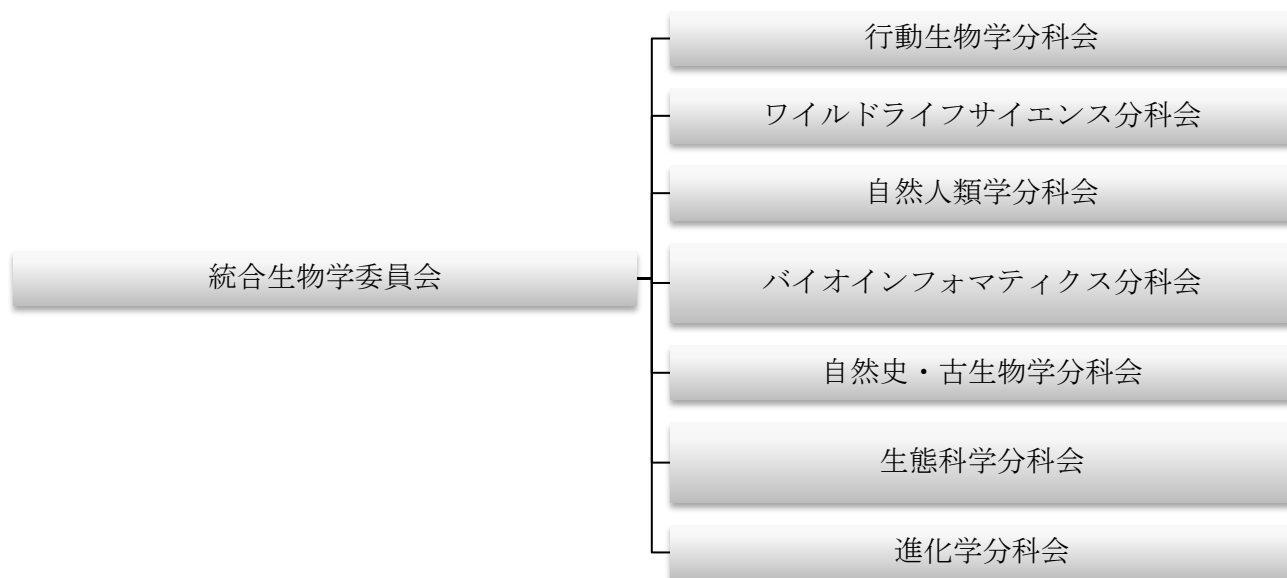
基礎生物学委員会（遺伝資源分科会）					
委員長	城石俊彦	副委員長	有田正規	幹事	佐藤 豊
主な活動	審議内容				
	遺伝資源のデジタル配列情報（DSI）の利用から得られる利益を資源提供国に還元すべきとする意見が資源提供国から提案され、生物多様性条約（CBD）締約国会議（COP）において議論されている。前回の COP15 では多国間制度による利益配分が提唱されている。本分科会では、学術の進展を図る立場からこの問題についてさまざまな視点から審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年（2024年）3月25日（月）13:30～15:00にオンライン形式で第26期第1回分科会を開催した。令和6年（2024年）5月2日（木）9:00～11:00にオンライン形式で第2回分科会を開催した。				
今後の課題等	本年10月にコロンビアで開催される予定の COP16 では、多国間制度による利益配分の具体案が議論される予定である。学術を守る立場から、それに向けた対応を至急審議する必要がある。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同（遺伝学分科会）					
委員長	颯田 葉子	副委員長	山本 卓	幹事	平田たつみ、入江直樹
主な活動	審議内容				
	第25期からの申し送りとして以下の2点を審議する。 1. 中等教育における遺伝学（生物学）に関する審議 2. 国際遺伝学連合（IGF）との連合：多様な研究者の集合である遺伝学分科会として、IGF と連携する方向で調整することは難しいという点で合意に至り、違った形での国際的な連携を模索することとなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	遺伝学分科会として、中等教育における遺伝学（生物学）のあり方について、意見をまとめ、報告を行うことを目指す（見込み）。
	開催シンポジウム等
	無し
開催状況	第1回 令和6年3月15日（金） 第2回 令和6年7月26日（金）
今後の課題等	1.について：高校における生物学の選択者の減少や、それに伴う生物教師の採用数減少、入試における生物の扱いや難易度などについて広く議論があり、今後分析などを行い、問題解決にむけて議論を継続する。

基礎生物学委員会（総合微生物科学分科会）					
委員長	小柳 義夫	副委員長	関崎 勉	幹事	岡村 好子
主な活動	審議内容				
	第26期総合微生物分科会委員12名の構成と委員長（小柳義夫）、副委員長（関崎勉）、幹事（岡村好子）の任命が令和6年3月26日のWEB会議にて承認された。また、微生物化学研究センター長田裕之特任教授（日本微生物学連盟理事長）の特任連携会員への推薦と本分科会への参加も承認された。そして、令和6年8月7日の日本微生物学連盟のWEB会議で本分科会の活動状況を報告するとともに今後の方針を議論した。新たな人員で、微生物科学に関する日本学術会議としての活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	中長期の微生物科学に関する教育研究活動について、令和6年度後半から本分科会での議論をはじめめる予定である。環境微生物に関しての知見の集積がされている段階であり、現状の把握を優先する。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和6年2月10日に東京大学山上会館で日本微生物学連盟が主催して第10回日本微生物学連盟フォーラム「微生物は地球の救世主になれるか？」を開催した。				
	令和6年8月7日に日本微生物連盟（総合微生物科学分科会（第26期）IUMS分科会（第26期）、日本微生物学連盟加盟学術団体 http://fmsj.umin.jp/index.html ）の合同WEB会議を開催した。				
今後の課題等	一般社会において感染症への危惧や温暖化に伴う微生物叢の変動など微生物科学に注目が集まるとともに、ワクチンに関する知見を中心に不正確な情報があふれ、それらへの対処に苦慮している。社会においては微生物の基本に関する理解が難しい状況から、第26期も高校生などを主な対象にしたアウトリーチ活動を行うべく、準備をはじめた。				

⑫統合生物学委員会



統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（ワイルドライフサイエンス分科会）					
委員長	村山 美穂	副委員長	山越 言	幹事	大沼 あゆみ
主な活動	審議内容				
	人間と野生生物との調和的共存を図るためのワイルドライフサイエンスという新たな学問領域の確立とその社会的普及のため、公開シンポジウム等を実施することについて審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「増大する人間と野生動物の軋轢：これからの鳥獣管理と人間社会を考える」を令和6年11～12月頃に開催予定。				
開催状況	令和6年3月15日第1回、5月27日第2回、7月22日第3回				
今後の課題等	生息域内外での保全の意義やウェルヘルスの概念を浸透させ、多様な分野の専門家の経験や知識によって、俯瞰的、分野横断的な視点から社会的な実践につなげることをめざす。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同（自然人類学分科会）					
委員長	海部 陽介	副委員長	村山 美穂	幹事	松本 晶子、山内 太郎
主な活動	審議内容				

	・未来の学術振興構想（2023 年版）採択課題『「人類史」総合研究体制の構築』（No.10 グランドビジョン②）において掲げた、人類学関連学会の連合体構想の実現に向けた具体的プランについて。 ・人類および霊長類にとっての「学習」の意味をさぐるシンポジウムの企画。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	人類および霊長類にとっての「学習」の意味をさぐるシンポジウムを開催予定。
開催状況	令和 6 年 4 月 17 日、令和 6 年 9 月 2 日
今後の課題等	・上述の人類学関連学会の連合体の実現。 ・自然人類学からみた人間とその行動および多様性の本質理解へ向けた、社会発信および次世代研究者層の充実と振興。

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・情報学委員会合同（バイオインフォマティクス分科会）					
委員長	諏訪 牧子	副委員長	五斗 進	幹事	有田正規、岡田眞里子
主な活動	審議内容				
	・バイオインフォマティクス分科会の在り方に関する議論の基、分科会を設置。 ・生命科学の根幹となるデータベース(DB)をオープンアクセス可能にしながら 21 世紀の新しい生命科学に大きく寄与し推進するための方針・方策を探る目的の基、①持続可能な DB の基盤整備、②DB を基にした次世代生命科学の推進、③人材育成の方策、に関する審議。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26 期末に表出予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和 7 年 1 月 9 日（木）公開シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解 ― 細胞から人の動きまで ―」を開催予定。生物物理分科会と共催。				
開催状況	・第 1 回分科会 令和 6 年 3 月 30 日（土）メール会議 10 月～3 月までに第 2 回分科会を開催予定。				
今後の課題等	分科会、公開シンポジウムでの意見交換を基に、意思表出の方向性を決定。				

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・地球惑星科学委員会合同（自然史・古生物学分科会）					
委員長	大路 樹生	副委員長	西田 治文	幹事	黒柳 あずみ
主な活動	審議内容				
	国立自然史博物館設立計画への支援、自然史系標本の保全、自然史財法案の再検討、自然史系博物館における学芸員制度に関する議論と公開シンポジウム開催計画などについて。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	特になし。
	開催シンポジウム等
	令和5年9月23日に当分科会共催で実施した学術会議公開シンポジウム「文化施設としての自然史系博物館を考える」の講演の論説が地学雑誌に特集号として近々出版される予定である。また国立自然史博物館設立を推進するための活動への支援や実現への具体的な方策について関係者を招いて議論を深める予定である。さらに自然史標本に関する法律上の整備に関する議論や、地方の自然史博物館設立に向けた運動への支援等に関する議論を行っていく予定である。
開催状況	令和6年3月5日に第1回分科会（オンライン）を開催、令和6年9月20日に第2回分科会（オンライン）を開催予定。
今後の課題等	国立自然史博物館計画への具体的な支援の方策等について、今後分科会で議論を重ねる必要がある。

統合生物学委員会（生態科学分科会）					
委員長	森章	副委員長	石川麻乃	幹事	中野伸一, 藤井一至
主な活動	審議内容				
	第26期第1回目の分科会においては、当分科会の設定目的に沿って、第26期の委員構成、幹事メンバーの選出を行った。また、分科会委員が所属する学術会議の他の分科会との連携を梃子にして、生態科学の土壌学、動物行動学、進化生物学、食料安全補償、生物多様性科学、環境科学などとの学際的な活動を行う方向性について意見交換が行われた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	あり（今後、当分科会において議論検討を継続する）				
	開催シンポジウム等				
	あり（他分科会との共同開催予定）				
開催状況	令和6年3月22日、第1回目の分科会をオンラインで開催した。今後は、令和6年9月2日に、第2回目の分科会をオンラインにて開催予定である。				
今後の課題等	他分科会と協働したシンポジウムの開催について検討を行う。また、当分科会としての意志の発出について、議論を行う予定である。				

⑬農学委員会



農学委員会					
委員長	中嶋 康博	副委員長	土井 正章	幹事	後藤 英司、渡辺 京子
主な活動	審議内容				
	・食料科学委員会との合同の公開シンポジウム開催 ・関連学協会および全国農学系学部長会議との連携				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ無し				
	開催シンポジウム等				
	●食料科学委員会との共催・公開シンポジウム「食料自給率の動向と見通しー食料・農業・農村基本法改正に向けて」 令和5年2月3日（土）13：00～17：00 https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/360-s-0203.html ●食料科学委員会との共催・公開シンポジウム「スタートアップが繋げる農学と農業～望ましい共創のあり方～」 令和6年8月29日（木）13：30～16：50 https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/368-s-0829.html				
開催状況	令和5年10月4日・対面とオンライン 令和6年4月21日・オンライン				
今後の課題等	分科会間の連携の促進				

農学委員会（植物保護科学分科会）					
委員長	渡辺京子	副委員長	松本 宏	幹事	松田一彦・林謙一郎
主な活動	審議内容				
	1) 新役員（委員長・副委員長・幹事）の決定と特任連携会員の推薦 2) 植物保護科学に係る国内外における課題の抽出と「意思の表出」に向けた計画 3) 次期公開シンポジウムのテーマ				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26 期中の発出に向けた委員による勉強会（月 1 回、令和 6 年 8 月から開始）				
	開催シンポジウム等				
	1) 令和 5 年 1 2 月 2 日オンライン開催、「害虫・病原体・雑草に対する作物の耐性強化研究の進展」、参加者（講演者等：12 名, その他：183 名） ※報告（2023 年 6 月 23 日）「外来害虫・病原体・雑草による作物生産被害の現状と対策」のフォローアップとして開催 2) 令和 6 年 11 月 30 日（予定）「総合的病害虫・雑草管理の現状と望まれる新技術(仮題)」を準備中				
開催状況	3 回実施（令和 5 年 12 月 2 日、令和 6 年 3 月 9 日、6 月 28 日）				
今後の課題等	農業現場における有機栽培・減農薬に関する実情把握				

農学委員会・食料科学委員会合同（IUSS 分科会）					
委員長	犬伏 和之	副委員長	信濃 卓郎	幹事	藤井 一至
主な活動	審議内容				
	令和 6 年度代表派遣（IUSS 中間会議・2024 年 10 月中国南京） 当分科会 HP の改善・充実による情報発信の強化 令和 6 年度開催国際会議（第 7 回国際土壌分類会議・北海道および第 9 回土壌鉱物・有機物・微生物相互作用に関する国際会議・つくばほか）の運営支援 令和 8（2026）年度開催予定の「国際窒素会議（INIC）・京都」、「低 pH における植物土壌相互作用国際会議（PSILpH）・岐阜ほか」などへの支援体制 IUSS のわが国役員への活動支援 IUSS 関連国内 18 学協会との連携強化				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第 1 回分科会：令和 5 年 12 月 1 日（金）東京（ハイブリッド） 第 2 回分科会：令和 6 年 3 月 4 日（金）東京（ハイブリッド） 第 3 回分科会：令和 6 年 9 月 5 日（金）福岡（ハイブリッド）				
今後の課題等	IUSS 活動におけるわが国のプレゼンス向上に向けた活動強化 IUSS を通した国際学術会議（ISC）活動支援ならびに ISC におけるわが国役員の活動支援強化 IUSS 関連国内 18 学協会との連携強化による IUSS 活性化に向けた積極的貢献				

農学委員会・基礎生物学委員会・職掌科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同（IUMS 分科会）					
委員長	野田 岳志	副委員長	春日 文子	幹事	渡辺 登喜子
主な活動	審議内容				
	総合微生物科学分科会と連携をとりながら、日本微生物学連盟の国内・国際活動や、シンポジウム開催計画を審議した。我が国の IUMS に対する取組みについて議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	次年度に他分科会と合同シンポジウムを開催することを見据えてテーマを募集している。				
開催状況	令和 6 年 7 月 10 日（Web 会議）、令和 6 年 8 月 6 日（Web 会議・総合微生物科学分科会および日本微生物連盟との合同会議）				
今後の課題等	今後の我が国の IUMS に対する取組みについて引き続き論議する。				

農学委員会（農学分科会）					
委員長	土井元章	副委員長	下野裕之	幹事	本間香貴・彦坂晶子
主な活動	審議内容				
	生産農学に関する中長期的課題、特に「気候変動と農業の持続可能性」について、委員からの話題提供に基づき審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期末（見込み）				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和 6 年 2 月 28 日、令和 6 年 3 月 12 日、令和 6 年 7 月 8 日 すべてオンライン会議				
今後の課題等	意思の表出に向けた審議の方向性と範囲の集約				

農学委員会（農業生産環境工学分科会）					
委員長	後藤 英司	副委員長	荊木 康臣	幹事	谷 晃、遠藤 良輔
主な活動	審議内容				

	第1回分科会で、委員長に後藤英司、副委員長に荊木 康臣、幹事に谷 晃、遠藤 良輔を選出した。今期は施設園芸のグリーン化・高機能化、気候変動に対する農業適応策、生産環境の資源循環に関する内容を審議することとした。
	意思の表出（※見込み含む）
	可能であれば見解または報告を発出する。
	開催シンポジウム等 施設園芸のグリーン化・高機能化、気候変動に対する農業適応策、生産環境の資源循環に関するシンポジウムを開催する予定である。
開催状況	第26期第1回分科会を令和6年4月2日（火）に開催した（オンライン）。
今後の課題等	シンポジウムの内容を具体化する。

農学委員会（林学分科会）					
委員長	杉山 淳司	副委員長	香坂 玲	幹事	井上 真理子 五十田 博
主な活動	審議内容				
	林学、木質科学、生態学、環境学などの広義の林学分野を中心に、第一部、第三部建築学、経済学の研究者から構成されるコミュニティを組織し、森林の多面的機能とその持続的維持管理のあり方について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	森林に対する社会的要請に応えるため、森林管理のあり方、計画や技術、経済の観点から考え、社会実装するための議論の場を提供するシンポジウムを計画した。				
開催状況	第1回（令和6年2月22日）、第2回（令和6年4月1日）、第3回（令和6年7月17日）すべてオンライン開催。				
今後の課題等	公開シンポジウムをオンライン開催する。木材利用の拡大の社会的意義や課題に関する議論をすすめる。				

農学委員会（応用昆虫学分科会）					
委員長	池田 素子	副委員長	阿部 芳久	幹事	大門 高明、天竺桂 弘子
主な活動	審議内容				
	令和6年8月に日本学術会議が日本昆虫科学連合と共同主催する第27回国際昆虫学会議、意思の表出「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」、日本昆虫科学連合と共同主催する次年度の公開シンポジウムについて審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」を見解または報告としてとりまとめ、今期中に発出する予定。
	開催シンポジウム等 令和6年3月30日に、公開シンポジウム「分野を越え海を越える昆虫科学」を仙台国際センター大ホールにおいて現地およびウェビナーによるハイブリッドで開催した。令和6年7月27日に、サイエンスカフェをアル・プラザ彦根で開催した。
開催状況	令和6年4月15日に、第26期第1回分科会をオンライン開催した。
今後の課題等	令和7年度の公開シンポジウム実施案を策定する。「日本の高等教育における昆虫学教育のあり方（仮）」を立案して昆虫学教育の方向性を示す。

農学委員会（土壌科学分科会）					
委員長	波多野隆介	副委員長	渡辺京子	幹事	川東正幸・山口紀子
主な活動	審議内容 1) 新役員（委員長・副委員長・幹事）の決定 2) 委員追加のための特任連携会員候補者の決定 3) 今期の活動計画 ・活動の力点をおくべき課題（国際窒素会議の支援、「Soil Health（土壌の健康：米国農務省は「植物、動物、および人間を維持する重要な生きた生態系として機能する土壌の継続的な能力」と定義）の我が国における学術研究と実践を集約し社会実装に向けての取り組みを検討すること、など） ・公開シンポジウムおよび意思の表出計画（Soil Health 懇談会の開催など） 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	分科会 第1回（令和6年3月4日、東京、ハイブリッド）（第2回は令和6年9月5日福岡、ハイブリッドの予定）。 Soil Health 懇談会（令和6年5月13日から隔週月曜日オンラインで8回開催）				
今後の課題等	Soil Health 小委員会の立ち上げ 次年度シンポジウムおよび26期分科会による意思の表出計画の策定				

農学委員会（育種学分科会）					
委員長	磯部 祥子	副委員長	岩田 洋佳	幹事	門田 有希
主な活動	審議内容 ・第26期の活動方針について議論を行い、育種学を広く社会に伝えるためのシンポジウムを開催するとともに、今後の育種学のあるべき姿を議論し、必要に応じて意思の表出を行う準備をすることで決定。 ・育種学のあるべき姿の議論のたたき台として、国際社会の中での日本農業の在り方や顧みられない未利用種の遺伝的改良に基づく持続可能な agro-ecosystem の確立、水産業や林業における育種学の現状について議論を実施。 意思の表出（※見込み含む） なし 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	令和6年3月14日、6月13日、8月15日				

今後の課題等	シンポジウムの具体的な開催方法と育種学の今後の在り方について
--------	--------------------------------

農学委員会（農業経済学分科会）					
委員長	中嶋 康博	副委員長	立川 雅司	幹事	清原 昭子、白鳥佐紀子、八木 洋憲
主な活動	審議内容				
	現代の食料・農業・農村問題を解決するための農業経済学の学術的な展開可能性に関する事項				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ無し				
	開催シンポジウム等				
	分科会としては無し。農学委員会・食料科学委員会による公開シンポジウム「食料自給率の動向と見通しー食料・農業・農村基本法改正に向けて」への協力				
開催状況	メール審議による開催（照会期間：令和6年7月24日～30日、議決期間：令和6年7月31日～8月2日）				
今後の課題等	学際的な観点からの議論を踏まえた新たな農業経済学の教育研究の枠組みの検討				

農学委員会（地域総合農学分科会）					
委員長	仁科 弘重	副委員長		幹事	弓削 こずえ・武山 絵美
主な活動	審議内容				
	第1回分科会で、委員長に仁科弘重を、幹事に弓削こずえ、武山絵美を選出した。副委員長は、必要が生じた時に選出する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	可能であれば、「報告」を発出する。				
	開催シンポジウム等				
	第26期中に、地域総合農学の分野に係わる内容で、2回のシンポジウムを開催する。2回の内容は、農学に係わる総合的内容のものと、分散型地域計画に係わるものとする予定である。				
開催状況	第26期第1回分科会を、令和6年9月5日（木）に開催した（オンライン）。				
今後の課題等	早急にシンポジウム（2回）の内容を検討、確定させる。				

農学委員会・食料科学委員会合同（産業生物バイオテクノロジー分科会）					
委員長	磯部 祥子	副委員長	立川 雅司	幹事	吉田 薫、丸山 明子
主な活動	審議内容				

	・ゲノム編集技術の社会実装の加速に伴い、当該技術に関する見解を広く社会に伝えるため、第 26 期において見解を発出することとし、その目的と内容の骨子について議論を行った。 ・ゲノム編集技術に関する知見を開発者ならびに一般社会において共有するため、分科会としてシンポジウムを開催することとし、シンポジウムの内容や開催方法について議論を行った。 ・議論のためのたたき台として、ゲノム編集技術の農業・食品応用における各国の規制や社会受容の現状について意見交換を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	見解の発出を行う予定
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	令和 6 年 2 月 29 日、5 月 29 日、9 月 9 日（予定）
今後の課題等	ゲノム編集技術に関する見解の取りまとめとシンポジウム開催

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	大越 和加	幹事	竹中 麻子 西川 正純
主な活動	審議内容				
	・食料のサステイナブルな生産、保管、加工、流通、消費などに関する学術課題について審議した。 ・農学委員会と合同で委員会を開催し、農学全般にわたる横断的な情報共有と意見交換を行った。 ・食料科学および農学における産学連携の新しい形（スタートアップ等）について、産業界を交えた検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	・令和6年2月3日に公開シンポジウム「食料自給率の動向と見通しー食料・農業・農村基本法改正に向けて」（農学委員会と共同主催）を実施 ・令和6年8月29日に公開シンポジウム「スタートアップが繋げる農学と農業～望ましい共創のあり方～」（農学委員会、若手アカデミーと共同主催）を開催予定				
	第1回（令和5年10月4日）、第2回（令和6年4月21日）				
今後の課題等	・食料システム（食料の生産、保管、加工、流通、消費に関わる活動）に関する課題について引き続き議論する。 ・農学委員会と連携して農学分野全般に関わる公開シンポジウム等の実施について				

	引き続き検討する。 ・関連学協会（農学会など）との連携について検討する。
--	---

食料科学委員会（水産学分会）					
委員長	大越 和加	副委員長	八木 信行	幹事	脇田 和美、高須賀 明典
主な活動	審議内容				
	地球環境と生態系が変化する中で、水産資源の保全と持続可能な利用について中長期的視点で審議を継続した。進歩の著しい ICT、AI、ロボット技術等の導入、活用、普及による水産業の再構築に向けて議論を行った。魅力ある、明るい水産業の未来について議論を展開した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	見解「わが国における中長期的な水産資源の利用のありかた」英訳版を作成				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「水産・海洋分野における AI の役割と課題」を 2023 年 12 月 15 日に開催した。				
開催状況	25 期第 12 回（令和 5 年 12 月 15 日）、26 期第 1 回（令和 6 年 3 月 22 日）、第 2 回（令和 6 年 8 月 23 日）開催				
今後の課題等	地球規模で変化する海洋環境や社会情勢に対応したレジリエントな水産業構築に向けて新しい価値の創出を目指す。シンポジウム等を通して多様なステークホルダーに提案、議論する。				

食料科学委員会・農学委員会・健康・生活科学委員会合同（IUNS 分会）					
委員長	竹中麻子	副委員長	稲垣暢也	幹事	池田彩子、家光素行
主な活動	審議内容				
	・食品・栄養学分野の研究や人材育成に貢献し、日本の食品・栄養学分野の国際的なプレゼンスをさらに高める方策について審議した。 ・2025 年（令和 7 年）8 月にパリ（フランス）で開催予定の第 23 回 IUNS 国際栄養学会議（ICN）におけるシンポジウム開催について審議した。 ・「IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップ」の開催について審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「IUFoST-Japan, SCJ, and JSNFS Joint Webinar on Food Nutrition and Functionality」（令和 6 年 3 月 15 日、zoom ウェビナー） ・国際シンポジウム「JSNFS, KFN and SCJ Joint Symposium on Trends in Food Science, Function and Processing」（令和 6 年 5 月 25 日、福岡、ハイブリッド）				
開催状況	令和 6 年 2 月 22 日（木）10:00～11:50 オンライン				

今後の課題等	- 世界の食品・栄養学のリーダーシップ育成について検討を行う。 - IUNS における日本のプレゼンスを高め、最先端の研究成果を世界に発信する。
--------	---

食料科学委員会（畜産学分会）					
委員長	木村 直子	副委員長	栗田 浩	幹事	笠嶋 快周、後藤 貴文、安尾 忍
主な活動	審議内容				
	1. 我が国の食の安定保障に資する環境と調和のとれた持続的な畜産物生産システムを前提に、スマート畜産、動物福祉、温暖化対策、環境保全、飼料エコフィード、家畜の健康科学、野生動物管理、遺伝子編集家畜・家禽、家畜の実験動物への応用、畜産物の摂取とヒトの健康科学など、近年の諸課題に関わる畜産学の学術基盤の充実に関する審議。2. 当該領域の若手人材育成、女性研究者支援、国際化、共通教育カリキュラムの検討など。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	テーマを検討中。				
	開催シンポジウム等				
	令和 6 年 5 月 11 日：公開セミナー「動物の繁殖の研究ってこんなに広がるの！？」を公益社団法人日本繁殖生物学会との共催でオンライン開催（162 名の参加者）。				
開催状況	第 1 回：令和 6 年 2 月 21 日（オンライン）、第 2 回：令和 6 年 6 月 5 日（オンライン）、第 3 回予定：令和 6 年 9 月 19 日（対面）、第 4 回予定：令和 6 年 10 月 16 日（オンライン）				
今後の課題等	意志の表出に向けた準備、公開シンポジウムの企画・実施を進める。				

農学委員会・食料科学委員会合同（CIGR 分会）					
委員長	澁澤 栄	副委員長	高山弘太郎	幹事	福田弘和、飯田訓久
主な活動	審議内容				
	国際農業工学会（CIGR）に関して、わが国としての対応を審議する。また、わが国が CIGR を通して世界の食料生産・環境問題の解決に貢献する活動を推進し、国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	複雑で多面的な農業の課題を効果的に解決するため、農業生産システムをデジタル空間上に精密に再現した“デジタルツイン農場”の活用について意思の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	CIGR 第 6 回世界会議（2024. 5. 19-5. 23、韓国）に澁澤・二宮ほか多数出席、理事会（2024. 5. 19）にて AI の WG 提案、継続審議。令和 6 年 9 月 19 日に大阪国際会議場において公開シンポジウム「農業デジタルツインの現状と展望」を開催。				
開催状況	第 1 回 令和 6 年 3 月 23 日（ハイブリッド）				
今後の課題等	- 日本が主導している CIGR Working Group「Plant Factory and Intelligent Greenhouse」を Technical Section に昇格させること。日本の強みであるスマート農業研究において世界をリードする方策を検討する。 - 若手支援、国際連携、サイエンス・コミュニケーション、CIGR ジャーナル投稿、関連する国際学会に関する情報共有、標準化などを推進する。				

食料科学委員会・農学委員会合同（PSA 分科会）						
委員長	（未定） 世話人 大越和加		副委員長	（未定）	幹事	（未定）
主な活動	審議内容					
	太平洋学術協会の活動が不活発で、主な活動としての太平洋学術会議がコロナ禍以来、延期が続いているため、実りある活動は望めなかった。随時、太平洋学術協会執行理事会の活動について確認を行った。					
	意思の表出（※見込み含む）					
	なし					
	開催シンポジウム等					
	なし					
開催状況	太平洋学術協会の活動が不活発だったため、実りある開催は望めなかった。随時、太平洋学術協会執行理事会の活動について確認を行った。					
今後の課題等	太平洋学術協会の今後の活動状況と当分科会の連携等、対応する。 太平洋域における学際的な研究活動について意見交換を行う。 畑井メダル顕彰事業について審議する。					

食料科学委員会（東日本大震災に係る食料問題分科会）					
委員長	未定	副委員長	未定	幹事	未定
主な活動	審議内容				
	東日本大震災に係る食料問題の解決と地域の振興に係る事項				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	●農学委員会との共催・公開シンポジウム「東日本大震災がもたらした食料問題－福島県の現状と課題」令和5年11月11日（土）13：00～17：00 https://www.scj.go.jp/ja/event/2023/353-s-1111.html				
開催状況	委員会開催なし。ただし 25 期に委員だった継続会員・連携会員を中心に公開シンポジウムを開催。その後委員を追加して、新体制で委員会を開催予定。				
今後の課題等	福島県農林水産業を中心に復興に向けた課題を検討し、26 期中も原則毎年公開シンポジウムを開催する				

食料科学委員会・基礎医学委員会合同（獣医学分科会）					
委員長	堀 正敏	副委員長	石塚 真由美	幹事	池田正浩・志水泰武
主な活動	審議内容				
	獣医学分野における、研究・教育の発展、国際的社会貢献を期すための調査審議並びに情報発信に係る審議に関すること。現在、機能性食品に係わる制度に対する討議と、50年後を見据えた獣医学研究ならびに教育体制に関する討議を行なっている。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	意思の表出「国民の健康維持・増進に資する機能性食品に係わる制度に関する提案」（査読中）
	開催シンポジウム等
	令和6年4月27日公開シンポジウム『「紅麴サプリ食品事故」から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～』（Web開催） 令和6年11月30日公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」（Web開催）（予定）（日本法獣医学会との共催）
開催状況	令和6年2月17日 第1回（Web開催）、令和6年3月29日 第2回（Web開催）、令和6年5月28日 第3回（Web開催） R6年8月21日 第4回（Web開催）
今後の課題等	現在作成している意思の表出を仕上げるとともに、50年後を見据えた獣医学研究ならびに教育体制に関する討議を行なう。

食料科学委員会・農学委員会合同（食の安全分科会）					
委員長	堀 正敏	副委員長	石塚 真由美	幹事	木村直子・松田二子
主な活動	審議内容				
	『食の安全』は科学的評価による客観的な情報と、生産者から食品事業者に至るフードチェーンの透明性の高い誠実な事業管理とその情報提供、そして行政によるリスク管理が一体となり初めて担保される。本分科会では、自然科学、農業経済、社会科学による食の安全に関する科学—行政—社会の連携構築に関わる審議を行なっている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	意思の表出「国民の健康維持・増進に資する機能性食品に係わる制度に関する提案」（査読中）				
	開催シンポジウム等				
	令和6年4月27日公開シンポジウム『「紅麴サプリ食品事故」から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～』（Web開催） 令和6年11月30日公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」（Web開催）（予定）（日本法獣医学会との共催）				
開催状況	令和6年2月17日 第1回（Web開催）、令和6年3月29日 第2回（Web開催）、令和6年5月16日 第3回（Web開催） R6年7月23日 第4回（Web開催）				
今後の課題等	現在査読中の意思の表出を仕上げるとともに、食の安全に関する科学—行政—社会の連携構築に関わる審議を引き続き行なっていく。				

食料科学委員会・農学委員会合同（農芸化学分科会）					
委員長	竹中麻子	副委員長	東原和成	幹事	室田佳恵子、小川剛伸
主な活動	審議内容				
	・農芸化学分野抱える課題等について議論した。 ・サイエンスカフェおよび公開シンポジウム等の啓発活動について検討した。 ・「健康の維持・増進のための食品」に関する意志の表出について検討した				
	意思の表出（※見込み含む）				

	・「国民の健康維持・増進に資する機能性食品に係わる制度に関する提案」を提言として表出する方向で作成中。
	開催シンポジウム等 ・サイエンスカフェ in 岩手「岩手の微生物が世界を救う？自然に還るバイオプラスチックのおはなし」（平成6年1月23日、盛岡） ・サイエンスカフェ in 東京「醤油造りでもウイルスは嫌われる」（平成6年2月10日、東京） ・サイエンスカフェ in 八戸「『発酵』をキーワードにした縄文遺跡の新たな魅力探求」（平成6年6月15日、八戸）
開催状況	平成6年2月29日（木）10:00～11:45 オンライン 平成6年5月20日（月）17:00～18:20 オンライン
今後の課題等	・意思の表出の作成を進める。 ・分科会主催のシンポジウムを開催する。 ・サイエンスカフェの共同主催を今後も積極的に行っていく。 ・農芸化学分野が抱える課題等について議論する。

食料科学委員会・農学委員会合同（農業情報システム学分科会）					
委員長	高山 弘太郎	副委員長	澁澤 栄	幹事	彦坂 晶子 福田 弘和
主な活動	審議内容				
	・農林水産業のイノベーションの基盤となる農業情報の創成とその社会実装をめざした技術開発に関する課題の審議を行った。 ・カーボンニュートラルに資するスマート農業、安全・安心が担保されたスマートフードチェーン及びそれらの自動化・ロボット化について審議・検討した。 ・オープンデータ化・スタートアップ総合支援・カーボンニュートラルへの取り組み戦略・ISOにおけるスマート農業に関するIWA 47に関する検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	あり（令和7年3月を念頭において検討中）				
	開催シンポジウム等 ・令和6年9月19日に公開シンポジウム「農業デジタルツインの現状と展望」（農業生産環境工学分科会、CIGR分科会と共同主催）を開催予定				
開催状況	第1回（令和6年3月9日）、第2回（令和6年5月29日）				
今後の課題等	・農業のオープンデータ化、スタートアップ総合支援、カーボンニュートラルへの取り組み戦略、ISOにおけるスマート農業に関するIWA 47について引き続き検討を行う。 ・公開シンポジウムのテーマとなっている農業デジタルツインに関連する項目も検討・審議内容に加える。				

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	五十嵐和彦	副委員長	柚崎 通介	幹事	西谷 陽子 山田 泰広
主な活動	審議内容				
	分科会設置状況について確認し、各分科会の活動状況の確認を行った。動物関連分科会への関与を合意した。第7期イノベーション基本計画への提言策定に関連して、研究力強化のための環境改善に向けた提言について議論した。研究基盤整備のための予算措置、雇い止め問題への対応、高額先端機器の共同利用の促進と運営経費の確保などが必要との意見が出された。医療情報を含めたヒトデータについて、個人情報の保護を図りながらヒトデータの有効活用を促進する体制構築の必要性について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	脳倫理に関する見解（科学的助言等委員会の助言を受けて改訂中）				
	開催シンポジウム等 無し				
開催状況	2023年10月3日、2024年4月23日				
今後の課題等	分野特有の問題について議論し、学術会議として意見を出していく。				

基礎医学委員会 (IUPS 分科会)					
委員長	赤羽 悟美	副委員長	久保 義弘	幹事	岡村 康司 中條 浩一
主な活動	審議内容				
	1. FAOPS2023 (Daegu (韓国) 令和 5 (2023) 年 11 月) が開催され、加藤委員および樽野委員が提案したシンポジウムを実施した。また、大会期間中に開催された総会において、FAOPS 事務局長かつ第 25 期 IUPS 分科会委員長の久保委員長、赤羽副委員長、加藤委員、樽野委員、岡村委員が代議員として出席し意思を表出した。				
	2. 上記の FAOPS2023 において、IUPS 会長の Sue Wray 教授 (英国) と、久保委員長、赤羽副委員長、岡村委員を含む IUPS 分科会委員が交流し意見交換を行った。				
	3. 第 26 期第 1 回 IUPS 分科会を、第 101 回日本生理学会大会期間中 (令和 6 (2024) 年 3 月 29 日) に開催し、委員長、副委員長、幹事を選出した。今期の活動方針を議論し、これまでの IUPS 分科会の活動の実績と経緯を踏まえつつ、我が国の生理科学、生理医科学分野の更なる発展を目指して活動を進める方針を決定した。				
	4. 次回の IUPS コンgress (IUPS2025) は令和 7 (2025) 年 9 月に Frankfurt (ドイツ) において開催される。令和 4-7 (2022-2025) 年の IUPS 第二副会長を務める久保副委員長と、IUPS 理事・分子細胞分野委員長を務める岡村幹事が、IUPS2025 の国際プログラム委員会の委員に選出され、特別講演者等 (日本からの 2 名を含む) を選定した。シンポジウム企画の募集が行われ、IUPS 分科会委員を含む日本生理学会会員から提案がなされた。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
開催状況	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
今後の課題等	IUPS2025 (Frankfurt (ドイツ) 令和 7 (2025) 年 9 月 11-14 日) を成功に導くために協力し、世界の生理科学の振興に貢献するとともに、日本のプレゼンスを示す。生理学研究の最先端を牽引するとともに、IUPS の東南アジアやアフリカ地域における生理学の研究・教育の支援プログラムに協力し貢献する。				

基礎医学委員会 (IUBMB 分科会)					
委員長		副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	世話人の五十嵐から幹事会に委員の提案を行い、五十嵐和彦、佐々木裕之、門松健治、菊池章、本橋ほづみが委員として承認された (2023 年 10 月)。IUBMB Congress 2024 (オーストラリア・シドニー) にあわせて開催される総会への Delegate 派遣者について前期の案に基づいて、本橋ほづみ教授、本間光一教授に現地参加、五十嵐和彦教授にオンライン参加を依頼し、2024 年 9 月 24 日開催の総会に参加した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	無し				
	開催シンポジウム等				

	無し
開催状況	無し
今後の課題等	IUBMB 運営体制への国内研究者の推薦。3 年後の総会で候補を推薦できるように進める。

基礎医学委員会（IUPHAR 分科会）					
委員長	古屋敷智之	副委員長	小泉修一	幹事	黒川洵子、村松里衣子
主な活動	審議内容				
	国際薬理学連合（IUPHAR）の各分科会（薬物標的命名及びデータベース構築、神経・精神薬理学、免疫薬理学、薬理学教育、電子教科書編纂の各分科会）やアジア太平洋薬理学連合執行部からの参画委員の報告に基づき、IUPHAR など諸外国の薬理学会との合同会議等での連携について協議した。IUPHAR での我が国のイニシアティブを維持向上させるため、IUPHAR への働きかけと施策の検討を継続すること、国内の薬理科学関連学協会の統合的連携を継続し国際対応基盤を強化すること、既設のウェブサイト「国際交流ひろば」を充実させて IUPHAR 活動をさらに周知することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	令和 5 年 11 月 23 日にオーストラリア・シドニーにて JPS-ASCEPT keynote address（オーストラリア・ニュージーランド薬理学会への講師派遣講演）、令和 5 年 12 月 16 日に神戸にて IUPHAR データベースの利用ガイダンスを開催した。				
開催状況	令和 5 年 12 月 27 日（水）にオンラインにて分科会を開催した。				
今後の課題等	今期の活動方針として以下の柱を設定して活動を行ってきたが、これらは重要課題として今後も継続して検討していく：（１）IUPHAR を基軸とした国際的プレゼンスの維持・向上と国際的人材の育成。（２）生命科学における薬理科学の位置づけの確立と、基礎生命科学からの創薬、医療に関わる我が国の薬理科学関連学協会の統合的な連携の構築による国際対応基盤の強化。（３）総合的な薬理科学の視点から、生命科学とその応用分野及び国際保健、国際対応に関わる意思の表出。				

基礎医学委員会（ICLAS 分科会）					
委員長	入来 篤史	副委員長	末松 誠	幹事	山崎 由美子
主な活動	審議内容				
	● 今後の動物愛護法改正に掛かる、日本実験動物学会（JALAS）や日本学術会議実験動物分科会との連携強化や、公開講座などによる啓蒙活動を検討した。 ● ICLAS 参加国の動物実験実施状況を俯瞰し、広く国際競争の資金獲得の要件となっている AAALAC International による動物実験施設の認証などの国際標準への対応が日本国内で進んでいない現状と今後の方策について検討した。 ● 7 月 10 日に来日の Jussi Helppi ICLAS 理事長と、本分科会委員および国内関連団体との意見交換の機会を設定し、当日の議題と論点を整理した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	令和6年4月5日、令和6年5月29日
今後の課題等	近く予定されている次回の CIOMS-ICLAS International Guiding Principles for Biomedical Research Involving Animals の改訂に向けた日本の効果的な対応策。

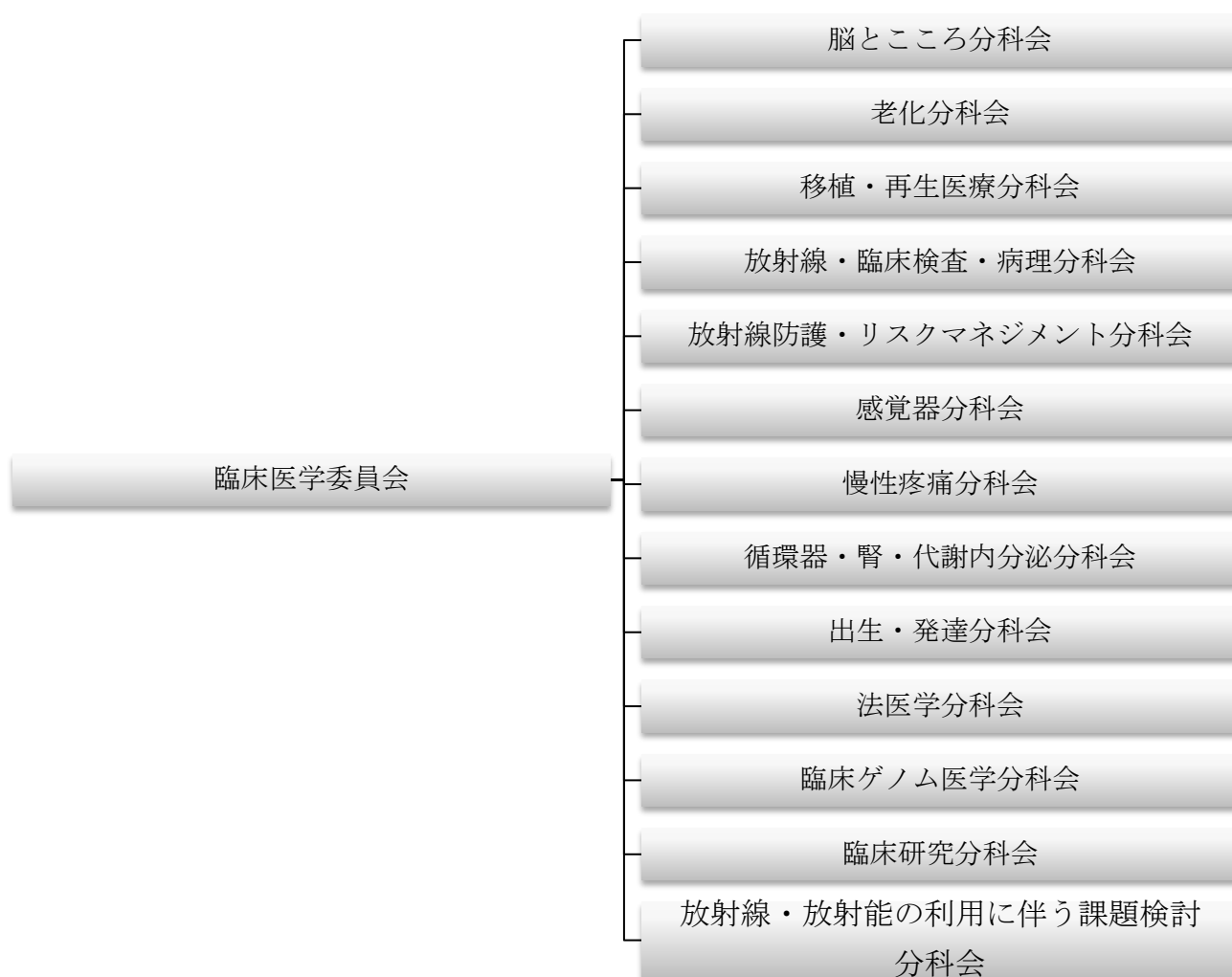
基礎医学委員会（形態・細胞生物医科学分科会）					
委員長	未定	副委員長	未定	幹事	未定
主な活動	審議内容				
	今期も高校生を対象とした生命科学の面白さを伝える形態学シンポジウムの開催を予定している。基礎生物学委員会形態・細胞生物分科会と合同で 2025 年開催に向け準備を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	今年度の予定なし				
開催状況	現在、分科会委員の追加を幹事会に諮っており、承認後第 26 期第 1 回分科会を開催し、役員および活動方針を決定する予定である。				
今後の課題等	2025 年開催予定の形態学シンポジウムの内容を詰めていく。				

基礎医学委員会（神経科学分科会）					
委員長	柚崎通介	副委員長	藤山文乃	幹事	上口裕之、渡辺雅彦
主な活動	審議内容				
	1. 脳研究倫理の見解について 2. 研究力強化についての提言について 3. グランドビジョンの update について、の 3 点を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	1. について、脳研究倫理についての見解を 2024 年度中に発出する見込みである。				
	開催シンポジウム等				
	2. について、2024 年 7 月 27 日（土）に日本学術会議・日本脳科学関連学会連合・生物科学学会連合の後援で討論会「私達が望む神経科学の研究環境—よりよき現在と未来へ向けて」を日本神経科学学会大会期間中に実施した。 http://scienceinjapan.org/topics/neuro2024.html				
開催状況	2024 年 3 月 23 日 第 1 回分科会（オンライン：出席 19 名、欠席 3 名）を開催。 2024 年 7 月 25 日 第 2 回分科会（ハイブリッド：出席 20 名、欠席 3 名）を開催。				
今後の課題等	2. については、各学会連合や、日本学術会議 研究体制分科会や研究力強化委員会等と連携して継続して活動を行う。				

基礎医学委員会（機能医科学分科会）					
委員長	金井好克	副委員長	岡村康司	幹事	西谷友重、日比野浩
主な活動	審議内容				
	機能医科学に関わる諸問題を抽出し、今期の活動方針を決定した。前期の活動を継承しつつ、基礎医学における分子と機能の両視点の重要性を鑑み、機能医科学の概念の更新と再構築、研究・教育環境の整備、人材育成、学際的・国際的連携などに関して、関連学協会と連携しながら分野横断的な議論をおこなうことを確認した。また、令和7年3月に開催される解剖学会・生理学会・薬理学会合同大会（ https://www.aeplan.jp/appw2025/outline/ ）などで共催または後援シンポジウムを実施することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	機能医科学の重要課題に関わる意思の表出を検討している。				
	開催シンポジウム等				
	第97回日本薬理学会年会（令和5年12月14～16日）において、日本学術会議の後援を得て「未来の学術振興構想」に関連したシンポジウム「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究」を開催し、多くの関心を集めた。				
開催状況	令和6年3月13日（水）にオンラインにて分科会を開催した。				
今後の課題等	今期の審議内容として以下の柱を設定して検討を行っているが、これらは機能医科学に関わる重要課題として今後も継続して検討していく：（1）持続的発展を担う環境の整備・人材育成。（2）長期的視野での学際的研究の推進。（3）関連学協会・研究者コミュニティの連携。（4）国際学術協力の推進。				

動物実験分科会					
委員長	加藤総夫	副委員長	金井正美	幹事	城石俊彦
主な活動	審議内容				
	・第25期までの実験動物分科会を動物実験分科会と改称し、動物を用いた学術・科学・教育全般を対象とした委員会として活動することを確認した。 ・令和5年に表出した「報告」の内容を確認しその実現に向けた方策を討議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	令和5年に表出した「報告」に関連した市民公開シンポジウムの開催を検討している。				
開催状況	令和6年6月12日17時にオンライン開催した。				
今後の課題等	（1）市民公開シンポジウムの計画と実施 （2）「令和5年報告」の内容の実現に向けた検討と調整				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	山本晴子	副委員長	野出孝一	幹事	秋下雅弘、斯波真理子
主な活動	審議内容				
	臨床医学委員会では、臨床医学に関する様々な学問的課題について審議することとしている。学問領域が広範囲であることから、13の分科会を設置して、分科会ごとの活動を中心としている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	臨床医学委員会としての意思の表出予定はないが、複数の分科会が今期中の意思の表出について予定している。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	臨床医学委員会としてはないが、複数の分科会がシンポジウム等の開催について予定している。				
開催状況	令和5年10月4日に第1回（ハイブリッド形式）、令和6年6月25日に第2回委員会（ウェブ会議形式）を開催した。				

今後の課題等	今後も年1、2回開催し、各分科会の活動等を見守りつつ、問題があれば議論していく予定。
--------	--

臨床医学委員会（老化分科会）					
委員長	荒井秀典	副委員長	遠藤玉夫	幹事	秋下雅弘、飯島勝矢
主な活動	審議内容				
	高齢化が進む中、人生100年時代に対する少子高齢社会への対応策を議論する必要がある。前期（第25期）から発出した見解「ウィズコロナを見据えたレジリエントな、かつ安心感ある地域づくりと医療ケア体制の再構築（令和5年9月27日）」も十分に踏まえ、臨床医学委員会及び健康・生活科学委員会の合同分科会として老化分科会（第26期）を設置した。本分科会では、社会の変化に応じた高齢者が『どのように自律、自立した生活』を送ることができるのかを、人文科学、経済学、法学、医学、工学分野の会員、連携会員により学際的に議論することにより見解等の発出を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第26期として、「高齢者の自立・自律をテーマとした人生100年時代に対する対応策（高齢社会対策）」に関する見解を発出予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和6年度末に予定				
開催状況	第1回老化分科会（第26期）（2024年3月28日）				
今後の課題等	- 本分科会からの今までの提言・見解（第21～25期）を振り返り、そのアウトカム評価として調査研究（アンケート調査）の形を取る。 - 特に、以下の課題にも焦点を当てる予定（例：人口減少下の持続可能な社会構造、地域自体の高齢化（弱体化）、高齢者のWell-being、移動問題、生涯現役の実現、地方における医療アクセス、新しい時代に向けた自助・互助を基盤とする地域づくり、等				

臨床医学委員会（移植・再生医療分科会）					
委員長	澤 芳樹	副委員長	岡野 栄之	幹事	岡田 潔
主な活動	審議内容				
	・ 移植、遺伝治療、再生医療分野の現状の課題について再度、抽出を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第25期はシンポジウムを通じた分科会の検討状況の公開と意見交換を行ったため、第26期は得られた情報から課題を抽出し、その内容を取りまとめて、内容に応じ、報告等を作成することを目指す。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	第1回 令和6年7月30日				
今後の課題等	今後第26期中に、課題の抽出を行い、シンポジウムの開催の可能性や、報告等に取りまとめることを検討する。				

臨床医学委員会（放射線・臨床検査・病理分科会）					
委員長	金井弥栄	副委員長	相田典子	幹事	矢富裕
主な活動	審議内容				
	医療機関の中央部門である放射線医学・臨床検査学・病理学の横断的審議により、特定分野の立場を超えた俯瞰的な視点を持って研究開発を推進し、医療提供体制の充実にに向けた議論を目指す。上記目的を達成するため、放射線医学ワーキンググループ（WG）・臨床検査学 WG・病理学 WG を置き、各 WG で個別の審議事項をまず洗い出し、複数 WG あるいは分科会全体で審議すべき事項を明らかにして、横断的審議の実を挙げる方針が承認された。各 WG 主体で見解等の案が作成された場合は、分科会全体で一致協力して発出を準備する予定である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和 5 年 9 月 19 日【見解】「医療従事者の職業被ばくに係る放射線管理の改善に向けて」発出。本見解は、政府に法に基づく対応を求めるもので、見解の取りまとめに当たり官庁の複数の関係部局との意見交換を行い、発出後にさらに協議を継続している。				
	開催シンポジウム等 該当なし。				
開催状況	令和 5 年 8 月 31 日（木）14:00-14:45 第 25 期・第 7 回分科会 web 開催 令和 6 年 2 月 15 日（木）10:00-11:30 第 26 期・第 1 回分科会 web 開催 令和 6 年 8 月 2 日（金）16:00-16:30 第 26 期・第 1 回臨床検査学 WG web 開催				
今後の課題等	3WG が連携して取り組むべき課題として、タスクシフト・ビッグデータ取扱い・医療機関間等でのデータ共有・ゲノム医療にかかる人工知能（AI）の活用等を想定している。				

臨床医学委員会（放射線防護・リスクマネジメント分科会）					
委員長	神谷研二	副委員長	島田義也	幹事	井上優介、細谷紀子
主な活動	審議内容				
	・委員長、副委員長、二名の幹事を選出した。 ・現在までに取り纏めた「医療の現場から放射線の国民的な理解促進に向けた提言（仮題）」を核として、今期中を目処に意思の表出を目指すことを確認した。 ・今後の議論の方向性について審議した。その中では、現在、議論している医療現場を活用する方策の他に、学校教育（初等、中等、高等教育、及び医療専門職教育）や学会等との連携した取り組みの重要性も検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中を目処に意思の表出を目指す。				
	開催シンポジウム等 開催していない。				
開催状況	令和 6 年 3 月 11 日（月）				
今後の課題等	福島事故後 10 年以上が経過し、一般国民の放射線リスクに対する関心が薄れてきている。この様な中で、医療現場等で多くの関係者を巻き込んだ取り組みを推進することは難しくなっている。学校教育の中に放射線教育を取り入れる方策を検討するためには、更なる情報収集が必要である。				

臨床医学委員会（感覚器分科会）

委員長	寺崎 浩子	副委員長	山嵜 達也	幹事	五味 文、松本 有
主な活動	審議内容				
	心身ともに健康である超高齢社会を目指した議論を進めており、感覚器の重要性を啓発するための「感覚器の予防医療」等をテーマとした市民公開講座の今年度中の開催に向けて、その企画内容について検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年5月13日※オンライン				
今後の課題等	人文・社会科学、生命科学、理学・工学の有識者と連携を取り、領域横断的な視点から「情報弱者との共生」社会の実現に向けた議論を深めること。				

臨床医学委員会（慢性疼痛分科会）					
委員長	中村雅也	副委員長	住谷昌彦	幹事	
主な活動	審議内容				
	・令和5年9月発出した見解の英語要旨を作成した。 ・運動器疼痛の解決に向けた取り組み方法について、一次～三次予防の層別化した取り組み方法を議論した。 ・この取り組みの議論、強化のために委員の追加を議論し特任連携会員2名を追加した。 ・一般住民を対象として市民公開セミナーの開催を企画し、重症運動器疼痛に対する三次予防の在り方を議論する会合の必要性を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし（令和5年9月27日見解を発出済み）				
	開催シンポジウム等				
	なし（令和7年2月16日市民公開セミナー開催予定）				
開催状況	令和6年5月2日				
今後の課題等	・運動器疼痛について市民公開セミナーおよび専門家向け議論の会合の開先と企画する				

臨床医学委員会（循環器・腎・代謝内分泌分科会）					
委員長	野出孝一	副委員長	斯波真理子	幹事	水野篤/金子英弘
主な活動	審議内容				
	提言の内容について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	2027 年に提言の表出予定。
	開催シンポジウム等
	2025 年春を予定している。
開催状況	委員長や幹事等のコアメンバーによるWEB会議を複数回行った。
今後の課題等	提言の内容を確定する。

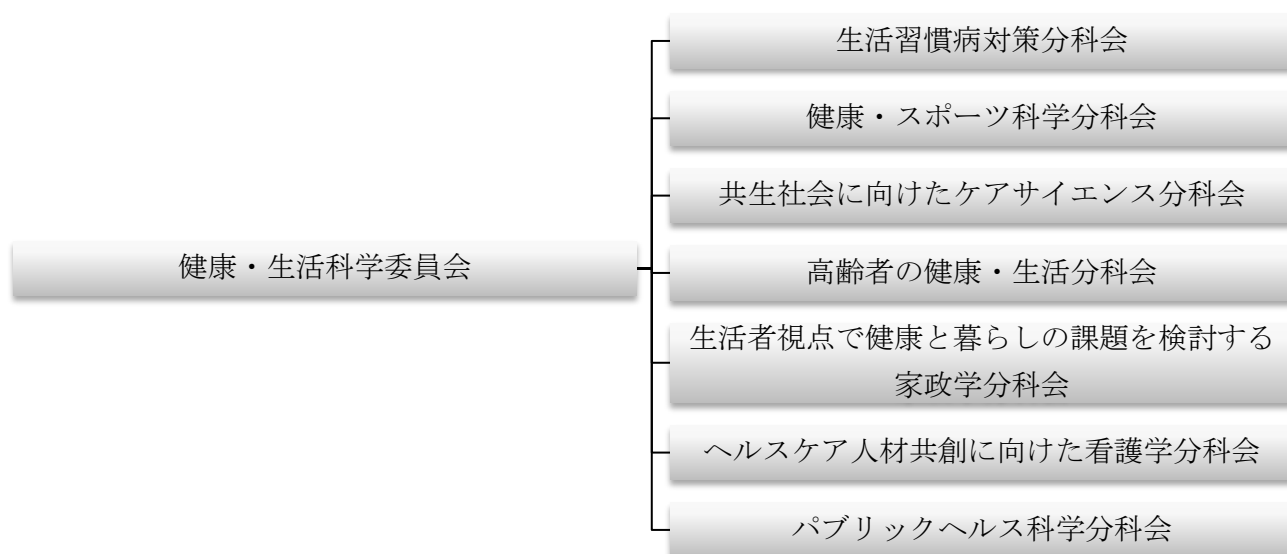
臨床医学委員会・健康・生活科学委員会（出生・発達分科会）					
委員長	高橋尚人	副委員長	古庄知己	幹事	武藤香織, 石崎優子
主な活動	審議内容				
	・「小児・新生児の最善の利益」の定義と条件および代理意思決定の課題の抽出と臨床応用の仕方に係る審議を行っている。 ・各委員の研究・経験の報告の会議を頻回に実施し、議論を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	発出予定は第26期の終了前。				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウムを令和8年6月頃開催予定				
開催状況	会議（令和6年3月28日、6月27日、7月2日、4日、25日、8月7日、28日、9月3日、26日、30日）勉強会（令和6年5月22日、8月16日）				
今後の課題等	・多くの課題がある中で意思の表出に至るための委員の意見の集約 ・意思表出後のフォローアップを行うための審議日程の再調整				

臨床医学委員会（臨床研究分科会）					
委員長	山本晴子	副委員長	金子祐子	幹事	未定
主な活動	審議内容				
	日本の臨床研究の推進・強化のための方策や、医療・医学分野の特徴を踏まえた臨床研究体制の整備に係る審議を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	26期末頃に意思の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				

	令和 7 年中の開催を予定している。
開催状況	令和 6 年 4 月 15 日、同年 7 月 4 日に開催した（いずれもウェブ会議形式）。
今後の課題等	今年度中にシンポジウムの開催に向けた議論を行い、来年度にシンポジウムを開催し、その上で意見を取りまとめる予定である。

臨床医学委員会・総合工学委員会合同（放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）					
委員長	中野 隆史	副委員長	櫻井 博儀	幹事	唐澤 久美子、西尾 禎治
主な活動	審議内容				
	高齢化社会の医療課題であるがんの制圧に向けて、より安全で安心な治療成績の良好な QOL の高い治療法である粒子線治療（陽子線治療及び重粒子線治療）は益々今後の需要が高く見込まれている。国際的な治療技術開発競争の渦中にあるこの粒子線がん治療研究開発及びその社会実装について国際的な競争力の増強支援に関する審議を俯瞰的かつ分野横断的に行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	粒子線治療や治療器開発等の専門家や様々な学会関係者に加え、産業界関係者も交えて、学際的な討議ののちに、その国際的な競争力増強支援策を取りまとめ、政府に提言を発出する予定。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	1) 令和 6 年 7 月 26 日、第 1 回分科会（web 会議）を開催。				
今後の課題等	当該小委員会を早期に開催し、当該課題の活動方針の策定と問題点の整理を行う。				

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	西村ユミ	副委員長	杉山久仁子	幹事	玉腰暁子 熊谷晋一郎
主な活動	審議内容				
	定期的に委員会を開催し、7 分科会間の活動の進捗報告を行うとともに、シンポジウム、および意見表出の共同について調整を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	委員会としてはなし				
	開催シンポジウム等				
	委員会としてはなし				
開催状況	計 5 回の開催。令和 5 年 10 月 4 日（対面・オンライン）、令和 6 年 4 月 24 日（対面・オンライン）、6 月 1 日（オンライン）、7 月 23 日（オンライン）、9 月 26 日（オンライン）				
今後の課題等	7 分科会において、共同できるシンポジウムおよび意見表出について確認し、相互に情報提供と意見表出のための共同を進め、分野を超えたシンポジウム、および意見表出を実現させる。				

健康・生活科学委員会（生活習慣病対策分科会）					
委員長	野出孝一	副委員長	郡山千早	幹事	池田彩子、八谷寛
主な活動	審議内容				
	提言の内容について議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	提言を 2026 年に発出予定。
	開催シンポジウム等
	2024 年 12 月と 2025 年 5 月に開催予定。
開催状況	コアメンバーによる会議と分科会全員による会議を複数回行った。
今後の課題等	提言の内容を決定していく。

健康・生活委員会（健康・スポーツ科学分科会）					
委員長	山口 香	副委員長	宮地 元彦	幹事	家光素行 中村真理子
主な活動	審議内容				
	1. 「性的指向・ジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」の施行を踏まえた、LGBTQ+等当事者のスポーツ分野への公平で包摂的な参画に関する課題の抽出・解決に向けた議論 2. スポーツへのアクセスが困難な人々に対する体力・トレーニングのあり方 3. スポーツ庁、関連団体、関連学術団体からの学術分野に対する期待や要望のヒアリング、社会に貢献する健康・スポーツ科学の方向性やビジョンに関する議論 意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	・令和 6 年 6 月 15 日体育・スポーツ・健康科学 学術フォーラム 2024 報告 社会参加につながるスポーツのあり方（25 期に表出した「報告」） 第 25 期日本学術会議健康・スポーツ科学分科会委員長 宮地元彦 ・パリオリンピック・パラリンピック終了後に、世界のスポーツ動向等について情報共有及び議論を行うシンポジウム開催を予定（時期未定）				
開催状況	令和 6 年 2 月 19 日第 1 回分科会開催				
今後の課題等	少人数の作業部会を設定し、同時並行的に複数のテーマを議論する。分科会のみならず学際的な議論をしていくための体制づくり。				

健康・生活委員会（高齢者の健康・生活分科会）					
委員長	森山美知子	副委員長	住居広士	幹事	飯島勝矢 伊香賀俊治
主な活動	審議内容				
	超高齢化社会において、障害を有しても社会で安心して生き生きと活動できるよう、最新の科学的知見による障害特性に応じた環境整備、住環境や交通・就労環境の構築による「エイジフレンドリーシティ／高齢者にやさしいまちづくり」の実現に向けた提言を行うために、以下について議論を行った。 ・人口規模／構造変化の観点からの高齢者をめぐる変化、高齢者ケアの分析、農村地域での対策、高齢者の住居環境／建築 意思の表出（※見込み含む）				

	第 26 期中に見解あるいは報告を発出予定。
	開催シンポジウム等
	令和 7 年 2 月あるいは 3 月に第 1 回公開シンポジウムの開催を予定している。
開催状況	合計 3 回開催した。令和 6 年 3 月 14 日（オンライン）、5 月 22 日（オンライン）、7 月 30 日（オンライン）
今後の課題等	第 1 回公開シンポジウムの内容を決定し、先進領域からの意見を集約し、提言の方向性を確定する。さらに、提言の拡大をめざして議論を進める。

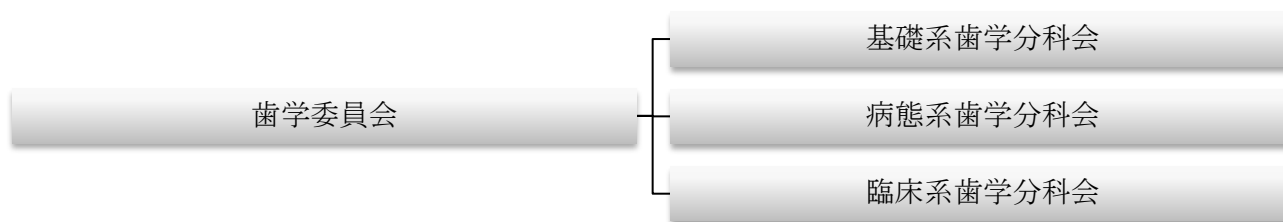
健康・生活科学委員会（生活者視点で健康と暮らしの課題を検討する家政学学科会）					
委員長	杉山久仁子	副委員長	守随香	幹事	佐藤裕紀子、宮崎陽子
主な活動	審議内容				
	前期に発出した子育て支援に関する「報告」の内容を、生活科学系コンソーシアムと共有し、さらなる議論を進めるためにシンポジウムの開催などに検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期中の発出を予定				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムを令和 6 年 12 月頃開催することを検討中。				
開催状況	令和 6 年 2 月 6 日、3 月 6 日、4 月 23 日、9 月（予定）				
今後の課題等	子育て支援について、幅広い見地から多面的かつ包括的に生活科学の視点で議論すると共に、持続可能な生活実現のための生涯教育についても検討する。				

健康・生活委員会（ヘルスケア人材共創に向けた看護学学科会）					
委員長	西村ユミ	副委員長	森山美知子	幹事	大久保暢子・仲上豪二朗
主な活動	審議内容				
	人口減少社会において「真に国民に求められるヘルスケア人材」と何かを、関係するすべての医療専門職種と共に検討し、教育および実践の新たなあり方を提案することを目指す。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期中に見解あるいは報告を発出予定。				
	開催シンポジウム等				
	令和 7 年 1 月あるいは 2 月に第 1 回公開シンポジウムの開催を予定している。				
開催状況	合計 4 回開催した。令和 6 年 2 月 12 日（オンライン）、4 月 29 日（オンライン）、7 月 7 日（オンライン）、9 月 23 日（オンライン）				
今後の課題等	第 1 回公開シンポジウムの内容を決定し早急に多方面に周知することで、多職種から多くの参加者を得て、喫緊の課題と対応について議論すると共に、意思の表出に繋げる。				

健康・生活科学委員会（パブリックヘルス科学学科会）					
委員長	玉腰暁子	副委員長	森晃爾	幹事	田高悦子

主な活動	審議内容
	喫煙対策、公衆衛生人材育成につき、意思表出を行うための情報収集、意見交換を行っている。
	意思の表出（※見込み含む）
	喫煙対策、公衆衛生人材育成の2つに関して、発出（提言・見解・報告のどれか）予定
	開催シンポジウム等
	令和6年秋に日本公衆衛生学会総会（北海道札幌市）において、「サステナビリティな社会を創るために公衆衛生はどうあるべきか」と題して、シンポジウムを開催する。
開催状況	オンラインにて、2024年3月19日、6月27日、9月4日（予定）に実施
今後の課題等	人口減少社会の中で人々のウェルビーイング向上に向けてパブリックヘルスが果たす役割の検討

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	村上伸也	副委員長	森山啓司	幹事	樋田京子
主な活動	審議内容				
	25 期に設置していた、基礎系歯学分科会、臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会の活動状況を再確認の上、26 期における分科会のあり方について議論し、上記 3 分科会を継続設置することを承認し、幹事会の承認を得た。材料工学委員会 バイオマテリアル分科会を共同設置することを承認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記 3 分科会と連携して、26 期中に意思の表出を行う計画を進めている。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	公開シンポジウム「歯学から発信する再生医療の将来展望」を令和 6 年 7 月 20 日に東京大学 安田講堂にて開催した。				
	第 26 期 第 1 回歯学委員会（令和 6 年 10 月 4 日） 第 26 期 第 2 回歯学委員会（令和 6 年 10 月 17 日） 第 26 期 第 3 回歯学委員会（令和 6 年 12 月 19 日）				
今後の課題等	採択された未来の学術振興構想の具現化に向けて、多くの関係者と情報交換し、活動を継続していく。				

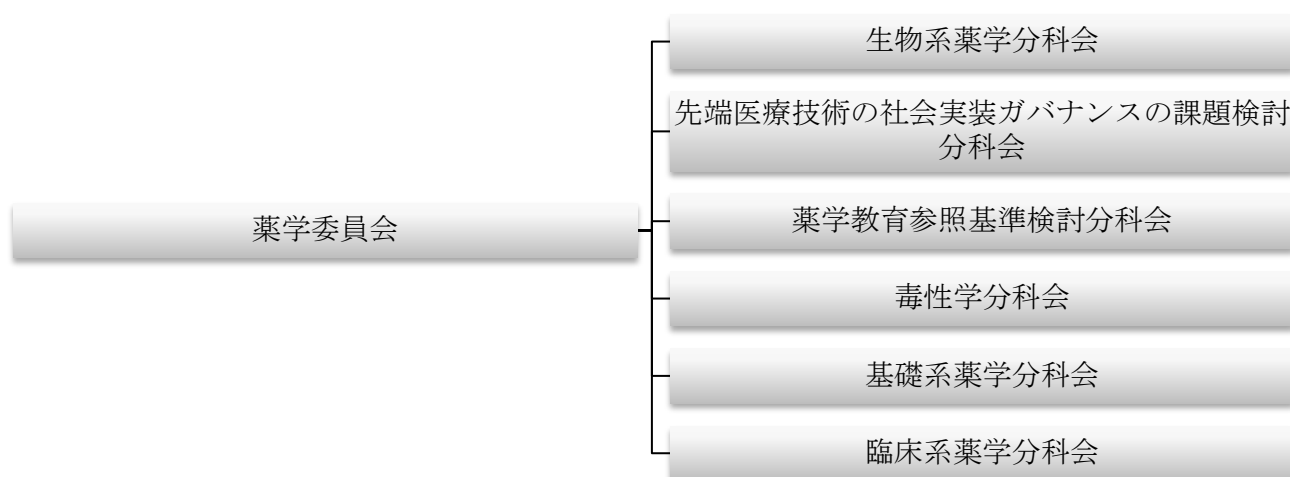
歯学委員会（基礎系歯学分科会）					
委員長	樋田 京子	副委員長	石丸 直澄	幹事	井関祥子，美島健二
主な活動	審議内容				
	基礎系歯学の学術の現状認識を踏まえて、今後の歯学・口腔科学の基礎系領域の学術のあり方、展望および情報発信に関する課題を協議した。 当分科会が主体となるシンポジウム企画について協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会と合同で発出に向けて協議を進める。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和 6 年 11 月 2 日に、第 66 回歯科基礎医学会学術大会において、合同主催により本分科会メンバーが中心となり、公開シンポジウム「あごと顔の発生と進化」を開催予定である。				

開催状況	令和6年2月20日に第1回分科会（オンライン）を開催 令和6年3月5日委員追加についてメール審議
今後の課題等	基礎歯学・口腔科学研究および学術のあり方および展望を協議し、幅広い学術分野との横断的連携を促進する。

歯学委員会（病態系歯学分科会）					
委員長	村上伸也	副委員長	中村誠司	幹事	
主な活動	審議内容				
	下記、公開シンポジウムの開催につき立案し、審議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会と連携して、26期中に意思の表出を行う計画を進めている。				
	開催シンポジウム等 病態系歯学委員会が中心となり、公開シンポジウム「歯学から発信する再生医療の将来展望」を令和6年7月20日に東京大学 安田講堂にて開催した。				
開催状況	第26期第1回病態系歯学分科会（令和6年4月24日～30日掲示板での意見交換、5月1日～5月7日メール審議採決）				
今後の課題等	健康・幸福寿命の延伸西するスマート歯科医学・歯科医療の実現に向けて、分野横断的に、多くの関係者と議論を継続していく。				

歯学委員会（臨床系歯学分科会）					
委員長	森山啓司	副委員長	林 美加子	幹事	
主な活動	審議内容				
	公開シンポジウムの開催について審議を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	歯学委員会と協議を行いながら合同での発出について検討を進める。				
	開催シンポジウム等 公開シンポジウム『女性理系研究者が拓く未来-歯学から芽生える新たな可能性』 〔令和6年10月30日；パシフィコ横浜（オンデマンド配信）〕の開催を計画中。 https://square.umin.ac.jp/jos-am/japanese/program.html				
開催状況	第1回臨床系歯学分科会（令和6年6月7日-10日：メール審議）				
今後の課題等	日本学術会議の現状について関係者と情報共有するとともに、臨床系歯学領域の課題と将来展望について議論を深める。				

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	奥田 真弘	副委員長	山崎 真巳	幹事	奥野 恭史、眞鍋 史乃
主な活動	審議内容				
	1) 第 26 期薬学委員会に属する分科会のあり方に関する意見交換、2) 会則第 27 条第 2 項の文言追加、3) 薬学委員会委員、連携会員（特任）の追加、等を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	なし				
	令和 5 年 1 0 月 4 日（第 1 回・ハイブリッド開催）、令和 6 年 4 月 24 日（第 2 回・ハイブリッド開催）				
今後の課題等	日学の分科会見直し方針に沿って所属分科会を見直し、7 分科会から 6 分科会に再編した（生物系薬学分科会は令和 6 年 3 月に活動終了）ため、一部の分科会で活動の開始が遅れている。薬学領域がかかえる諸課題について関連他領域との連携を図りながら、学術的側面から検討を行い、社会に向けて情報発信を目指す。				

薬学委員会（生物系薬学分科会）					
委員長	一條 秀憲（令和 6 年 1 月 11 日まで） 藤田 直也（令和 6 年 1 月 12 日より）	副委員長	深見 希代子（令和 6 年 1 月 11 日まで） 三澤 日出巳（令和 6 年 1 月 12 日より）	幹事	赤羽 悟美、藤田 直也（令和 6 年 1 月 11 日まで） 内山 真伸、中島 美紀（令和 6 年 1 月 12 日より）
主な活動	審議内容				
	・生物系薬学領域において注目されている課題について議論するとともに、今後の活動方針として、他の分科会との分野横断的な連携の可能性を議論した。 ・令和 5 年度生物系薬学分科会シンポジウムのテーマとして挙げた「AI と薬学の未来」に関する内容を議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	特に無し。
	開催シンポジウム等 令和6年1月12日に「AIが拓く創薬と医療の未来」と題した公開シンポジウムを日本学術会議講堂にてオンサイト開催した。シンポジウムの記録動画は、日本学術会議のWEBサイト上からもアクセス可能なようにリンクを掲載した。 (https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/358-s-0112.html)
開催状況	第1回分科会 令和6年1月12日 ハイブリッド開催 第2回分科会 令和6年2月26日 オンライン開催
今後の課題等	化学・物理系薬学分科会と統合して基礎系薬学分科会として活動することになったが、薬学の幅広い分野をどのように取りまとめていくのかを検討する。

薬学委員会、臨床医学委員会、材料工学委員会、機械工学委員会、総合工学、政治学委員会合同（先端医療技術の社会実装ガバナンスの課題検討分科会）

委員長	加納信吾	副委員長	関野祐子	幹事	城山英明、林裕子
主な活動	審議内容 先端医療技術の利用ルールを迅速に整備していくための「仕組みづくり」について多面的に議論し、社会実装におけるガバナンスとルール組成の在り方について審議している。2023年9月に発出した提言「革新的医療製品の評価技術を迅速に適格性認定するための5つの提言」の実現を図るべく、活動を継続している。 意思の表出（※見込み含む） ・26期の最終年に予定している。 開催シンポジウム等 ・レギュラトリーサイエンス学会年次大会にて、シンポジウム（2時間）を開催（令和6年9月13日）				
開催状況	令和6年7月24日（オンライン開催）				
今後の課題等	・ルール・オブ・ルールズ型の評価技術の適格性認定システム実現のために関係する政府機関に働きかけると同時に、必要となる研究資源の強化のための政策的な位置づけを検討することが課題である。				

薬学委員会（薬学教育参照基準検討分科会）

委員長	太田 茂	副委員長	入江 徹美	幹事	堤康夫、石井伊都子
主な活動	審議内容 薬学分野における教育課程編成上の参照基準を作成している。既に薬学教育課程の中で4年制教育については日本学術会議から報告の形式で表出しているため、今回は6年制教育も併せ薬学教育全般の参照基準作成を目指している。 意思の表出（※見込み含む） 本年度中に「報告」としての表出を目指している。 開催シンポジウム等				

	特になし
開催状況	令和6年7月31日オンライン
今後の課題等	今年度中に作成を終了すべく検討している。

薬学委員会（毒性学学科会）					
委員長	菅野純	副委員長	山崎真巳	幹事	上田佳代、石塚真由美
主な活動	審議内容				
	- 第26期の「分科会」の設置方針の変更に伴い、学際性を強調した布陣について論議を重ね、新たに牛島俊和、小椋康光、末松誠、萩原正敏、安西尚彦の各先生の参加を取り付けた（後3者は手続中）。 「毒性学」関連の意思の表出等に関しての方針や内容について議論された。 - 日本毒性学会におけるWEBサイト運営等の補助の有効活用について論議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	令和6年6月7日（オンライン） 令和6年9月19日 予定（オンライン）				
今後の課題等	前期からのシンポジウム（子どもの毒性学等）の継承と、広い視野からの立案。				

薬学委員会（基礎系薬学学科会）					
委員長	眞鍋 史乃	副委員長	藤田 直也	幹事	井上豪・中島美紀
主な活動	審議内容				
	（旧）化学・物理化学系薬学学科会と（旧）生物系薬学学科会が統合した基礎系基礎系薬学学科会が広い分野からのどのように今後の活動を行うのかについて議論し、連携会員の中でのアンケートで意見収集を行った。主に研究力の強化について発信していく方向に定まった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年5月9日（金）14:00～16:00・ハイブリッド形式 令和6年8月29日（金）10:00～12:00・オンライン形式				
今後の課題等	今後、シンポジウム開催などにより、議論を進め、国民に発信を行う。				

薬学委員会（臨床系薬学分科会）					
委員長	未定	副委員長	未定	幹事	未定
主な活動	審議内容				
	活動開始に向けた準備を進めている				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今年度は特になし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウムを２月頃開催予定				
開催状況	未開催				
今後の課題等	具体的な活動計画を検討中				

②⑩環境学委員会



環境学委員会					
委員長	森口祐一	副委員長	池邊このみ	幹事	島村健、下田吉之
主な活動	審議内容				
	環境学委員会は、分野別委員会では唯一、第一部～第三部横断的な委員会であり、各部の会員、連携会員が協力し、学際的な議論を展開している。それらは既存の学会や審議会等ではカバーしきれない貴重な取組みであり、分野別委員会の機能強化に向けて、今後一層、各種政策の統合的な推進に資する提案や自由度の高い取組みが求められる。環境政策の中心化の一助となり、省庁間の情報共有・連携の強化や科学（エビデンス）統合の一翼として、環境諮問委員会的な役割を目指す。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	各分科会において検討するとともに、委員会全体としての表出の可能性、他の分野別委員会主管の分科会との合同での表出の可能性も念頭におく。				
	開催シンポジウム等				
	各分科会で企画するほか、25 期に開催した学術フォーラムのように、委員会全体としての公開行事の可能性についても検討する予定。				
開催状況	第1回：26 期期初の総会会期中の 10 月 4 日（水）にハイブリッド開催 第2回：11 月（メール審議）計 6 件の分科会の設置承認と 2 件の分科会の名簿承認 第3回：12 月（メール審議）分科会 2 件設置承認と、5 件の分科会の名簿承認 第4回：1 月（メール審議）分科会 2 件の名簿、1 件の委員追加承認 第5回：春の総会会期に開催し、連携会員 4 名の委員追加を承認				
今後の課題等	連携会員含め分科会の委員長全員が本委員会の構成員として加わる形としており、他の分野別委員会が主管のものも含め、各分科会のシンポジウム開催、意思の表出の検討状況について、密な情報共有を維持する。				

環境学委員会・地球惑星科学委員会合同（FE・WCRP 合同分科会）					
委員長	春日文子	副委員長	中村 尚	幹事	張 勁、金谷有剛

主な活動	審議内容
	フューチャー・アース(FE)と世界気候研究計画(WCRP)に関わる情報を共有し、主要な研究テーマに関して検討と審議を行う。第1回分科会では、役員を決定し、11の小委員会設置を承認した。その後、CliC小委員会杉山慎氏の2024年4月の代表派遣が決定した。
	意思の表出(※見込み含む)
	未定
	開催シンポジウム等
開催状況	・iLEAPS-Japan 研究集会 2023: 令和5年11月20日-21日、北海道大学 ・日本地球惑星科学連合大会でのAPARCセッション: 令和6年5月28日 ・第9回GEWEX 全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議: 令和6年7月8～12日、札幌 ・iLEAPS-Japan 研究集会 2024: 令和6年9月26日-27日、名古屋大学(予定)
	・第1回分科会: 令和5年12月16日 16:00～18:05 ・第1回PAGES小委員会: 令和6年2月28日 ・第1回IGAC小委員会: 令和6年3月25日 ・第1回iLEAPS小委員会: 令和6年4月26日 ・第1回CLIVAR小委員会: 令和6年5月17日 ・第1回APARC小委員会: 令和6年5月23日 ・第1回GLP小委員会: 令和6年6月17日 ・第1回CliC小委員会: 令和6年6月24日 ・第1回Future Earth Coasts小委員会: 令和6年7月29日 ・第2回iLEAPS小委員会: 令和6年9月27日、名古屋大学(予定)
今後の課題等	FEの10年間のまとめならびに公開講演会の開催について検討する。

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同（環境リスク分科会）					
委員長	中村桂子	副委員長	浅見真理	幹事	小熊久美子、橋爪真弘
主な活動	審議内容				
	「リスク教育の専門家の育成」「プラスチックのガバナンス」「プラネタリーヘルス」の3論点とすることとした。エビデンスと社会合意に基づいた意思決定を支える諸科学の発展、国際社会との協力、専門家の育成の観点から、議論を行い、基本概念の整理と情報共有を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	市民行政民間を含めた意見交換をふまえ、国際社会との協力にもつながる意思の表出をめざす。				
	開催シンポジウム等				
	令和6年11月9日 プラネタリーヘルスに関するシンポジウムを検討中。 令和7年3月21日 日本衛生学会と共催の公開シンポジウムを計画中。				
開催状況	第1回 令和6年3月11日 オンライン会議／第2回 4月30日より5月8日 メール審議／第3回 7月8日 オンライン会議				
今後の課題等	他の分科会との連携、行政や教育現場などでも引用してもらえるような資料、学術分野だけでなく市民行政民間を含めて意見交換する場、民間におけるリスク評価と管理方法の知見の共有の機会を設ける。				

環境学委員会(環境思想・環境教育分科会)					
委員長	豊田光世	副委員長	浅利美鈴	幹事	井上真理子、大浦由

					美
主な活動	審議内容				
	環境思想・環境教育について考えていくうえで、環境問題に対する関心の低さ、環境問題について対話する場の少なさ、体験や学びが内在化されない、グローバル・日本・ローカルの間の乖離などは、依然として課題である。さまざまなステークホルダーの参画による環境思想・環境教育の課題の整理と議論の深掘りが重要であることから、当該テーマに関する公開シンポジウム（パブリックフォーラム）の開催することとし、オープンな場での対話・議論を土台に環境思想・環境教育の新たな方向性を示す意思の表出へとつなげることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	令和6年度末までに検討を行う。				
	開催シンポジウム等				
	環境思想・環境教育に関する公開シンポジウムを令和7年3月8日に開催予定。				
開催状況	第1回：令和6年4月9日，第2回：令和6年5月23日，第3回：令和6年7月31日，第4回：令和6年9月4日				
今後の課題等	パブリックフォーラムの具体的な実施内容の検討、その成果にもとづく意思の表出の方向性の検討				

環境学委員会（環境政策・環境計画分科会）					
委員長	大塚直	副委員長	浅見真理	幹事	村上暁信、島村健
主な活動	審議内容				
	第1回（令和6年3月21日）は、委員の関心のあるトピックとして、政策統合、ウェルビーイングとの関係、ネイチャーポジティブ、TNFD、環境ラベル、第三者認証、産業構造との関係、消費者行動、実社会のステークホルダーがどう影響するか、ESG投資、経済指標のグローバル化、などのキーワードが提示された。そして、政策統合、ネイチャーポジティブ、気候変動を中心に、他のトピックも取り上げつつ議論をしていくことが確認された。				
	第2回（令和6年7月29日）では、藤井健吉委員から「環境政策・環境計画とグローバル規制構造」と題した報告がなされ、企業活動と環境への取り組みについて紹介された。ESGへの取り組みや「もったいないを、ほっとけない」というスローガンを掲げた取り組みについて紹介がされた。本報告に関連して、TCFD、TNFDと企業活動の関係、デューデリジェンスとの関係などについて積極的な意見交換がなされた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定。				
	開催シンポジウム等				

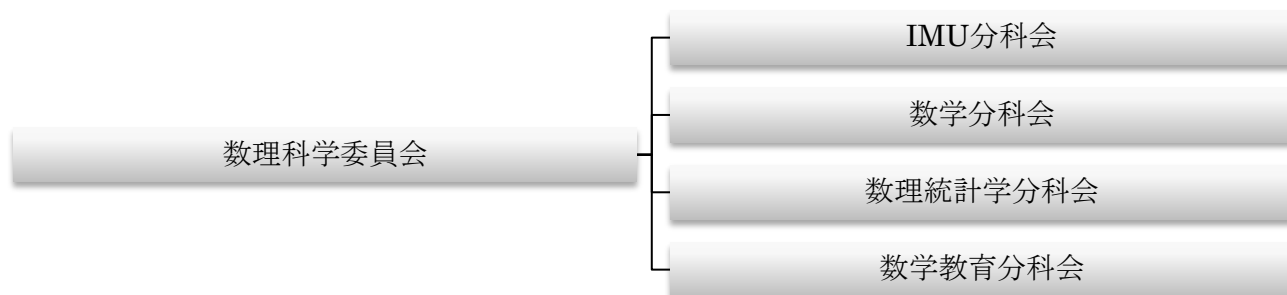
	開催予定。
開催状況	第1回令和6年3月21日 第2回令和6年7月29日
今後の課題等	次回は生物多様性について扱う予定。3年の間に、脱炭素社会や生物多様性の確保を含む、持続可能な社会・経済の実現という観点から、環境政策・環境計画の課題を明らかにし、課題への対応策を議論していきたい。

環境学委員会（環境科学・環境工学分科会）					
委員長	北川尚美	副委員長	森口祐一	幹事	恒川篤史、藤岡沙都子
主な活動	審議内容				
	1. 目指す1つのテーマに対して、多様な分野の専門家が議論を行い、実現可能な形を作り上げるための方法論				
	2. シンポジウムやワークショップを利用して、国民、特に次世代を担う若者たちと双方向での議論を進めるための方法論				
	に係る審議に関すること				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期は、環境、教育、技術という3つの大きなテーマを取り上げ、双方向の対話、市民と若手、総合知といった視点から議論を深め、公開シンポジウムや意思の表出に繋げていく。				
開催状況	開催シンポジウム等				
	令和6年5月28日 公開シンポジウム「第36回環境工学連合講演会」を開催				
	第1回分科会 令和6年2月20日				
	第2回分科会 令和6年5月29日				
	第1回勉強会 令和6年7月2日				
	第2回勉強会 令和6年7月29日				
今後の課題等	第3回勉強会 令和6年9月3日				
	第3回分科会 令和6年9月17－19日（メール審議）				
	環境工学連合小委員会				
	第1回委員会 令和6年5月28日				
	第2回委員会 令和6年9月2日				
	議論を深めるために、定期的な勉強会をオンラインで行うこととした。まずは、①教育、②都市と自然、③技術と社会、の3つのテーマを順に取り上げ、月に一度、2件の話題提供を頂いた後にフリーディスカッションを進めていく。				

環境学委員会・統合生物学委員会（自然環境分科会）					
委員長	池邊このみ	副委員長	森口 祐一、北島 薫	幹事	大黒 俊哉、田島 夏与、森本 淳子
主な活動	審議内容				

	第 25 期に開催したシンポジウム『『みち』の視点からとらえる人と自然のかかわり』を踏まえた第 26 期の意思の表出の内容とあり方と内容について、特に昨今の自然環境をめぐる国際的な情勢を踏まえた視点からの学術会議としての融合・横断的視点からの検討。
	意思の表出（※見込み含む）
	意思の表出は、報告の方向で検討を実施。第 26 期からのメンバーを含め、できる限り、分科会メンバー全員からの執筆の検討を実施予定。
	開催シンポジウム等
	第 25 期で開催したので、今期は、意思の表出を第一に考え、早めに原稿ができあがった場合には、その内容を踏まえた内容での実施を検討。
開催状況	令和 6 年 5 月 16 日に第 1 回を実施し、シンポジウムの振り返りと各メンバーからの今期の意思の表出に含めるべき内容、キーワードなどを提出。10 月に開催（当初、9 月 30 日に開催予定）の第 2 回では、より詳細な内容を書面で提出してもらい、全体の構想と目次を検討する予定。
今後の課題等	日程調整の関係で先期を含め、出席できていないメンバーがいることから、書面での意見提出を依頼し、今後、全体を 3 分割し、各幹事により書面のやり取りなどを行い各メンバーの意見の反映を行う必要がある。

②数理科学委員会



数理科学委員会					
委員長	齋藤政彦	副委員長	伊藤由香理	幹事	小藺英雄、望月拓郎
主な活動	審議内容				
	・ 数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会の設置提案書を承認した。 ・ 数学分科会、数理統計学分科会、数学教育分科会の委員候補の承認を行った。 ・ 数理科学委員会の追加委員候補の承認を行った。 ・ 第 25 期に策定の「学術の中長期研究戦略(2023 年度版)」に採択された数学・数理科学分野の各研究戦略を確認し、今後どのように数学・数理科学の研究の振興につなげるかという意見交換を行い、第 26 期にエビデンスに基づく提言を行う方向を確認した。 ・ 数理科学関係の予算についての情報交換を行った。 ・ IMU 分科会、関連学協会と協力し、ICM の日本招致の可能性を検討した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期に数学・数理科学の振興と他分野・産業の連携、国際対応について意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	第 26 期におけるシンポジウムの具体化に向けて現在検討中である。				
開催状況	第 26 期・第 1 回 令和 5 年(2023 年)10 月 4 日(水) 第 26 期・第 2 回 令和 5 年(2023 年)11 月 14 日(火)～令和 5 年(2023 年)11 月 18 日(木) メール審議 第 26 期・第 3 回 令和 6 年(2024 年)1 月 20 日(土) 第 26 期・第 4 回 令和 6 年(2024 年)3 月 9 日(土) 第 26 期・第 5 回 令和 6 年(2024 年)5 月 1 日(水)				
今後の課題等	● 学術の中長期研究戦略のフォローアップと数学・数理科学の振興策の検討 ● 数学・数理科学関係の予算の把握 ● ICM（国際数学者会議）の招致を含めた IMU（国際数学連合）およびその他の国際対応の検討				

数理科学委員会（IMU 分科会）

委員長	小菌 英雄	副委員長	齋藤 政彦	幹事	清水 扇丈
主な活動	審議内容				
	・委員長、副委員長、幹事の決定。 ・IMU 関係の、フィールズ賞、ガウス賞、チャーン賞、アバカス賞等各賞の受賞者の推薦について、IMU 分科会委員、関係学協会に周知することとした。 ・4 年に一度開催される ICM（国際数学者会議）について、2030 年の日本招致について検討を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無し				
	開催シンポジウム等				
	数理科学委員会、同数学分科会と連携し、第 26 期におけるシンポジウムを、検討中。				
開催状況	第 26 期・第 1 回 令和 6 年（2024 年）8 月 23 日（金）				
今後の課題等	・IMU と連携した国際的および国内的な数理科学の振興、普及および社会貢献 ・IMU の予算や活動に対する日本としての意見の決定、IMU 総会へ派遣評議員の決定、IMU に関する役員等の推薦、フィールズ賞、ガウス賞などの各賞の受賞者の推薦、国際会議等への代表の派遣 ・ICM2030 の日本開催の検討				

数理科学委員会（数学分科会）					
委員長	齋藤政彦	副委員長	伊藤由香理	幹事	小菌英雄 望月拓郎
主な活動	審議内容				
	・分科会役員を選出し、運営体制を整えた。 ・第 25 期に策定の「学術の中長期研究戦略(2023 年度版)」に採択された数学・数理科学分野の各研究戦略を確認し、今後どのように数学・数理科学の研究の振興につなげるかという意見交換を行い、第 26 期にエビデンスに基づく提言を行う方向を確認した。 ・IMU 分科会と協力し、ICM の日本招致の可能性を検討し、継続審議することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期に数学・数理科学の振興と他分野・産業の連携、国際対応について意思の表出を行う予定である。				
	開催シンポジウム等				
	第 26 期におけるシンポジウムを、検討中。				

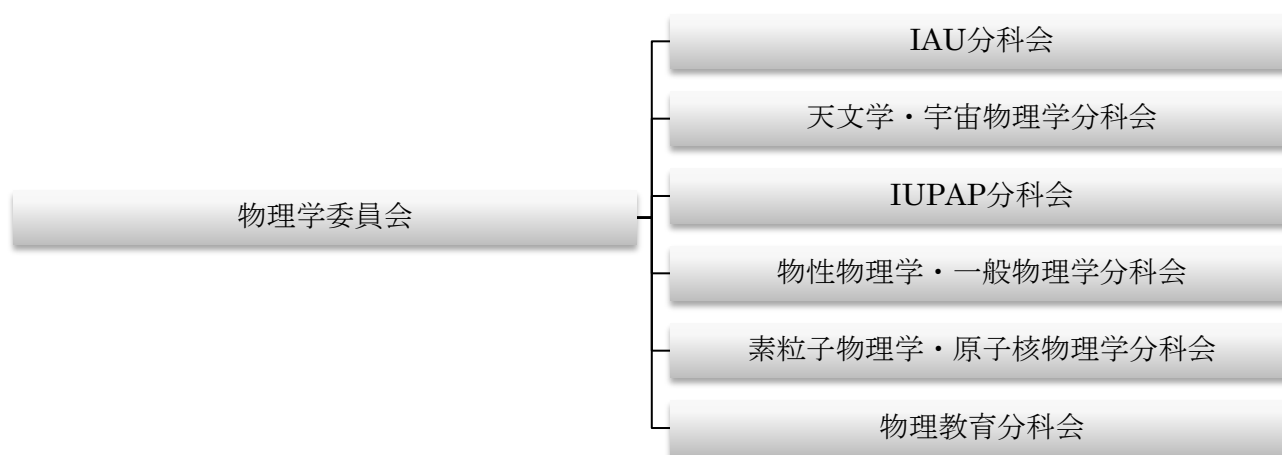
開催状況	第 26 期・第 1 回 令和 6 年(2024 年)1 月 20 日(土)に開催 第 26 期・第 2 回 令和 6 年(2024 年)3 月 9 日(土)に開催
今後の課題等	● 学術の中長期研究戦略のフォローアップと数学・数理科学の振興策の検討 ● 数学・数理科学関係の予算の把握 ● ICM(国際数学会議)の招致を含めた国際対応の検討

数理科学委員会(数理統計学分科会)					
委員長	青嶋 誠	副委員長	松井知子	幹事	南美穂子、佐藤忠彦
主な活動	審議内容				
	第 25 期に見解「大学における数理・データサイエンス・AI 教育の中での統計科学の教育について」を発出し、学術の中長期研究戦略「異分野・社会との連携のための共通言語「データサイエンス」の学際的な研究・教育拠点の形成」がグランドビジョン⑩、⑪に採択され、その内容実現に向け議論を継続して行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	令和 5 年 9 月 26 日に見解「大学における数理・データサイエンス・AI 教育の中での統計科学の教育について」を表出したばかりなので、今期は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
	具体化に向け審議中				
開催状況	第 1 回委員会 令和 6 年 1 月 19 日				
今後の課題等	・上記見解と学術の中長期研究戦略の実現のため、関係組織との連携を強化する。 ・シンポジウムの開催を検討する。				

数理科学委員会(数学教育分科会)					
委員長	伊藤由佳理	副委員長	清水美憲	幹事	川添充・西村圭一
主な活動	審議内容				
	令和 6 年 1 月 20 日(土) 13:00~13:30 オンライン(zoom)にて第 26 期第 1 回の分科会を開催し、委員長・副委員長・幹事を決定し、今後の活動について議論した。また 7 月に開催される国際数学教育学会に西村氏を派遣することを報告した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウムは未定であるが、3 月 14 日に国際数学デーに日本国内でも数学に関するイベントが多く開催できるようにしたい。				

開催状況	第 26 期・第 1 回 令和 6 年(2024 年)1 月 20 日 (土) 第 2 回の分科会として、7 月の国際数学教育学会 (ICME) の報告会を開催したいが、現時点で都合が会わず日程調整中である。
今後の課題等	ICME の報告会、また国際数学デーの周知と具体的なイベント開催促進について、また物理と数学教育に関する情報交換、さらに IT 化など教育現場の環境についても議論していく予定。

㊼物理学委員会



物理学委員会					
委員長	腰原 伸也	副委員長	櫻井 博儀	幹事	杉山 直、森 初果
主な活動	審議内容				
	当初計画したすべての分科会の設置を完了し、日本学術会議アクションプランに基づく現在までの活動説明を実施した。物理学全体を俯瞰するシンポジウムを今期も実施するためのワーキンググループを構成し検討を開始した。加えて、依頼のあった研究所委員の選出、意思の表出過程についての説明と各分科会で注意すべき点、運営上改良すべき点などについても議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
開催状況	以下の4つを計画中。 （1）理工系女性人材の育成に向けた物理・理科教育の役割 （2）物理学の多様性が日本の科学技術の将来展開に果たす役割 （3）カーボンニュートラルに関する、水素エネルギーに特化した公開シンポ （4）天文学宇宙科学関係の研究推進体制に関連して、大学共同利用機関とコミュニティの関係に関するシンポジウム				
	令和5年10月4日、令和5年10月12日－20日※メール、令和5年11月7日－15日※メール、令和5年12月15日－24日※メール、令和6年1月24日－2月1日※メール、令和6年2月2日－11日※メール、第7回：令和6年3月28日、第8回：令和6年7月19日				
今後の課題等	分野が非常に広範であるため、分野内の意思疎通の促進を継続的に推進するためのシンポジウムをワーキンググループを中心に検討する。その際には特に分野・部をまたいだ連携・意見交換を意識して準備を行う。その上で、大規模観測施設など物理学が果たす、他分野と連携した新しい学術展開構想の検討も行う。				

物理学委員会（IAU 分科会）					
委員長	渡部 潤一	副委員長	生田 ちさと	幹事	藤澤健太・長尾透
主な活動	審議内容				
	引き継ぎ事項を共有するとともに、IAU 会員申請について資格を確認の上、承認し、IAU へ推薦を行った。また IAU の各種活動についての情報共有を行った。天文学・宇宙物理学分科会と協力し、日本天文学会員に向けたオンラインの活動説明会を実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	天文学・宇宙物理学分科会と共に、研究推進体制に関連して、大学共同利用機関とコミュニティの関係に関するシンポジウムを企画検討中				
開催状況	令和 5 年 12 月 12 日、令和 6 年 1 月 29 日、令和 6 年 7 月 31 日				
今後の課題等	IAU 会員の申請・推薦の継続的实施、IAU の種々の活動に連携し、国内からの積極的な参加を促すと共に分科会活動に関する積極的な広報の実施、（天文学・宇宙物理学分科会と共に）商用宇宙空間利用の天文学への影響を検討				

物理学委員会（天文学・宇宙物理学分科会）					
委員長	奥村幸子	副委員長	浅井歩	幹事	藤澤健太・長尾透
主な活動	審議内容				
	第 25 期末に決定・公表された「未来の学術振興構想」の概要と決定の経緯を確認し、今後の天文学・宇宙物理学の推進との関連について議論した。また、主要研究機関の動向について報告を受け、情報共有を行った。IAU 分科会と協力して、日本天文学会員にむけたオンラインの活動説明会を実施（令和 6 年 3 月 19 日）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	研究推進体制に関連して、大学共同利用機関とコミュニティの関係に関するシンポジウムを検討中。				
開催状況	令和 5 年 12 月 12 日、令和 6 年 1 月 29 日、和 6 年 7 月 31 日				
今後の課題等	天文学・宇宙物理学の将来計画を、広範な分野の研究者と連携しながら中長期的に推進する方策の検討、分科会活動に関する積極的な広報の実施。				

物理学委員会・総合工学委員会合同（IUPAP 分科会分科会）					
委員長	藤澤 彰 英 （世話人）	副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				

	・IUPAP の活動に対する日本全体として各物理学分野間の対応の取りまとめ。各コミッション委員の推薦および IUPAP 事業に関する調整、推進。 ・IUPAP 本部や総会（次回令和 6 年 10 月予定）などに対応。 ・令和 6 年 10 月 IUPAP 総会にて委員改選が行われる。現在、新委員の登録が開始され、本分科会において日本からの IUPAP 委員候補の調整し登録を実施済み。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和 6 年 10 月の IUPAP の委員改選後に開催する第 1 回分科会（令和 6 年 10 月以降実施予定）にて議論予定
開催状況	第 1 回：令和 6 年 10 月以降（令和 6 年 10 月の IUPAP の委員改選後に予定）
今後の課題等	令和 6 年 10 月の IUPAP の委員改選に向けた IUPAP 委員候補の選出と登録

物理学委員会（物性物理学・一般物理学分科会）					
委員長	常行 真司	副委員長	寺崎 一郎	幹事	石坂 香子、藤澤 彰英
主な活動	審議内容				
	学術会議の状況報告（各種委員会、法人化問題）、公開シンポジウム、他の分野別委員会や分科会等との連携活動など、第 26 期の活動に関する意見交換、物性委員会への幹事推薦（2 名を推薦し、物性委員会で承認）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	カーボンニュートラルに関する、水素エネルギーに特化した公開シンポジウムを開催予定（材料工学委員会委員を含む組織委員会を立ち上げ準備中）。				
開催状況	令和 6 年 1 月 31 日、令和 6 年 9 月 30 日（予定）				
今後の課題等	未来の学術振興構想に関する意見交換、研究力強化や研究評価に関する議論、第 25 期の見解「プラズマサイエンス—その学際的发展と豊かな未来社会のために—」のフォローアップ、他の分野別委員会や分科会等との連携活動強化。				

物理学委員会（素粒子物理学・原子核物理学分科会）					
委員長	櫻井 博儀	副委員長	市川 温子	幹事	青木 慎也、中村 哲
主な活動	審議内容				
	今期の運営体制の決定。また、第 25 期の活動や国内外の状況などを勘案し、第 26 期の具体的な活動計画に関して、積極的な意見交換を実施。 令和 6 年 10 月以降開催予定の第二回委員会で、第 26 期の活動方針を策定予定。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	未定
	開催シンポジウム等
	未定
開催状況	令和6年3月22日、令和6年10月以後（予定）
今後の課題等	我が国の、加速器などを利用する素粒子・原子核物理学の発展を目指した施策に関する議論。これを基盤とする具体的な活動計画の策定。

物理学委員会（物理教育分科会）					
委員長	新永 浩子	副委員長	横山 広美	幹事	笠 潤平
主な活動	審議内容				
	初等・中等教育の女子を取り囲む教育、海外と比較した日本の教育の課題（高等教育、博士号取得含む）、議論すべき方向性等について意見交換。その議論に基づき、初等・中等教育の教育環境と男女差について現状を把握するため、理系の中等教育課程における教育的効果、行動分析の専門家（内田昭利氏（大分大学大学院））を招聘し講演をいただいた。その場にて活発な質疑応答・今後の活動方向性に関する議論を実施。今後、理系科目に対する男女差の傾向の研究専門家である臼井恵美子氏（一ツ橋大学経済研究所）を招聘し、経済学の視点を含めた議論を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	他分野と合同のダイバーシティに着目したシンポジウムを開催する予定				
開催状況	令和6年2月29日、令和6年4月24日ー5月2日※メール、令和6年6月25日、令和6年10月7日（予定）				
今後の課題等	他分野の教育関連分科会との合同のシンポジウム開催に向けた意思疎通、連携のための具体策の検討。				

②地球惑星科学委員会



地球惑星科学委員会					
委員長	佐竹健治	副委員長	小口 高	幹事	倉本 圭、薮田ひかる
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	地球惑星科学分野における諸課題について審議するとともに、傘下の分科会の活動を統括する。また、地球惑星科学コミュニティの代表組織である日本地球惑星科学連合（JpGU）及び関連学協会長会議、大学等の教育研究機関と全国地球惑星科学系専攻長・学科長会議、国立大学共同利用・共同研究拠点等と連携し、地球惑星科学分野の発展を支援する。				
	今期は、本委員会は会員のみとして、前期まで設置されていた企画分科会は設置しないこととした。また、国際関連の小委員会についても、関連学協会に対応可能なものは設置の要否を検討することとした。連携会員の情報交換のため、令和5年11月18日に説明会を、12月28日に合同分科会を開催した。				
	また、令和6年5月に開催された日本地球惑星科学連合2024年大会において、ユニオンセッションU-10「日本学術会議とJpGU」を開催した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	なし				
開催状況	第1回：令和5年10月4日 第2回：令和5年10月27日 第3回：令和5年11月24日 第4回：令和6年4月24日				

	第5回：令和6年5月27日 第6回：令和6年9月24日開催予定
今後の課題等	JpGU と連携して、地球惑星科学のロードマップ・大型研究計画を更新する。 人材（次世代）育成について、地球惑星科学分野固有の課題と他分野に共通する課題とに分け、後者については第三部の他分野委員会と連携する。

地球惑星科学委員会（地球惑星科学国際連携分科会）					
委員長	中村卓司	副委員長	塩川和夫	幹事	三枝信子、掛川 武
主な活動	審議内容				
	地球惑星科学分野の国際活動の振興、国際対応の委員会、分科会、直属小委員会等との連絡・調整に関する諸事項を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	日本地球惑星科学連合 2024 年大会(令和6年5月)において、ユニオンセッション U-10「日本学術会議と JpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催。				
開催状況	第1回：令和5年10月27日、第2回：12月1日、第3回：12月28日(合同) COSPAR 小委員会：第1回：令和6年1月17日 IASC 小委員会：第1回：令和5年12月25日、第2回：令和6年7月19日 IMA 小委員会：第1回：令和5年12月1日、第2回：令和6年5月14日 INQUA 小委員会：第1回：令和6年1月19日、第2回：令和6年9月4日 SCAR 小委員会：第1回：令和5年12月27日、第2回：令和6年7月8日 SCOSTEP-STPP 小委員会：第1回：令和5年11月13日、第2回：令和6年5月16日				
今後の課題等	日本学術会議が加盟する国際学術団体に対応する分科会・小委員会間での国際対応の情報共有。加盟国際学術団体への分担金等の諸課題の議論。追加委員の検討。				

地球惑星科学委員会（IGU 分科会）					
委員長	鈴木康弘	副委員長	山崎孝史	幹事	飯島慈裕、山田育穂
主な活動	審議内容				
	・ IGU 及び ISC（国際学術会議）における SDGs、Future Earth、ESD 等に関する取り組み状況を共有し、本分科会として日本からの発信力強化を活動方針とした。				
	・ IGU が主催する第 35 回 IGC2024 ダブリン大会(Aug24-30)で、多くの研究成果を国際発信するとともに、国際的な地理学の発展と貢献について問題提起した。				
	・ IGU の次期役員候補者およびステアリングコミッション座長を提案した。				
	・ 分科会推薦により IGU 学会賞(Lauréat d'honneur, Distinguished Geographical Practice) が春山成子、海津正倫に授与された。				
	・ ICA（国際地図学会）小委員会（委員長 伊藤香織）は、令和5年11月6日に、国際会議の招致・運営、代表派遣、役員および表彰推薦を審議した。				

	・ IAG（国際地形学会）小委員会（委員長 久保純子）は、令和6年4月14日に、IAG と連携した地形学の積極的振興、国際会議や役員選出への対応を議論した。
	意思の表出（※見込み含む）
	・ 国際発信力強化を念頭においた今後の活動を議論中
	開催シンポジウム等
	・ 公開シンポジウム開催に向けた議論を開始
開催状況	令和5年10月10日、令和5年11月16日、令和5年12月6日～14日※メール審議、令和6年3月17日
今後の課題等	①IGU2024 ダブリン大会における実績評価とその後の国際発信力強化。②ISC や国連との連携による、気候変動や持続可能性、ジェンダー・民族多様性問題についての議論。③地理教育と連携した Future Earth、ESD、SDGs への貢献。

地球惑星科学委員（IUGG 分科会）					
委員長	佐竹健治	副委員長	古屋正人	幹事	久家慶子、升本順夫
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	IUGG（国際測地学・地球物理学連合）に関する国際連携、関連する測地学・地球物理学の振興、普及及び社会貢献に関する諸事項に係る審議に関すること。本分科会下に、IACS 小委員会、IAG 小委員会、IAHS 小委員会を設置した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	なし				
開催状況	IUGG 分科会 第1回：令和5年11月14日 IACS 小委員会 第1回：令和6年6月10日 IAG 小委員会 第1回：令和6年3月15日				
今後の課題等	前期まで本分科会の下に設置してきた IAGA、IAPSO、IASPEI、IAVCEI 小委員会について、今期は小委員会を設置せず、関連学会の委員会等で対応することとした。IAMAS 小委員会は今後設置予定。				

地球惑星科学委員会（IUGS 分科会）					
委員長	掛川 武	副委員長	西 弘嗣	幹事	黒柳あずみ、齋藤文紀
主な活動	審議内容				
	IUGS 分科会の小委員会の活動内容と委員の承認。IGC2024 への対応。IUGS の国内活動指針や報告など。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	（令和6年11月開催予定）海底地質災害と洋上風力開発				

開催状況	(分科会) 令和5年10月30日および12月17日、令和6年2月8日および5月10日 (小委員会) ICS:令和6年4月9日、IAGC:令和6年5月28日、IPA:令和6年6月22日、IAH:令和6年7月1日
今後の課題等	IGC2024 への対応、IUGS の各種委員の推薦、日本における活動の窓口

地球惑星科学委員会 (SCOR 分科会)					
委員長	張 勁	副委員長	原田尚美、升本順夫	幹事	川口慎介、黒柳あずみ
主な活動	審議内容 (※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む) Scientific Committee on Oceanic Research (SCOR、海洋研究科学委員会)における我が国の国際貢献度を高め、かつ国内の海洋科学研究・教育の推進と社会への発信強化を図るために、以下の活動を行った。 ・令和5年10月に第1回分科会を開催。SCOR 総会の報告、我が国における海洋科学の振興、普及にかかる諸案件、及び東京大学大気海洋研究所の組織・運営への助言、学術研究船共同利用運営委員会の委員推薦等を審議。分科会で推薦した委員の追加及び2名の特任連携会員、並びに傘下の3つの小委員会 (「GEOTRACES」、「SEMSEA」及び「IIOE-2」) の設置は、令和5年11月27日の第358回幹事会にて承認された。 ・我が国主導、参画している SCOR 作業部会は進行中で、新規採択2課題は始動した。 ・傘下に3つある小委員会、インド洋の学際的な国際調査研究を対象とした「IIOE-2」、沿岸域における学際研究を対象とした「SEMSEAS」、全球海洋の化学物質分布を明らかにする国際プロジェクト「GEOTRACES」の活動支援を行った。 ・令和6年4月に第2回分科会 (メール審議) を開催した。SCOR 分科会 IIIOE-2 小委員会の追加委員候補者の承認について、学術会議掲示板にて意見交換を行った。それに基づきメール審議を行なった結果、追加委員候補者を承認した。 ・令和6年7月31日に第3回分科会を開催した。SCOR 2024年新規ワーキンググループ申請書審査について議論し、申請書の順位づけを行い、承認された。また、本分科会今後の活動計画 (シンポジウム・フォーラム等) について議論し、意見交換を行った。 意思の表出 (※予定含む) ・意思の表出に向けた課題の洗い出しを開始予定 開催シンポジウム等 (※予定含む) ・公開シンポジウム開催に向けた議論を開始した				
開催状況	第1回：令和5年10月30日 第2回：令和6年4月17日～25日 (メール審議) 第3回：令和6年7月31日				
今後の課題等	・意思の表出に向けた課題の洗い出しと執筆の準備国連海洋科学の10年を推進する活動				

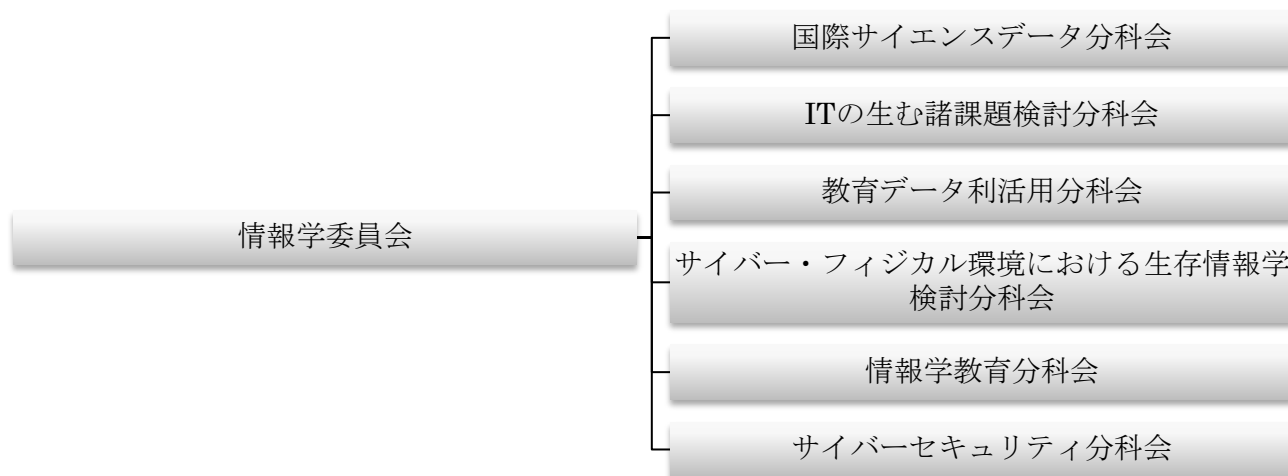
地球惑星科学委員会（地球・惑星圏分科会）					
委員長	倉本 圭	副委員長	中村 卓司	幹事	古屋正人、癸生川陽子
主な活動	審議内容				
	未来の学術振興構想等大型研究計画、衛星地球観測、地球惑星科学のオープンサイエンスに係る審議を行う。衛星地球観測について、小委員会を設置し幅広い専門家を含めて議論を始めた。日本地球惑星科学連合とともに地球惑星科学分野のロードマップ・大型計画の更新に向けた議論を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	地球観測衛星の在り方について(検討中)				
	開催シンポジウム等				
	日本地球惑星科学連合 2024 年大会（令和 6 年 5 月）において、ユニオンセッション「日本学術会議と JpGU」を、地球惑星科学委員会や他分科会とともに開催した。				
開催状況	第 1 回：令和 5 年 12 月 28 日（地球・惑星圏分科会） 第 1 回：令和 6 年 4 月 9 日、第 2 回令和 6 年 7 月 2 日（地球観測衛星将来構想小委員会）				
今後の課題等	新しい地球惑星科学のあり方の検討を進め、地球惑星科学のロードマップ、大型研究計画の更新を進める。衛星地球観測の将来ビジョンを更新する。				

地球惑星科学委員会（地球・人間圏分科会）					
委員長	小口 高	副委員長	長谷部徳子	幹事	伊藤香織、由井義通
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. 地球・人間圏科学の発展と分野連携 2. 全球と地域の環境変動 3. 社会の持続可能性と防災 に係る審議に関すること				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	令和 6 年 5 月に開催された日本地球惑星科学連合 2024 年大会において、ユニオンセッション U-10「日本学術会議と JpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催。令和 7 年 1 月 15 日に阪神淡路大震災 30 周年に関するシンポジウムを実施予定。また、令和 7 年 7 月に東京大学で開催される第 2 回国際社会水文学会議に対応した活動を行う社会水文学小委員会を設置した。				
開催状況	第 1 回：令和 5 年 12 月 28 日 第 2 回：令和 6 年 6 月 18 日 ＊社会水文学小委員会は 9 月に開催予定				
今後の課題等	審議内容に関連して、令和 6 年度以降に複数の公開シンポジウムを開催し、それらに基づく意志の表出を予定している。				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学社会貢献分科会）					
委員長	佐竹健治	副委員長	荻田ひかる	幹事	片岡香子、谷本浩志
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. 原子力災害対策への放射性物質拡散予測の積極的な利活用 2. 危機における学術からの情報発信の仕組み 3. 地球惑星科学と社会の関係 に係る審議に関すること				
	意思の表出（※予定含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	令和6年5月に開催された日本地球惑星科学連合 2024 年大会のユニオンセッション U-10「日本学術会議と JpGU」において、本分科会の活動内容を報告した。				
開催状況	第1回：令和5年12月28日 第2回：令和6年1月26日～2月4日（メール審議） 第3回：令和6年6月19日				
今後の課題等	審議内容1について、前期に発出した見解を基に、原子力安全に関する分科会などと合同でシンポジウムを検討中。				

地球惑星科学委員会（地球惑星科学次世代育成分科会）					
委員長	堀 利栄	副委員長	西 弘嗣	幹事	掛川 武、張 勁
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. 意思の表出について 2. 次世代教育課題（生成 AI 問題・大学院博士の充足率・高校教育実態把握等） 3. 初等中等教育諸問題について（現役地学高等学校教員に話題提供を依頼・実施）				
	意思の表出（※予定含む）				
	「見解」の表出を審議中。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	令和6年5月に開催された日本地球惑星科学連合 2024 年大会において、ユニオンセッション U-10「日本学術会議と JpGU」を、地球惑星科学委員会・関連分科会とともに開催。また、地球惑星系学科長・専攻長会議と合同の拡大分科会の開催7月8日（月）に実施。				
開催状況	第1回：令和5年12月28日 第2回：令和6年3月3日 第3回：令和6年6月3日 第4回：令和6年7月8日				
今後の課題等	全国地球惑星系学科長・専攻長会議の解析・意見交換およびアンケート調査結果に基づいた高等教育における課題の抽出と意思の表出にむけた WG の設置				

②④情報学委員会



情報学委員会（国際サイエンスデータ分科会）					
委員長	村山 泰啓	副委員長	芦野 俊宏	幹事	井上 純哉、近藤 康久
主な活動	審議内容				
	国際学術会議（ISC）直轄の組織 CODATA、WDS の 2 つの国際委員会への対応活動を行い日本学術会議の国際学術交流活動に資すると共に、オープンサイエンスの国際動向を踏まえた新たな時代の学術エコシステム、学術データのあり方についての考え方を議論し、国際会議開催や意思の表出等を目指した活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	国際的視点でのサイエンスデータ活動のあり方の提言について検討中。				
	開催シンポジウム等				
	「データサイエンス国際シンポジウム 2023ーアジア・オセアニア地域におけるオープンデータ協力体制の構築ー」（令和 5 年 12 月 12～15 日、日本学術会議講堂・ハイブリッド；37 か国から計 394 名参加）を開催した。				
開催状況	第 1 回：令和 5 年 11 月 2 日、第 2 回（メール審議）：令和 6 年 2 月 13～15 日、第 3 回（メール審議）、第 4 回：令和 6 年 7 月 5 日開催。 CODATA 小委員会（第 1 回：令和 6 年 2 月 5 日）、WDS 小委員会（第 1 回：令和 5 年 12 月 19 日、第 2 回：令和 6 年 3 月 25 日、第 11 回 WDS 国内シンポジウム：令和 6 年 3 月 26 日）開催。 CODATA 執行役員会：令和 5 年 10 月 27-28 日、喫。 WDS 国際科学委員会：令和 5 年 10 月 22 日、喫（他 2 か月ごとオンライン開催） 国際会議主催等：国際データウィーク国際会議（ISC-CODATA、ISC-WDS 他主催、令和 5 年 10 月 23-26 日、喫）、WDS メンバーフォーラム（令和 5 年 10 月 22 日、喫）				
今後の課題等	・ CODATA、WDS 等の役員会（当分科会委員をふくめ日本人 3 名が役員選出）・国内委員会としての国際対応活動 その他：G7 科学大臣会合関連活動（G7 オープンサイエンス WG に林委員、村山委員長が参画、後者は共同議長）、データ関連機関の課題・議論の国内外共有と				

	我が国の課題に係る議論、審議を行う。
--	--------------------

情報学委員会（ITの生む諸課題検討分科会）					
委員長	喜連川優	副委員長	相澤清晴	幹事	黒橋禎夫、大場みち子
主な活動	審議内容 IT分野の技術の急速な進展に伴い生じる多様な諸課題を網羅的かつ深度をもって検討することを活動の目的とする。近年、生成系AIの出現をはじめとする技術革新は社会に大きな影響をもたらしており、特にLLM（大規模言語モデル）から派生する課題は、単独の学協会の範疇を超え、法学者をはじめとする多様な専門家の俯瞰的な議論が求められている。特許や財産権のような領域では、分野横断的な視点での議論の深化も不可欠である。本分科会は、これらの複雑で多面的な課題を俯瞰的に、かつ分野横断的な視点で取り組み、単独の学協会では代替できない、多角的かつ実践的な議論の場を提供することで、ITの未来をより良く形成するための方向性を模索する活動をしている。 意思の表出（※見込み含む） IT分野の技術進展に伴う多様な諸課題について、適切なあり方の意思の表出を予定している。 開催シンポジウム等 令和6年度中にシンポジウム開催予定で、最新のIT分野の状況を踏まえたテーマを検討中。				
開催状況	第1回：令和6年1月5日 第2回：メール審議（令和6年1月22日～令和6年1月31日） 第3回：メール審議（令和6年4月10日～令和6年4月18日） 第4回：令和6年7月5日（委員長交代：東野委員長→喜連川委員長）				
今後の課題等	特になし。				

情報学委員会・心理学・教育学委員会合同（教育データ利活用分科会）					
委員長	緒方 広明	副委員長	美馬 のゆり	幹事	柴山 悦哉、前田 香織
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む） 教育・学習活動に関するデータを有効活用して、エビデンスに基づく教育及びそのデータを活用した研究を推進することは、より良い未来を築くために重要な課題である。特に、新型コロナの影響でオンライン教育が普及し、行政や教育のデジタル化が強力に推進される状況においては、教育データを適切に収集・蓄積する仕組みをベースとして、エビデンスに基づいた新たな教育スタイルを確立していくことが重要になっている。そこで本分科会では以下の審議を行うことを考えている。 1. 教育現場で教育データを収集する方法とその問題点				

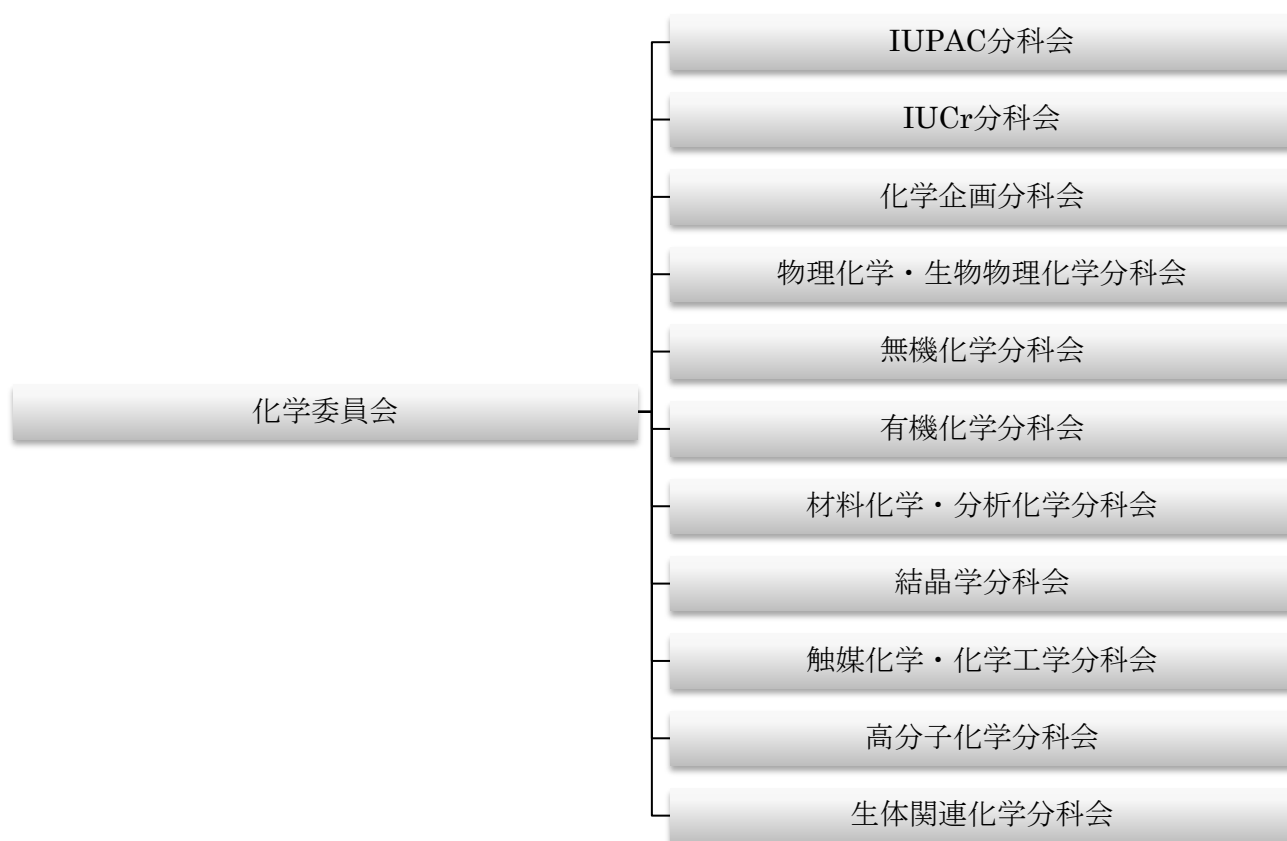
	2. 収集した教育データの分析・管理を進める上での問題点 3. 教育データを共有する時の個人情報の匿名化の問題点 4. 共有された教育データの利用方法（教育実践、研究、政策）での問題点 意思の表出（※予定含む） 第26期は、前期に公開した記録「教育データの利活用のさらなる促進に向けた考察～データ駆動型教育への対応に向けた論点整理～」の内容を踏まえて、提言または見解としてとりまとめたと考えている。 開催シンポジウム等（※予定含む） 令和7年3月にシンポジウムを開催することを考えている。
開催状況	第1回：令和6年3月5日 第2回：メール審議 第3回：メール審議 第4回：令和6年6月12日 第5回：令和7年3月19日（予定）
今後の課題等	今期においては提言あるいは見解として意思の表出を行いたいと考えており、意見をまとめている。

情報学委員会（サイバー・フィジカル環境における生存情報学検討分科会）					
委員長	橋本 隆子	副委員長	灘本 明代	幹事	内田 誠一、木村 朝子、 永井 由佳里、
主な活動	審議内容 サイバー・フィジカルが融合した環境において、多様な背景や価値観を持つ人々が生きる喜びを高める（Well-being）ことを目指し、情報学をさまざまな学術領域と連携し、「生存情報学」という新たな学術領域を提案する。未来社会で起こりうる課題とその解決策について議論する。 - 第1回分科会 令和6年2月6日（火）18:00～19:00（オンライン）： 幹事団選出、連携会員（特任）推薦、メールアドレス共有、25期記録説明等。 - 第2回分科会 令和6年2月26日（月）～令和6年2月28日（水）（メール審議）：中野 有紀子氏（連携会員、成蹊大学）の委員追加。 - 幹事団会議 令和6年5月9日（木）20:00～21:00（オンライン）： 分科会の進め方について議論。 - 第3回分科会 令和6年7月3日（水）19:00～20:00（オンライン）： 生存情報学の説明と、委員の意見や要望をアンケート（「生存情報学の問いへのコメント」）によって募ることを確認。 - 第4回分科会 令和6年7月18日（木）～令和6年7月24日（水）（メール審議）八木 康史氏（大阪大学産業科学研究所）の委員追加。 意思の表出（※見込み含む）				

	「生存情報学の問いへのコメント」アンケートの結果に基づき、26期でフォーカスする分野を絞り込み、意思の表出につなげていく。
	開催シンポジウム等
	上記と同様、「生存情報学の問いへのコメント」アンケートに基づいて、シンポジウムのテーマを決めていく。
開催状況	第1回分科会（オンライン）令和6年2月6日（火）18:00～19:00 第2回分科会（メール審議）令和6年2月26日（月）～令和6年2月28日（水） 幹事団会議（オンライン）令和6年5月9日（木）20:00～21:00 第3回分科会（オンライン）令和6年7月3日（水）19:00～20:00 第4回分科会（メール審議）令和6年7月18日（木）～令和6年7月24日（水）
今後の課題等	アンケートの結果を分析し、生存情報学としてフォーカスする領域を絞り込み、シンポジウムにつなげていく。

情報学委員会（情報学教育分科会）					
委員長	中山 泰一	副委員長	徳山 豪	幹事	高岡 詠子
主な活動	審議内容				
	「情報教育課程の設計指針」の改定について議論をしている。また、大学入試への情報科目の導入への対応を議論している。特にAI・データサイエンス教育について検討をおこない、関連学協会との協力による教育の体制構築と、社会への教育義務の実施について議論している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「情報教育課程の設計指針」の改定について、次年度以降の意見の表出を目指して検討している。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和6年5月25日 委員会開催（電気通信大学＋オンライン）				
今後の課題等	大学入試への情報科目の導入に対応する情報教育の体制構築に関して、情報処理学会等と協力して協議し、実践する。また、「情報教育課程の設計指針」の改定について、今後シンポジウム等を開催して意見を求めていく予定である。				

㊥化学委員会



化学委員会					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	三浦 佳子	幹事	鈴木 朋子、高柳 大
主な活動	審議内容				
	国内外の様々な化学関連分野を横断的に繋いで情報交換を行い，人材育成も含めた総括的かつ中長期的な問題を見出し，現状の調査や解決策の議論を行う。令和5年度末に，化学委員会傘下の分科会の合同分科会・全体会議を開催した。 令和6年度初夏に，化学及び周辺領域の広い分野の関わるテーマについて，分子科学研究所においてシンポジウムを行う方針を固め，今回は前期に発出した見解に関わる，博士人材に関する話題のフォローアップを意識した議論を行うこととし，講演者の人選を進めた。シンポジウムは令和6年6月11日に実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	令和6年6月11日に，学術会議化学委員会，分子科学研究所，日本化学会の合同でシンポジウム「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」をハイブリッド開催で実施した。				
開催状況	第1回：令和5年10月4日 第2回～第6回：その他分科会設置に関するメール審議 第7回：令和6年3月22日				

	第8回：令和6年6月11日
今後の課題等	12月末に合同分科会を開催する方向で検討し、傘下分科会の活動の連絡調整を引き続き推進する。

化学委員会（IUPAC 分科会）					
委員長	所裕子	副委員長	岸村顕広	幹事	山下誠
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	・委員長、副委員長、幹事を選出し、今期の活動方針を議論した。 ・2023年8月にオランダ・ハーグにて行われた IUPAC council meeting の審議内容および選出された 2024-2025 IUPAC 役員や委員メンバーを報告し、IUPAC における日本の活動の方向性について議論した。 ・今後より活発に活動するため、日本化学会との連携の在り方について議論した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	2024年3月22日				
今後の課題等	IUPAC General Assembly や Council Meeting、Division Meeting など多くの国際的会合に日本からの委員が多数出席し、日本の存在感を高めている。今後、IUPAC の活動において日本がより一層存在感を高めていくために、引き続き努力を続ける。				

化学委員会（IUCr 分科会）					
委員長	中川敦史	副委員長	佐々木 園	幹事	南後恵理子、西堀麻衣子
主な活動	審議内容				
	第26期分科会発足にあたり委員長の互選と役員の選出を行った。第25期における分科会活動を振り返って意見交換を行うとともに、第26期においても結晶学分科会と連携しつつ、国際結晶学連合（IUCr）等を通じて世界の基礎科学や物質科学に対する日本の貢献について広く伝えとともに、最先端研究を牽引する世界の研究者との交流によって日本の科学技術のさらなる発展を促進するという活動方針を継続することが議論された。 IUCr ではその理念を表すステートメントとロゴが新しく提案され、従来の結晶学に留まらず広く構造科学分野に貢献する方針が示された。この理念は今後の本分科会の活動にも反映させていくこととなる。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第1回：令和6年3月22日、第2回：令和6年6月13日
今後の課題等	国際結晶学連合（IUCr）という国際的なネットワークを通じて、物質科学や生命科学の基礎となる結晶学を中心とした構造科学に関する国際貢献度を高め、SDGs等の課題解決に向けた日本の役割を情報発信するとともに、開発途上国の結晶学の発展をサポートする。

化学委員会（化学企画分科会）					
委員長	岡本 裕巳	副委員長	三浦 佳子	幹事	鈴木 朋子、高柳 大
主な活動	審議内容				
	国内外の様々な化学関連分野を横断的に繋いで情報交換を行い、人材育成も含めた総括的かつ中長期的な問題を見出し、現状の調査や解決策の議論を行う。本分科会は、基本的に化学委員会と合同（同時）開催としている。令和5年度末に、化学委員会傘下の分科会の合同分科会・全体会議を開催した。				
	令和6年度初夏に、化学及び周辺領域の広い分野の関わるテーマについて、分子科学研究所においてシンポジウムを行う方針を固め、今回は前期に発出した見解に関わる、博士人材に関する話題のフォローアップを意識した議論を行うこととし、講演者の人選を進めた。シンポジウムは令和6年6月11日に実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
開催状況	令和6年6月11日に、学術会議化学委員会、分子科学研究所、日本化学会の合同でシンポジウム「博士人材のキャリアパス多様化を加速する」をハイブリッド開催で実施した。				
	第1回：令和6年3月22日 第2回：令和6年6月11日				
今後の課題等	12月末に合同分科会を開催する方向で検討し、化学委員会傘下分科会の活動の連絡調整を引き続き推進する。				

化学委員会（物理化学・生物物理化分科会）					
委員長	阿波賀 邦夫	副委員長	中井 浩巳	幹事	内藤 俊雄、山内 美穂
主な活動	審議内容				
	化学の基礎となる原理を物理的な視点で捉えて解析し、またその基盤をもって新たな物質特性の開拓を行う、基盤的な学術分野である物理化学における諸問題（教育研究環境を含む）を審議の対象とする。境界領域で学際的に発展する分野の諸問題も念頭に活動する。				

	今期の会合においては、まず委員長等役員を互選により決定した。 第 25 期での活動実績を踏まえ、第 26 期でどのような活動を行うことが求められるか、議論を行った。いくつかの課題について、今後議論を継続していくこととした。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	令和 6 年 10 月 1 日 13:00~15:00 に分科会（オンライン）を予定している。
開催状況	第 1 回：令和 6 年 3 月 22 日
今後の課題等	カーボンニュートラルに関する議論、ALFA 計画（アト秒レーザー施設）への寄与等について、分科会としてどのように関わっていくかを検討していく。我が国の研究水準を維持・発展していくための共同利用機関・施設の利用の方策、新分野への展開等に関する議論を進める。

化学委員会（無機化学分科会）					
委員長	長谷川美貴	副委員長	伊東 忍、一杉太郎	幹事	西原 寛
主な活動	審議内容				
	・ 26 期の活動目標、無機材料に関わる持続可能な社会あるいは学術に関わる調査を見解としてまとめることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・ 意志の表出を予定している。				
	開催シンポジウム等				
	・ 年に 1 回程度の公開シンポジウムの開催を予定している。 ・ 年に 2 回程度の勉強会の開催を予定している。				
開催状況	2024 年 3 月 22 日にハイブリッド形式で無機化学分科会第 26 期第 1 回委員会を開催した。				
今後の課題等	・ 目標に合わせたワーキンググループを分科会内に設置し活動を推進する。				

化学委員会（有機化学分科会）					
委員長	石原一彰	副委員長	山子 茂	幹事	山下 誠、矢島知子
主な活動	審議内容				

	有機化学は、有機化合物の構造・合成・物性・用途などを扱う化学分野の基幹分野の一つであり、材料化学、高分子化学、生体関連化学など有機化合物と密接に関連する化学委員会傘下の分科会だけでなく、有機材料・生体材料の合成・物性などで物理学委員会、環境負荷低減型合成法・エコマテリアルなどで環境学委員会、さらには生物・医農薬の関連分野において第二部とも関連している。これらの委員会、分科会等と密接に協力、連携しながら、諸問題を審議し、学術の進展をはかり、もって科学と社会の健全な発展に貢献することを目的とする。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	第1回 令和6年3月22日
今後の課題等	今後の検討課題として、「選択と集中による研究費の偏り」、「捏造問題」、「博士進学率と国際競争力」、「研究費の審査方法」、「大学院生教育」、「卒業研究と大学院での研究のバランスと博士進学率」などが候補としてあがっている。

化学委員会（材料化学・分析化学分科会）					
委員長	栄長泰明	副委員長	玉田薫	幹事	内藤俊雄、齋藤公児
主な活動	審議内容				
	これまでの「材料化学分科会」および「分析化学分科会」を統合し、社会課題解決に向けた学術的議論を双方の視点から行うために設置された意義を共有し、それを活かして行うべき今後の活動について議論した。初めに課題抽出を行い、その課題解決のために、カーボンニュートラル等の具体的な課題も含め、人材育成や国際競争力・研究力の向上を目指した話題での勉強会を開催することとした。さらにその勉強会を経て、アウトリーチ活動も意識した公開シンポジウムの開催を目指すこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現状では予定なし				
	開催シンポジウム等				
	・2024年度に非公開の勉強会の開催を予定。 ・2025年度に公開シンポジウムの開催を予定。				
開催状況	第1回：令和6年3月22日 第2回：令和6年7月30日				
今後の課題等	材料化学、分析化学が関与する課題として、例えば研究力低下の問題、カーボン				

	ニュートラル・気候変動・エネルギー問題、さらには科学技術の基盤としての分野横断的な活用の仕組み作り等について、継続的に検討を行う。
--	---

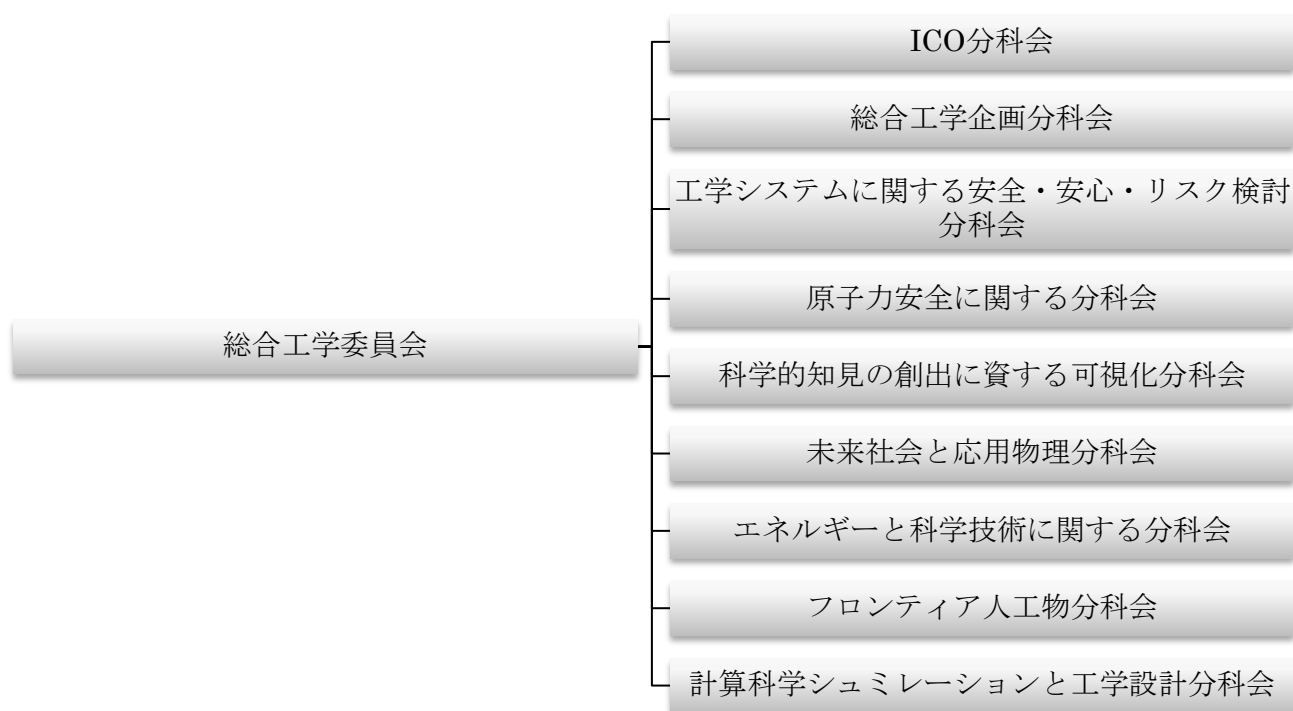
化学委員会・物理学委員会合同（結晶学分科会）					
委員長	井上 豪	副委員長	山下敦子	幹事	福島孝典、小島優子
主な活動	審議内容				
	第 26 期分科会発足にあたり委員長の互選と役員の選出を行った。第 25 期における分科会活動を振り返って意見交換を行うとともに、第 26 期においても IUCr 分科会と連携しつつ、基礎科学が拓く様々な物質科学等に関するシンポジウム等を通じて若手人材の育成について議論を深めるという今後の活動方針が決まった。令和 7 年度に物質科学や生命科学の礎となる構造科学を支える結晶学を中心とした基礎科学の重要性を高校生や大学生に対していかに広く伝えていくことを目指したシンポジウム開催することを目指し、詳細についての議論を行うワーキンググループを作ることが承認され、12 月に予定している分科会までに素案をまとめる事とした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第 1 回：令和 6 年 3 月 22 日、第 2 回：令和 6 年 6 月 13 日				
今後の課題等	物質科学や生命科学の礎となる構造科学を支える結晶学を中心とした基礎科学の重要性を高校生や大学生に対して如何に広く、早期に伝え、博士人材を育成することができるか、継続的に検討していく必要がある。				

化学委員会・総合工学委員会合同（触媒化学・化学工学分科会）					
委員長	北川尚美	副委員長	三浦佳子	幹事	野田優、山内紀子
主な活動	審議内容				
	1. 環境・資源制約と成長を両立する化学技術 2. 社会 Vision 創成と技術・システムの社会実装 3. 産官学民連携の役割 に係る審議に関する事				
	意思の表出（※見込み含む）				
	前期に記録「Well-being を念頭においた持続可能な社会のための化学・化学工学の在り方」を環境科学分科会と合同で発出した。今期は、まず各委員から取り上げるべき重要なテーマについて提案してもらい、その中から議論すべきものをしぼり、ワーキングを作り定期的に議論して内容を深めていく、という方法で活動を進めることとした。それらの結果を意思の表出にまとめる予定。				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	第1回：令和6年3月22日
今後の課題等	各委員から提案された議論すべき重要なテーマをまとめた段階である。今後、ワーキングを作り定期的な議論を進めていく予定である。

化学委員会（高分子化学分科会）					
委員長	上垣外正己	副委員長	宮田隆志	幹事	岸村顕広、矢島知子
主な活動	審議内容				
	第25期の本分科会と高分子学会が協力して申請した「未来の学術振興構想」（中長期戦略）を参考にして、デジタルトランスフォーメーション、極限マテリアル、クオリティー・オブ・ライフなどをキーワードにして、他の分科会や分野とも連携しながら、シンポジウムやワークショップなどを企画することにより、高分子を利用して活動を新しい分野に広げていく可能性について議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	未定				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	第1回 令和6年3月22日				
今後の課題等	広く他分野で使われている高分子、社会で役立っている高分子を使って、他分野との連携や社会への発信にいかに取り組むかが、学術会議の分科会の活動として重要である。				

②⑥総合工学委員会



総合工学委員会					
委員長	玉田 薫	副委員長	宮崎恵子	幹事	越塚誠一、関谷 毅
主な活動	審議内容				
	第 26 期は、当該委員会に所属する分科会ならびに小委員会活動の活性化・適正化のため、設置提案の審査・承認等の役割を果たすとともに、当該委員会の下に企画分科会を設置し、総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化を主軸に議論を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第 26 期中に総合工学委員会総合工学企画分科会を中心に、総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化に関する意思の表出（見解）を目指す。				
	開催シンポジウム等				
	令和 6 年度内に上記意思の表出の内容に関連したシンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定。				
開催状況	令和 5 年 10 月 4 日 第 1 回総合委員会（対面開催） （この間、第 2 回～第 10 回メール審議開催） 令和 6 年 4 月 24 日 第 11 回総合委員会（対面開催） （この間、第 12 回～第 14 回メール審議開催）				
今後の課題等	特になし				

総合工学委員会（ICO 分科会）

委員長	荒川泰彦	副委員長	松尾由賀利	幹事	馬場俊彦、美濃島薫
主な活動	審議内容				
	国際対応委員会のひとつとして、ICO（International Commission for Optics）への対応等を審議するとともに、我が国の光・量子科学技術の発展に資する活動を行う。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等				
	令和6年7月25日に国際光デー記念シンポジウム『～量子技術とレーザー科学の最前線～』を開催。4件の講演と71件のポスター発表。参加者198名。協賛企業31社。				
開催状況	第1回：令和6年3月1日 第2回：メール審議（令和6年3月19日～令和6年3月21日17：00） 第3回：メール審議（令和6年5月16日～令和6年5月22日正午） 第4回：令和6年7月25日				
今後の課題等	ICOへの対応等の審議、国際光デー活動のさらなる推進、光科学技術に関する研究者の交流の促進と国民の啓発などに取り組む。				

総合工学委員会総合工学企画分科会					
委員長	玉田 薫	副委員長	宮崎恵子	幹事	越塚誠一、関谷 毅
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	第25期は総合工学分野の教育課程編成上の参照基準について見解をまとめたが、第26期は総合工学分野の次世代人材育成と国際競争力強化を主軸に議論を進める。				
	意思の表出（※予定含む）				
	第26期中に次世代人材育成と国際競争力強化に関する意思の表出を目指す。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	令和6年度内に上記意思の表出の内容に関連したシンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定。				
開催状況	令和6年3月12日 第1回総合工学企画分科会（オンライン） 令和6年4月5日 アンケート実施				
今後の課題等	総合工学委員会内外の他の分科会とも連携し、国際連携、研究力強化に関して、当該分野に関わる最新の学術の動向を社会に向けて発信する。				

総合工学委員会（工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会）					
委員長	辻佳子	副委員長	宮崎恵子	幹事	柴山悦哉、西田佳史
主な活動	審議内容				

	安全は工学だけではなく、人文社会科学が深く関わっていることを念頭に、安全の理念をとりまとめる活動を行い以下の審議を行う。①変化する技術・社会における工学システムの安全とリスク検討、②工学システムに対する安心感等検討、③老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク、④カーボンニュートラル施策の影響フレーム。
	意思の表出（※見込み含む）
	今期末に「工学システムに関する安全・安心・リスクの体系化（仮）」として見解を表出予定。
	開催シンポジウム等
	令和6年6月26日（水）～28日（金）「安全工学シンポジウム2024」開催。
開催状況	第1回令和6年1月29日、第2回令和6年2月29日。各小委員会は別途開催。
今後の課題等	今後益々複雑多様化する社会とそれに寄与する工学システムに関する安全・安心・リスクの体系化と共に、リスク評価のフレームワークや具体的手法について検討を行い、その有効性と課題を明らかにする。

総合工学委員会（原子力安全に関する分科会）					
委員長	関村直人	副委員長	越塚誠一	幹事	岩城千香子、小野恭子
主な活動	審議内容				
	本小委員会では福島第一原子力発電所事故後の原子力安全の基盤に係る課題のうち、特に以下の観点から総合的かつ俯瞰的に検討を行っている。 ・環境中に放出された放射能の動態と今後の原子力防災計画への活用 ・リスク情報の活用等による安全規制や継続的な安全性向上のあり方 ・原子力安全に関する広いステークホルダー間のコミュニケーション				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・環境中に放出された放射性物質の動態とこれに基づいた原子力防災のあり方については、前期までの報告（英文版を含む）以降の進展とフォローアップを行い、具体的な対外的な意思の表出を準備している。 ・リスク情報の活用と原子力システムの継続的な安全性向上については、コミュニケーションの課題を含め、意思の表出を計画中である。				
	開催シンポジウム等				
	・令和6年1月22日に原子力総合シンポジウムを開催し400名以上の参加者を得た。原子力委員会及び原子力規制委員からの講演を含め、活発な議論が行われた。 ・令和7年1月に「原子力のリスクをどのように考えるか」を主題とし各学協会の協力を得て、原子力総合シンポジウムを開催予定である。				
開催状況	第1回：令和6年1月22日 第2回：令和6年5月17日 原発事故の環境影響に関する検討小委員会の開催状況				

	第1回：令和6年4月11日 第2回：令和6年7月17日 第3回：令和6年8月27日
今後の課題等	原子力安全の基盤への新知見の効果的な取込みについても、俯瞰的な検討を進め、その基幹を整備していく必要がある。

総合工学委員会（科学的知見の創出に資する可視化分科会）					
委員長	小山田耕二	副委員長	武田秀太郎	幹事	中村浩章、日置尋久
主な活動	審議内容 本分科会では、可視化技術とAIの融合の重要性を議論し、技術の発展、社会への応用、教育利用を目指す目標について合意に達した。具体的には、AIの進化による可視化技術の変革、教育分野への応用、そして科学的知見を社会に効果的に伝達する手段としての可視化の活用が議論の中心であった。これらの目標達成を支援するために、XRベース協働可視化小委員会と可視化戦略小委員会が設置され、それぞれの提案内容と目的が詳細に説明され、分科会メンバーによって承認された。分科会での役割分担は、メンバーの専門分野や関心に基づき決定された。この分科会の活動は、メンバー間の活発な意見交換と協力により、具体的な行動計画への移行の基盤が整備された。XRベース協働可視化小委員会については設置提案書及び委員名簿が総合工学委員会で承認された。また、可視化戦略小委員会に関しては、委員名簿の準備が進められている。 意思の表出（※見込み含む） 25期からの申し送り事項の具体的な実現について審議した後、その結果を意思の表出としてまとめることを検討している。具体的には、本分科会での議論を通じて形成された見解や提言を取りまとめた出版物の発行を予定している。 開催シンポジウム等 本分科会では、可視化技術とAIの統合に関する最新の進歩と応用に焦点を当てた公開シンポジウムの開催を計画している。				
開催状況	第1回(令和6年3月11日)				
今後の課題等	分科会では、今後の活動計画として、まず設置が決定した二つの小委員会、XRベース協働可視化小委員会と可視化戦略小委員会の具体的な活動開始に向けた準備を進める。XRベース協働可視化小委員会では、拡張現実(XR)を活用した共同作業による可視化技術の開発に焦点を当て、可視化戦略小委員会では、科学的知見の伝達や教育への応用を目的とした戦略的な可視化手法の策定を目指す。				

総合工学委員会（未来社会と応用物理分科会）					
委員長	関谷 毅	副委員長	田和圭子	幹事	玉田 薫
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				

	当該分科会の活動を振り返り、今期の方針や具体的な活動計画について議論した。特に国際化が加速する中で、未来社会に必要とされる応用物理学術領域に関する課題の整理と、これを取りまとめる形で、意思の表出を目指す方針を立てた。
	意思の表出（※予定含む）
	関連学会及び産業界との連携を進め、第 26 期中に次世代人材育成と国際競争力強化に関する意思の表出を目指す。
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	令和 7 年度内に上記意思の表出の内容に関連したシンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定。
開催状況	令和 6 年 3 月 28 日 第 1 回総合工学委員会未来社会と応用物理分科会
今後の課題等	総合工学委員会内外の他の分科会とも連携し、国際連携、研究力強化、経済安全保障に関して、当該分野に関わる最新の学術の動向を社会に向けて発信する。

総合工学委員会（エネルギーと科学技術に関する分科会）					
委員長	高田保之	副委員長	岩城智香子	幹事	齋藤公児
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会」および「カーボンニュートラル実現に向けた熱エネルギー有効利用小委員会」の設置し、今期の活動方針について検討した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	各小委員会の活動に基づき、提言等を発出する予定である。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	2024 年 11 月 14 日に洋上風力小委員会主催で公開シンポジウム「海底地質災害と洋上風力開発」を開催予定				
開催状況	第 1 回 2024 年 3 月 7 日（オンライン） 第 2 回 2024 年 5 月 15 日（オンライン） 洋上風力小委員会： 第 1 回 2024 年 6 月 6 日（ハイブリッド） 熱エネルギー小委員会： 第 1 回 2024 年 7 月 30 日（オンライン）				
今後の課題等	「フュージョンエネルギー小委員会」の設置				

総合工学委員会・機械工学委員会合同（フロンティア人工物分科会）					
委員長	宮崎恵子	副委員長	佐宗章弘	幹事	河合宗司、川口慎介
主な活動	審議内容				
	本分科会は、海と空・宇宙の利用技術開発と科学的解明を行うシステムであるフロンティア人工物に関する議論を行っている。第 26 期は、フロンティア人工物に関する国際連携及び人材育成に係る審議を進めていく方針とした。親委員会である総合工学委員会並びに第三部会内の関連活動を踏まえつつ、特有の課題を扱う。				

	意思の表出（※見込み含む）
	現時点ではなし
	開催シンポジウム等
	前期に引き続き、サイエンスカフェの開催を検討していく。
開催状況	第1回：令和6年3月19日 9または10月に第2回開催のため、人材育成に係る審議資料を準備中。
今後の課題等	今期の他分科会の活動や前期までに表出した提言等も踏まえ上記審議を進める。

総合工学委員会・機械工学委員会合同（計算科学シミュレーションと工学設計分科会）					
委員長	金田 千穂子	副委員長	渋谷 陽二	幹事	大出 真知子、松尾 亜紀子
主な活動	審議内容				
	・本分科会第1回会合で役員を選出し、今期の分科会活動方針と、小委員会の設置提案および活動方針について議論した。また、委員追加が審議・承認された。「計算科学シミュレーションと工学設計」分野におけるシミュレーションとAI・データ科学関連の議論の場が新たに必要ではないかとの指摘があり、関連の小委員会設置の検討を継続することとした。「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」の委員の辞任と追加が、2度のメール審議で承認された。 ・「計算力学小委員会」は第1回会合で役員を選出した。また、第14回計算力学シンポジウム開催について議論した。 ・「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」は、第1回会合で、役員を選出、委員の辞任と追加の審議・承認を行った。また、前期に表出した見解「計算科学を基盤とした産業競争力強化を推進する人材育成とエコシステムのあり方」のフォローアップと、計算科学とAIへの取り組みについて議論した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中。				
	開催シンポジウム等				
	・第14回計算力学シンポジウムを令和6年12月10日に日本学術会議講堂で開催する計画である。				
開催状況	分科会第1回会合を令和6年3月29日にオンライン開催、令和6年7月12日および、令和6年8月2日にメール審議を行なった。また、「計算力学小委員会」第1回会合を令和6年7月4日にオンライン開催、「計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会」第1回会合を令和6年8月9日にハイブリッド開催した。「計算音響学小委員会」は第1回会合を令和6年9月19日にオンラインで開催。				
今後の課題等	公開シンポジウムを継続的に開催するとともに、意思の表出のとりまとめを行う。				

⑦機械工学委員会



機械工学委員会					
委員長	高田保之	副委員長	佐田 豊	幹事	高木 周、田中真美
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	機械工学は「機械」に関わる工学を対象とした研究分野であり、およそすべての理工学分野の研究成果を「かたち」として具体化するときには不可欠となる重要な基盤的学術分野である。主な審議内容は以下の通りである。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携、および所属分科会の活動などを通じて機械工学に対する理解を深め、その活動を産業や社会生活に反映させるための検討				
	意思の表出（※予定含む）				
	機械工学の将来展望分科会などからの意思の表出を検討予定				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	所属分科会で適宜開催を検討				
開催状況	第1回 2023年10月4日 第2回 2023年10月23日～10月25日（メール審議） 第3回 2023年10月30日～11月1日（メール審議） 第4回 2023年11月13日～11月15日（メール審議） 第5回 2023年12月15日～12月17日（メール審議） 第6回 2023年12月25日～12月27日（メール審議） 第7回 2024年1月10日～1月12日（メール審議）				

今後の課題等	1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の主催および後援 3. 機械系学協会との連携 4. 会員と連携会員との円滑な連携についての検討（機械工学委員会（5/10 全体会議）の準備）
--------	---

機械工学委員会（機械工学企画分科会）					
委員長	高田保之	副委員長	佐田 豊	幹事	高木 周、田中真美
主な活動	審議内容				
	機械工学委員会の運営および活動を円滑に進めるために、機械工学の学術分野を俯瞰しつつ、機械工学委員会と関連する分科会、シンポジウムなどの企画行事などに関する事項を審議、決定する。また、機械工学委員会・関連する分科会と情報・意見交換を行い、委員会が関わる諸活動を推進する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし（機械工学委員会の分科会との共同開催）				
開催状況	第1回 2023年12月9日 第2回 2024年3月27日（ハイブリッド） 第3回 2024年9月20日（ハイブリッド）（予定）				
今後の課題等	以下の審議を行う。 1. 機械工学分野の学術活動全般に関する動向やあり方 2. 機械工学委員会の運営全般、分科会及び小委員会の設置・運営、シンポジウムなどの企画行事の開催等。分科会および小委員会の活性化について検討する。 3. 提言作成などの意思の表出に向けた検討および後援				

機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同（理論応用力学分科会）					
委員長	高田 保之	副委員長	前川 宏一	幹事	高木 周、松尾 亜紀子
主な活動	審議内容				
	以下の審議を行う。 1. 理論応用力学分野の学術研究の進展、課題および将来動向 2. 国際組織 IUTAM の正規メンバーとしての総会、理事会、IUTAM シンポジウムなど諸行事への参画方針 3. 関連学協会と協力した理論応用力学講演会、シンポジウムの主催				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	第66回理論応用力学講演会（2022年6月24～26日に開催） 第8回理論応用力学シンポジウム（2023年3月10日に開催）				

開催状況	分科会：第1回 2021年3月22日，第2回(メール審議)2021年10月15日，第3回(メール審議)2021年12月22日，第4回 2022年3月11日，第5回(メール審議)2022年11月17日，第6回 2023年3月10日，第7回 2023年9月4日 学協会連携小委員会：第1回 2021年6月14日，第2回 2021年11月25日，第3回 2022年6月25日 理論応用力学企画小委員会：第1回 2021年9月7日，第2回*2022年3月11日，第3回*2023年3月10日，第4回 2023年8月16日，第5回*2023年9月4日(開催予定) *分科会と合同開催 IUTAM・国際連携小委員会：第1回 2021年11月13日，第2回 2022年1月6日，第3回 2022年3月11日，第4回 2022年6月11日，第5回 2022年10月23日，第6回 2023年3月10日，第7回 2023年9月4日
今後の課題等	学協会を束ねる日本工学会との連携を強化 理論応用力学国際連合(IUTAM)への継続的・積極的な関与 理論応用力学シンポジウムの企画

機械工学委員会・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 (IFAC 分科会)					
委員長	田中真美	副委員長	榎本哲夫、藤崎泰正	幹事	岩崎 誠
主な活動	審議内容 国際自動制御連盟 IFAC (The International Federation of Automatic Control) は、制御工学分野において最も由緒正しい世界的学術団体である。IFAC の会員は国であり、現在日本は最も高い Category の会員となっている。日本学術会議は IFAC の Japan NMO (National Member Organization) となっており、本分科会が IFAC の会員としての様々な活動を行っている。具体的には、General Assembly への参加(議決権を有する)、IFAC の Officer や TC (Technical Committee) の委員の推薦・派遣、国際会議 (Conference、Symposium など) の企画・開催などを行い、国際的な学術交流に寄与している。また、制御工学に関する様々な技術課題の検討を行うとともに、自動制御に関する国内の多分野交流の場である自動制御連合講演会の企画・運営を行う。 以上に鑑み、審議事項を要約すると以下の通りである。 1. IFAC の Japan NMO としての活動 2. 自動制御に関連する学術的活動(含自動制御連合講演会等)に係る審議に関すること 意思の表出 (※見込み含む) なし 開催シンポジウム等 ・第25期と第26期の間であったが、第25期中に横浜で開催された IFAC World Congress (IFAC 2023) (参加者 3,200 名) に関する特別企画「IFAC World Congress 2023 の振り返りと今後について」が、第66回自動制御連合講演会(令和5年10月7、8日仙台)にて行われた。 ・第67回自動制御連合講演会(令和6年11月23、24日姫路商工会議所)				
開催状況	第1回は令和6年2月21日に開催した。第2回は、令和7年に開催予定である。 自動制御の多分野応用小委員会は、令和6年5月15日に第1回を開催した。第2回は令和6年11月23～24日(姫路商工会議所)開催の自動制御連合講演会会期中に開催予定である。				
今後の課題等					

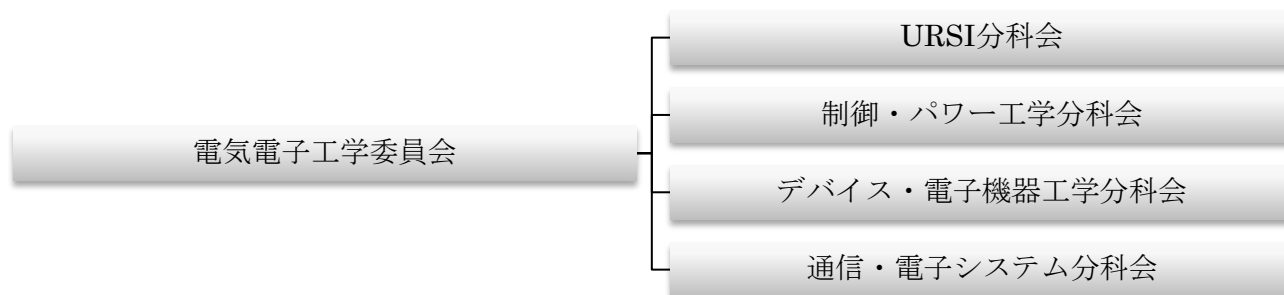
機械工学委員会（ロボット学分科会）					
委員長	新井史人	副委員長	田中真美	幹事	山西陽子、吉田英一
主な活動	審議内容				
	サイバー空間と実空間を統合し、能力拡張された知能システム（ロボット）が、社会の課題解決のために活用されることが期待される。近未来の課題を抽出し、課題解決のための何を検討しておくべきかを議論し、テクノロジーからの観点だけでなく人文社会科学などの広い視点も交えて学術が果たす役割を含めて包括的に議論を行ってきた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	将来の予測と課題解決について、検討すべき事項を明確化するとともに、当分科会として将来展望をまとめることを視野にいれている。				
	開催シンポジウム等				
	以下のテーマをベースとした分科会を開催することを検討している。 1. Robotics Roadmap: Forecasting & strategic planning 2. Nextgen Robotics: A door to the future 3. Beyond Robotics: Social design and management				
開催状況	第1回：令和6年2月26日 第2回：令和6年3月12-21日（メール審議） 第3回：令和6年6月3日				
今後の課題等	他の分科会とも協働し、能力拡張された知能システム（ロボット）に関する未来予測について調査・分析し、未来予測に基づく課題を、工学だけでなく情報科学や人文社会科学などの他学術分野からの視点も含めて抽出する。				

機械工学委員会（生産科学分科会）					
委員長	梅田 靖	副委員長	須藤 雅子	幹事	足立 幸志、廣野陽子
主な活動	審議内容				
	Absolute Sustainability の達成に向けて、製造業がどのような形態に変容して行くべきか、その結果、社会がどう変容するか？逆に、社会が今後どのように変容して行きそれが製造業にどのように影響を与えるかの相互関係をグローバルレベル、アジアレベル、国内レベル等の複数のレベルで幅広い議論を行って行くことを活動目標として明確化した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現時点では未定。				
	開催シンポジウム等				
	今期末にシンポジウム開催を企画中。				

開催状況	第1回 令和6年3月22日 第2回 令和6年7月31日
今後の課題等	今期末に開催予定のシンポジウム、第27期に発出予定の意思の表出に向けて、議論を進めて行く。

機械工学委員会（生体医工学分科会）					
委員長	松本 健郎	副委員長	中野 貴由	幹事	安達 泰治, 竹内 昌治
主な活動	審議内容				
	今期役員の選出, 今期活動方針・計画の審議, 公開シンポジウム開催決定, 特任連携会員の選定など				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	令和6年10月29日に仙台にて公開シンポジウムを開催予定				
開催状況	生体医工学分科会（第26期・第1回）を令和6年6月4日にオンラインで開催				
今後の課題等	1. 生体医工学の教育・研究体制の現状と課題 2. 研究開発から実用化に至る過程での課題と方策 3. 国内外関連学協会等の動向、情報交換、連携推進の方策				

㊫電気電子工学委員会



電気電子工学委員会					
委員長	三瓶政一	副委員長	大橋弘美	幹事	田中雅明
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	第26期において分科会の構成をどうするかについて議論した結果、従来通りの構成が適切と判断し、それに基づいて各分科会、小委員会を立ち上げた				
	意思の表出（※予定含む）				
	電気電子工学委員会としての意思の表出は予定せず、各分科会がそれぞれ、各分科会の今後の議論の中で検討する				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	電気電子工学委員会としての意思の表出は予定せず、各分科会がそれぞれ、各分科会の今後の議論の中で検討する				
開催状況	第1回：令和5年10月4（水） 第2回：令和5年10月16日（月）～10月25日（水）（メール審議） 第3回：令和5年11月6日（月）～11月15日（水）（メール審議） 第4回：令和5年11月22日（水）～11月30日（木）（メール審議） 第5回：令和5年12月12日（火）～12月20日（水）（メール審議） 第6回：令和6年1月31日（水）～2月9日（金）（メール審議） 第7回：令和6年4月24日（水）				
今後の課題等	電気電子工学の直面する諸課題および解決策について、各分科会、小委員会と協力しながら議論を深掘する。なお、今期、各分科会開設にあたり世話人を務めていた委員は第26期をもって退任することから、第27期以降、分科会設立の知見を有しないものが分科会立ち上げの任を担う際の負荷を抑制するため、分科会設立に関する注意点などをメモとしてまとめ、電気電子工学委員会内で適宜、利用していくこととした。また国際会議の開催について、国際会議担当分科会を支援して行く。				

電気電子工学委員会（URSI 分科会）					
委員長	八木谷聡	副委員長	小林一哉（予定）	幹事	芳原容英（予定）
主な活動	審議内容				

	・第 26 期 URSI 分科会の立ち上げについて ・第 26 期 URSI 分科会 A～K 小委員会の設置について ・第 26 期 URSI 分科会の重要課題について ・新たな小委員会の立ち上げについて ・2024 年 URSI 大西洋電波科学会議（URSI AT-RASC 2024）の開催について
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	URSI 分科会（第 1 回）：令和 6 年 3 月 29 日 URSI 分科会（第 2 回）：令和 6 年 8 月 1 日～9 日（メール審議） 電磁波小委員会（第 1 回）：令和 6 年 7 月 4 日 無線通信システム信号処理小委員会（第 1 回）：令和 6 年 7 月 6 日 電離圏電波伝搬小委員会（第 1 回）：令和 6 年 7 月 11 日 電波天文学小委員会（第 1 回）：令和 6 年 7 月 23 日 医用生体電磁気学小委員会（第 1 回）：令和 6 年 7 月 29 日 電磁波の雑音・障害小委員会（第 1 回）：令和 6 年 8 月 6 日 非電離媒質伝搬・リモートセンシング小委員会（第 1 回）：令和 6 年 8 月 23 日 エレクトロニクス・フォトニクス小委員会（第 1 回）：令和 6 年 8 月 27 日 電磁波計測小委員会（第 1 回）：令和 6 年 8 月 27 日
今後の課題等	・URSI 旗艦会議への対応 － 「2025 年 URSI アジア・太平洋電波科学会議」（URSI AP-RASC 2025） － 「第 36 回 URSI 総会」（URSI GASS 2026） ・「2025 年 URSI 日本電波科学会議」（URSI-JRSM 2025）の開催 ・URSI AP-RASC の 2028 年日本開催立候補 ・2027 年 IEEE AP-S/JNC-USNC-URSI 国際会議への対応 ・新たな小委員会の立ち上げ ・URSI 分科会主催シンポジウムの開催

電気・電子工学委員会（制御・パワー工学分科会）					
委員長	大崎 博之	副委員長	村上 俊之	幹事	安田 恵一郎、北 裕幸
主な活動	審議内容				
	第一回分科会では、今後の活動についての意見交換を行った。また会員 1 名の定年退職に伴い、令和 6 年 8 月から新たな体制（大崎委員長、村上副委員長、安田幹事、北幹事）が生まれ、同年 11 月 11 日、第 2 回の分科会が開催される。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「意思の表出」か「公開シンポジウム」かを第二回会合以降に議論する予定				
	開催シンポジウム等				
	「意思の表出」か「公開シンポジウム」かを第二回会合以降に議論する予定				

開催状況	26 期第 1 回分科会（全 14 名中 11 名出席）：令和 6 年 2 月 27 日開催。 26 期第 2 回分科会（全 16 名）：新体制のもと令和 6 年 11 月 11 日開催で調整済。
今後の課題等	前 25 期からの継続テーマとして「電気」分野におけるエネルギー問題やカーボンニュートラル関連の課題を扱う。電気機械システム・パワーエレクトロニクス・電力インフラ・システム制御など、今期、新たに参画いただいた委員も交え、環境・経済、および学术界・産業界など、多様な視点を織り交ぜて議論する。当面は、各委員にプレゼンいただき、問題意識を共有することから始める予定である。

電気電子工学委員会（デバイス・電子機器工学分科会）					
委員長	大橋弘美	副委員長	森 勇介	幹事	西澤典彦、 藤島実
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	我が国の電気電子、特にデバイス分野の存在感を示すために、国際的及び学際的視点から吟味検討し、関連する学術・技術の今後のあり方について提言・報告などを提示し、学術の発展に貢献することを目指す。 前期のシンポジウムは、かなり議論が盛況であった。しかし、次につながる活動として、どうするべきか、という課題を解決する案について意見交換を行った。その結果、シンポジウム、もしくは、未来の学術構想の提案などを検討した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	検討中				
開催状況	第 1 回：令和 6 年 5 月 1 日				
今後の課題等	盛況なシンポジウムを実施しても、次につながる活動として、同継続するべきか、別のアクションをとるべきか、が課題である。				

電気電子工学委員会（通信・電子システム分科会）					
委員長	三瓶政一	副委員長	山中直明	幹事	原田博司、中尾彰宏
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	次世代携帯電話ネットワークが、社会インフラを含むあらゆるシステムのプラットフォームとして活用されようとしているなど、その適用分野がダイナミックに変わりつつあることを踏まえ、第 25 期に発出した見解をベースに、通信・電子システム分野のさらなる進展の方向性とそれに対する対応をさらに深堀するとともに、それを幅広く議論するための公開シンポジウムの開催についての審議を行う。				
	意思の表出（※予定含む）				
	見解、提言などの提出は、今期は予定なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	第 25 期発出の「見解」をベースにした通信・電子システム分野のさらなる進展の方向性とそれに対する対応に関する議論を行うため、公開シンポジウム、ヒアリング等の実施を予定				

開催状況	第1回：令和6年3月28日
今後の課題等	第25期に発出した見解の内容は、情報通信分野において重要な課題の解決に向けたものであるが、そのことが、情報通信分野、特に産業会において浸透していない点が大きな課題。産業界を含めた議論に向けた活動としてどのようなプロセスが有効かを検討する必要がある。

㊹土木工学・建築学委員会



土木工学・建築学委員会					
委員長	竹内徹	副委員長	佐々木葉	幹事	田村圭子、大岡龍三
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	わが国において今後、国民の健全な生活を保証するための国土、都市・地域環境を維持・保全するため、最大かつ喫緊の課題である人口減少、激甚化する災害、そして地球環境問題下において「持続的で豊かな社会」を実現・維持することを最終目的とし、課題解決のための検討を行う。				
	意思の表出（※予定含む）				
	意思の表出に向けて、対象となるテーマについて検討を開始した。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	未定				
開催状況	第1回：令和5年10月4日 第2回～第7回：メール審議（各分科会および構成委員の承認等） 第8回：令和6年3月28日 第9回：令和6年5月27日 午後には参加の全分科会構成員を交えた全体会を開催し、45名(うち対面40名)の参加を得て活動報告を実施し意見交換を行った。 第10回：令和6年7月25日				
今後の課題等	傘下において活動を開始した8つの分科会間の情報共有、他委員会との横断的協働体制の構築をどのように図るかを検討する。				

土木工学・建築学委員会（IRDR 分科会）					
委員長	寶 馨	副委員長	小野裕一	幹事	臼田裕一郎、大原美保
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	■活動推進小委員会を立ち上げた ・令和6年5月9日（木）に第1回を開催 ・小委員会設置の目的は、日本学術会議会員・連携会員からなる IRDR 分科会の議論が、マルチステークホルダーの取り組みとしての実効性を確保するため、国際的議論と調整においてリーダーシップを発揮できる経験を有する者の参加を得るためである。具体的には、①防災・減災分野において、国際的な研究開発または政策展開、②分野間連携、産・官・学の連携を図り、防災・減災の社会実装の推進、③学術、行政の双方の立場から、防災・減災の研究開発と政策展開、の経験者を委員とした。 ・西川 智氏（独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員/東北大学災害科学国際研究所 特任教授）を会長に選出。 ・分科会の今期の方向性について議論した。 ■第2回分科会（合同分科会）を実施した ・IRDR 分科会（第26期・第2回）、IRDR 活動推進小委員（第26期・第2回）を令和6年5月27日に実施した。「インフラレジリエンス分科会」「複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会」との合同分科会の形式で実施した。 ・分科会の活動報告を行い、今後の分科会の連携の方向性について議論した。 ■IRDR コミュニティへの発信 ・寶 馨 分科会長が、IRDR Scientific Committee のメンバーに選任され、7月2日に IRDR International Programme Office (IPO)会議に出席した。				
	意思の表出（※予定含む）				
	現在のところ、特になし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	ぼうさいこくたい 2024 in 熊本（令和6年10月19日20日）公開シンポジウム「防災士による地域防災力の向上～行政および研究機関との連携強化の進め方～」				
開催状況	第1回：令和6年3月13日（分科会） 令和6年5月9日（活動推進小委員会） 第2回：令和6年5月27日（分科会・活動推進小委員）				
今後の課題等	・審議した今期の活動目標を実現するために、引きつづき行動計画化を進める ・関係者・組織との活動の活性化を推進する				

土木工学・建築学委員会（気候変動と国土の未来分科会）					
委員長	清水義彦	副委員長	持田 灯	幹事	有働恵子， 平林由希子
主な活動	審議内容				
	気候変動による風水害の激甚化に対応するために、学術会議がこの10年間に検討した提言・見解のレビューを行った。とくに、25期・気候変動と国土分科会のもとに進めてきた「流域治水に資する耐水建築」の社会実装，耐複合災害建築への深				

	化等について議論を行った。また、自然災害の激甚化に対応する適応策の課題についての意見交換を行い、災害リスクの評価や提示の仕方、脆弱性の高い土地利用の今後のあり方での集中的な議論のもと、本分科会の今後の進め方、検討の絞り込みについて引き続き、メールで意見・情報交換を行うことが確認された。
	意思の表出（※見込み含む）
	現時点での予定なし
	開催シンポジウム等
	現時点での予定なし
開催状況	令和6年5月27日、6月24日～26日（メール審議）、8月21日
今後の課題等	今後の国土のあり方や土地利用計画を念頭に、適応策を進める上での克服すべき課題について整理し、焦点を絞るとともに、課題解決のアプローチを、自然科学、工学、社会学等の多岐にわたる学術分野からの切り口で検討する。

土木工学・建築学委員会・情報学委員会・総合工学委員会合同（WFEO 分科会）					
委員長	塚原健一	副委員長	未定	幹事	未定
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	1. SDGs 達成に貢献する工学知の統合化に関する議論を取り纏める。				
	2. WECC2015 の経験を踏まえ、WFEO 諸活動での実りある成果に貢献する。				
	意思の表出（※予定含む）				
	予定なし				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	世界エンジニアリングデー記念シンポジウム（日本工学会と共催予定）（令和7年3月予定）				
	令和6年9月頃第1回分科会開催予定 （第26期期間内のWFEO総会は令和7年10月開催予定）				
今後の課題等	日本工学会と連携したWFEO関連活動の活性化				

土木工学・建築学委員会（インフラレジリエンス分科会）					
委員長	多々納裕一	副委員長	高橋良和	幹事	土屋哲、松田曜子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	気候変動、人口の減少や、技術の急激な進歩、これに伴う産業構造や地域の将来の不確実性が今ほど高まっている時代はない。このことは、前提となる条件の不確実性を意味すると同時に、災害などの突発的な事象に加えて、長期的に継続するリスクへのインフラのレジリエンスの重要性が増してきていることを意味する。不確定な将来をどのように選択していくのか、そのためには意思				

	決定の場には市民の参加が不可欠で、多様な主体の社会的包摂の問題も重要な論点となる。本分科会では、このような認識のもとで、不確実社会における社会的包摂に関わる問題を整理し、それを前提としたインフラレジリエンスのあり方を再定義する。分科会での議論を通じて現在までの成果を取りまとめ、科学的証拠としてそれを社会に還元することを目指す。 具体的には、 1. インフラをめぐる不確実性とその対処法 2. インフラレジリエンスの（再）定義 3. インフラレジリエンスに関わる科学技術的課題 4. 市民参加や社会的包摂の方法など制度・方法論に係る審議を進める予定である。 意思の表出（※予定含む） まずはデータをしっかりと収集・整理し「報告」としてまとめることを目指す。 開催シンポジウム等（※予定含む）
開催状況	第1回：令和6年3月22日 第2回：令和6年4月15日 第3回：令和6年5月27日(複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会及び IRDR 分科会との合同開催)
今後の課題等	インフラ高度化分科会（第24期・第25期）の活動内容、内閣官房で動いている国土強靱化推進会議の動向や、日米土木学会の共同プロジェクト「インフラレジリエンス」に関する成果をまずもって共有し、今後の議論の論点を一層、明確化する。

土木工学・建築学委員会（複合災害と人口減少時代の建築・都市・地域分科会）					
委員長	竹内徹	副委員長	久田嘉章	幹事	小野悠、平田京子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	建築・土木工学・社会科学・法学を横断した分科会を構成し、地震・津波・暴風・洪水等の複合災害と人口減少を睨んだ中長期的な地域のまちづくり・インフラ整備のあり方や、土地・家屋を中心とした私有財産の移し替え、公共化の法整備の在り方、魅力あるまちづくりのデザインの在り方について協議する。				
	意思の表出（※予定含む）				
	意思の表出に向けて、対象となるテーマについて検討を開始した。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	第1回：令和6年2月27日 第2回：令和6年5月27日 (IRDR 分科会、インフラレジリエンス分科会と共同開催) 第3回：令和6年9月30日(予定)				

今後の課題等	令和6年1月に発生した能登半島地震の状況、平成7年阪神淡路大震災、平成23年東日本大震災、令和2年熊本豪雨災害等の状況およびその後の復興過程を参照しながら、避難所環境の課題、住宅再建の支援の少なさによる避難の長期化・貧困化、道路やインフラの復旧の遅れ、集団移転を促すための法整備の難しさ、土地所有権とコミュニティの移転、不動産の区分所有の課題、首都圏から地方への知的・人的資産の再配分など、様々な多様な観点より課題の抽出を開始している。引き続き関連他分科会と協働による分野横断的な知見の共有、重点分野の深掘り議論を行い、改善策に関する意思の表出を目指す。
--------	---

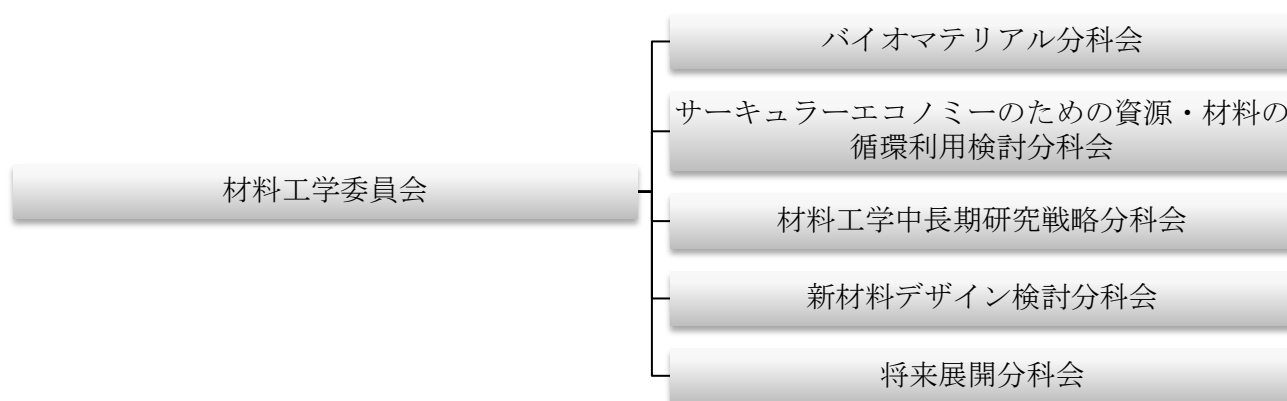
土木工学・建築学委員会・環境学委員会合同（カーボンニュートラル都市分科会）					
委員長	下田吉之	副委員長	大岡龍三	幹事	伊藤一秀、長澤夏子
主な活動	審議内容				
	1. 2035年、2050年温室効果ガス削減目標に対する住宅・建築のあり方 2. 住宅・建築の脱炭素における俯瞰的・包括的解決策と異分野協働 3. 脱炭素分野の学術・産業分野における国際競争力の強化				
	意思の表出（※見込み含む）				
	現在のところ予定なし				
	開催シンポジウム等				
	総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会と共同でシンポジウム開催を検討中				
開催状況	令和6年3月21日、5月27日、7月24日～7月26日（メール審議）				
今後の課題等	カーボンニュートラル関連の他の委員会の動向も踏まえ、今後の意思表出等の検討を進めていく。				

土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同（子どもの育成環境分科会）					
委員長	三輪律江	副委員長	湯川嘉津美	幹事	斎尾直子、安部芳絵
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	・「子どもの育成環境分科会」立ち上げの経緯、審議テーマの変遷、過去の提言の紹介等を共有し、今期26期の主旨を確認 ・こども環境学会の活動の紹介と連携として、5/31-6/2 こども環境学会におけるシンポジウムの参加を促した。 https://www.children-env.org/Education_and_enlightenment/convention ・教育学、社会教育学を専門として子どもの意見表明・参加の権利を国や自治体でどのように保障していくかといった実践的研究を行っている安部芳絵氏を特任連携会員の招聘することを承認した。				

	・上野佳奈子氏の委員追加を承認した。
	意思の表出（※予定含む）
	令和6年6月現在未定
	開催シンポジウム等（※予定含む）
	令和6年6月現在未定
開催状況	第1回（令和6年3月12日）、第2回（令和6年7月19日予定）
今後の課題等	・本分科会では、これまでの議論も踏まえ、今後こども家庭庁を中心に議論されていく「こども大綱」や、特に子どもの成育環境に直接関連する「都道府県こども計画」を見据え、こどもの生活に直接的に関わる地域コミュニティに再注目し、その在り方の議論、再生や改善策に向けた提言を行う。 ・次回第2回は、6月1日こども環境学会シンポジウムでの議論を中心にディスカッション、第3回以降は、各回、委員1-2名程度ずつ「成育コミュニティ（人間関係）の課題」に関連した話題提供＋質疑を実施する。 ・分科会委員外（学術会議外の専門家等）を参考人として招聘する。

土木工学・建築学委員会（デザインをめぐる知の構築と社会的理解分科会）					
委員長	佐々木葉	副委員長	田井明	幹事	小野悠、斎尾直子
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	多様な文脈におけるデザインの概念の背景と意義の整理、公共的な環境、空間、インフラへの取り組みにおけるデザインの再解釈、デザインの社会的理解のための取り組みのあり方について審議する。特に各種政策におけるデザインの位置付けの重要性について議論し、社会への発信を行なっていく。				
	意思の表出（※予定含む）				
	対象となるテーマと表出の方法について今後検討していく。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
開催状況	第1回：令和6年2月28日 第2回：令和6年5月27日 第3回：令和6年7月26日				
今後の課題等	第25期までにおけるデザインに関連する分科会の成果などを踏まえ、委員の問題意識を共有しながら、引き続き分野横断的な知見の共有、議論を行い、改善策に関する意思の表出を目指したい。また災害復旧復興のデザインの重要性についても、議論の対象としていく予定である。				

③⑩材料工学委員会



材料工学委員会					
委員長	岸本康夫	副委員長	尾崎由紀子	幹事	中野貴由、森田一樹
主な活動	審議内容				
	1. 材料工学分野における研究力強化策について 2. 材料工学に関する教育の在り方について 3. 材料工学の未来				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・上記3課題の中で特に研究力強化策について検討していく方針				
	開催シンポジウム等				
	25年秋頃 CNに関するシンポジウムを開催予定				
開催状況	第1回：令和5年10月4日 第一回材料工学委員会 第2回：令和5年11月7日 メール審議 第3回：令和5年12月18日 メール審議 第4回：令和6年1月5日 メール審議 第5回：令和6年1月29日 メール審議 第6回：令和6年2月29日 メール審議 第7回：令和6年3月28日 第二回材料工学委員会 第8回：令和6年4月5日 メール審議				
今後の課題等	・上記シンポジウム開催にむけての具体的な準備 ・第26期重点審議課題（研究力強化、材料工学に関する教育、材料工学の未来）について継続議論する。				

材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会（バイオマテリアル分科会）					
委員長	塙 隆夫	副委員長	大矢根綾子	幹事	岸田晶夫、松本卓也
主な活動	審議内容				

	1. バイオマテリアルを基軸とする分野融合体勢の確立 2. 主催シンポジウム開催 3. 新学術構想への提案に係る審議に関すること
	意思の表出（※見込み含む）
	バイオマテリアル及び関連分野の教育・研究に関する意思の表出を予定
	開催シンポジウム等
	令和6年10月29日に仙台で医工学分科会と合同の公開シンポジウム開催を予定
開催状況	第1回：令和6年3月26日、第2回：令和6年5月20日
今後の課題等	公開シンポジウムの準備、新学術構想への提案、意思の表出に向けた調査など

材料工学委員会・環境学委員会・総合工学委員会合同（サーキュラーエコノミーのための資源・材料の循環利用検討分科会）					
委員長	笹木圭子	副委員長	森田一樹	幹事	松八重一代、岡部徹
主な活動	審議内容				
	1. 製品の長寿命化のための設計とプロセス技術開発 2. 循環使用促進のための具体的な行動学による解析 3. カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの関係性 4. 既存学術大系の再構築、総合化による新学術分野の共創				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	フォーラム「サステナブル社会への移行における資源循環の役割」を2024年11月22日に開催すべく起案した。				
開催状況	第1回令和6（2024）年3月28日 オンライン会議。その他随時メール回議により幹事会を実施。				
今後の課題等	フォーラムの開催にあたり、具体的な準備と論点の整理。				

材料工学委員会（材料工学中長期研究戦略分科会）					
委員長	塙 隆夫	副委員長	小出康夫	幹事	杉浦夏子、松下伸広
主な活動	審議内容				
	1. 材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法 2. 材料工学分野におけるロードマップのローリング 3. 上記の議論を深めるためのシンポジウムの開催と意思の表出				
	意思の表出（※見込み含む）				
	材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための意思の表出を予定				

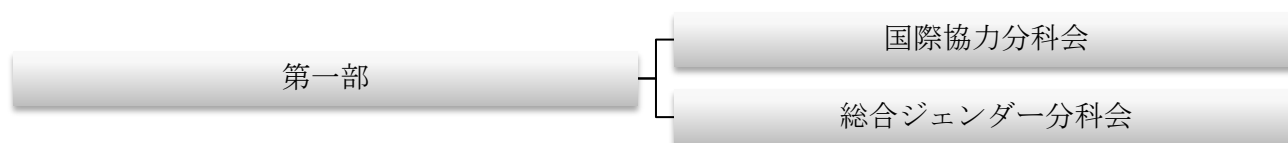
	開催シンポジウム等
	予定なし
開催状況	第1回：令和6年3月29日
今後の課題等	材料工学の中長期研究戦略を政策に反映させるための活動の方法、意思の表出、公開シンポジウムに向けた議論の深化など

材料工学委員会（新材料デザイン検討分科会）					
委員長	中野貴由	副委員長	三浦誠司	幹事	河野佳織，松本卓也
主な活動	審議内容				
	今期役員の選出、分科会設置の経緯と趣旨、分科会構成委員の専門性の共有、今期活動方針・計画の審議など				
	意思の表出（※見込み含む）				
	検討中				
	開催シンポジウム等				
	今年度中の開催はなし。来年度は検討中。				
開催状況	新材料デザイン検討分科会（第26期・第1回）を令和6年7月11日にオンラインで開催。				
今後の課題等	意思の表出に向けた調査の方法など。				

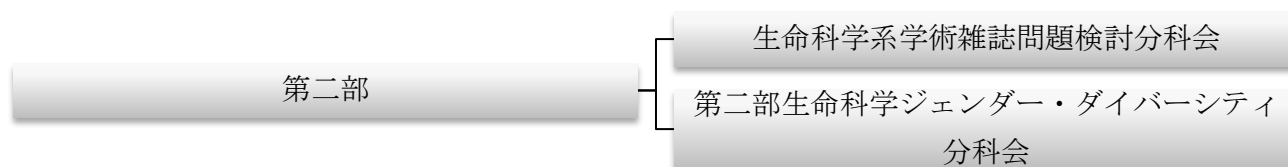
材料工学委員会（将来展開分科会）					
委員長	尾崎由紀子	副委員長	梅津理恵	幹事	筑本知子、岸村顕広
主な活動	審議内容				
	科学者委員会学術体制分科会が第25期に出した見解「研究活動のオープン化、国際化が進む中での科学者コミュニティの課題と対応ー研究インテグリティの観点からー」を分科会委員で参照し、材料工学分野における研究インテグリティ推進における現状と課題」についてアンケートを実施。アンケートの集約結果を第1回分科会で共有し、先端技術に関わる材料工学分野での懸念事項について意見交換を行った。分科会として取り上げるべき課題の選定については、幹事預かりとし、次回分科会以降の継続審議とした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	材料分野を取り巻く研究環境の中で研究のあるべき健全性・公正性、これを損なう懸念事項を整理し、わかりやすい表現で意志の表出を行い、当該分野の研究者の倫理観の喚起・醸成に繋げる（2025年度中）				
	開催シンポジウム等				
	材料工学、総合工学の関連分野も含めた問題提起としての、「材料開発における研究インテグリティ」に関するシンポジウムを計画（2025年度）				
開催状況	・分科会委員への「材料工学分野における研究インテグリティ推進における現状と課題」に関するアンケートを実施・集約（7/8～22） ・第1回分科会開催（7/25）				

今後の課題等	・広範な研究インテグリティの中で特に分科会で審議すべき重点項目の選定 ・上記に関する資金や環境、社会的負託を受けて行う研究活動等の現状把握 ・材料工学中長期研究戦略を視野に入れた議論（材料工学中長期研究戦略分科会との連携審議）
---------------	---

(8) 部が直接統括する分野別委員会合同分科会



第一部国際協力分科会					
委員長	小田中直樹	副委員長	城山英明	幹事	浅田進史
主な活動	審議内容				
	・ 第一部の活動に関わる国際学術団体とのリエゾンとして機能する。 ・ 上記団体から、各種会議における代表派遣、総会・大会の開催、役員の選出などに関する依頼が来た場合、検討・対応する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・ 上記審議内容からして、意思の表出を任務とする分科会ではないと考えられる。				
	開催シンポジウム等				
	・ なし。				
開催状況	・ 第1回：令和6年6月27日（木）15：00～16：00				
今後の課題等	・ 代表派遣にかかる旅費など費用が十分とはいえない状況にあり、各種会議への代表派遣の縮小による国際的プレゼンスの低下が懸念される。				



第二部（生命科学系学術雑誌問題検討分科会）					
委員長	小林武彦	副委員長	岩崎博史	幹事	平田たつみ・坂内博子
主な活動	審議内容				
	・生命科学系分野学術誌特有の問題点の整理 ・その改善に向けた方策の検討 ・成果発信のための統一したプラットフォームの設置等の検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	予定有り。				
	開催シンポジウム等				
	予定あり。				
開催状況	令和6年7月1日（月）18:00~19:30				
今後の課題等	生命科学系分野学術誌特有の問題点の改善に向けた方策の検討				

第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	樋田 京子	副委員長	竹山春子	幹事	熊谷日登美，東原和成
主な活動	審議内容				
	生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握するための方策について審議した。また，課題解決のための発信のひとつとして、分科会が主体となるシンポジウム企画について協議した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会と合同で発信に向けて協議を進める。				
	開催シンポジウム等				
	本分科会メンバーシンポジウムの企画について意見交換を行った。1回目は中高校生や教師，保護者が参加しやすいシンポジウムを計画することとした。				

開催状況	令和6年9月3日に第1回分科会（オンライン）を開催
今後の課題等	生命科学分野における男女共同参画に関する活動調査を行う。幅広い学術分野との連携も行い、複数の公開シンポジウム実施に向けて協議する。

第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会					
委員長	玉田 薫	副委員長	堀 利栄	幹事	中野 裕美、中村 卓司
主な活動	審議内容（※審議結果からの主要な意見、今後の審議予定課題などを含む）				
	第 26 期は、昨今急速に拡大しつつある理工系の女子枠大学入試ならびに大学教員の女性限定公募等の動きを軸に、ダイバーシティ・インクルージョン・エクイティ（DEI）環境醸成の問題について、国際的視点を含めた幅広い議論を進める。				
	意思の表出（※予定含む）				
	第 26 期中に審議内容について、意思の表出（見解）を目指す。				
	開催シンポジウム等（※予定含む）				
	アジア科学アカデミー（AASSA）の理工系女性の委員会（WISE）との合同シンポジウムあるいは学術フォーラムを開催予定。				
開催状況	令和 6 年 2 月 29 日 第 1 回分科会開催 令和 6 年 3 月 17 日 欧州研究評議会 EDI 担当者との非公式勉強会開催 令和 6 年 4 月 2 日～4 月 19 日 今後の活動に関するアンケート実施 令和 6 年 7 月 25 日 第 2 回分科会開催				
今後の課題等	科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会が中心となり進めている「第 6 次男女共同参画基本計画」に関連する提言に理工系分科会として協力する。				

(9) 地区会議

北海道地区会議

東北地区会議

関東地区会議

中部地区会議

近畿地区会議

中国・四国地区会議

九州・沖縄地区会議

北海道地区会議		代表幹事	宇山 智彦
主な活動	審議内容		
	・令和6年度事業計画について ・日本学術会議北海道地区会議学術講演会について ・日本学術会議サイエンスカフェの実施について 等		
	開催シンポジウム等		
	・令和5年11月18日に学術講演会「人間と野生生物の共生のためにー北海道の最新研究と実践ー」をハイブリッド形式で開催し、196名が参加した。 ・令和6年3月6日にサイエンスカフェ「血管研究の先に見えるもの」を三省堂書店札幌店で開催した。 ・令和6年3月に地区会議ニュース(No.54)を発行し、新旧代表幹事のメッセージ、学術講演会の開催報告、地区会議の活動報告等を掲載した。		
開催状況	運営協議会：令和6年3月4日※メール、同年6月4日※対面＋オンライン、同年7月30日※メール		
今後の課題等	学術講演会(11月に多文化共生をテーマに開催する予定)、科学者との懇談会、サイエンスカフェなどを通じて、北海道地区の研究者との連携を深めるとともに、日本学術会議の活動について社会的な周知を図っていく。		

関東地区会議		代表幹事	有田 伸
主な活動	審議内容		
	第 26 期の関東地区会議運営協議会委員を選出し、代表幹事を定めた。 また今期の活動の基本的な方針について確認した。		
	開催シンポジウム等		
	特になし		
開催状況	2023 年 10 月 3 日開催		
今後の課題等	地方学術会議委員会の今後の審議内容をふまえた上で、関東地区会議の活動の方向性を改めて検討していくことが課題となる。		

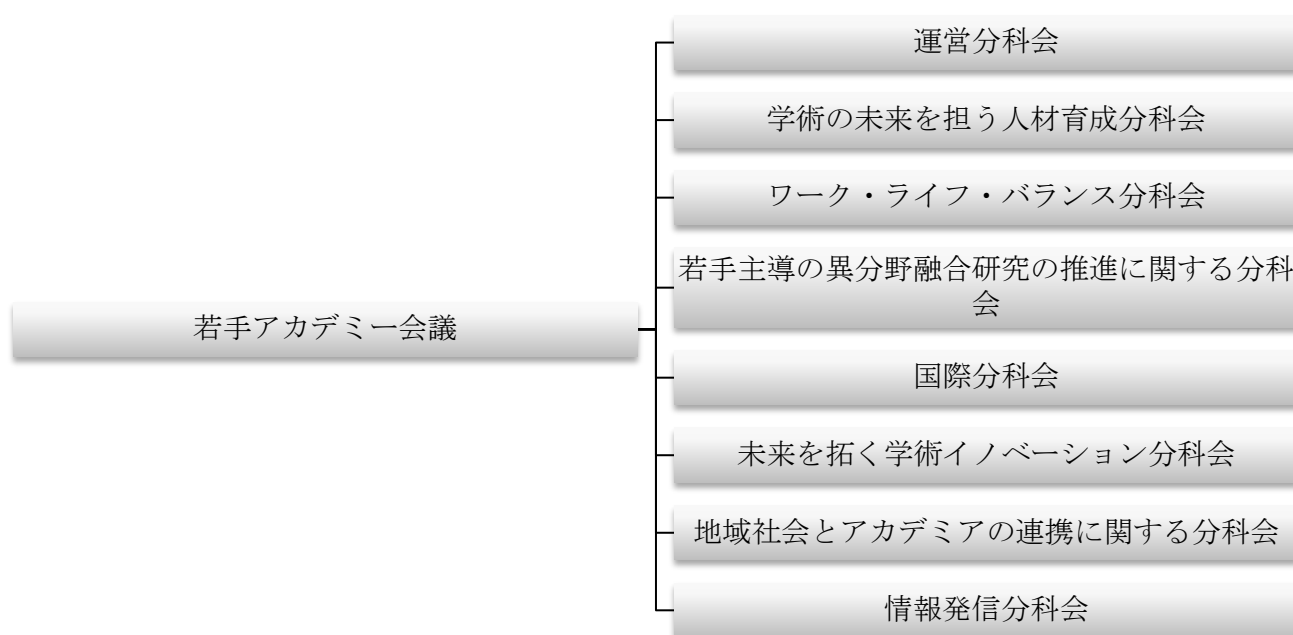
近畿地区会議		代表幹事	村山美穂
主な活動	審議内容		
	ニュースレター「近畿地区会議ニュース」を発行した。近畿地区独自の学術文化懇談会との協働体制において、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただくために年 1 回開催する学術講演会についての審議、および、近畿地区の学術会議関係者と大学・研究機関との連携についての議論を行っている。		
	開催シンポジウム等		
	令和 6 年 9 月 7 日に近畿地区会議学術講演会「市民とともにつくる学術知－シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦」を開催予定		
開催状況	運営協議会・学術文化懇談会：第 1 回 令和 6 年 3 月 14 日京都大学（ハイブリッド開催）学術文化懇談会の会員を選出し、令和 5 年度事業として近畿地区会議学術講演会「女性の活躍から未来を考える」を開催したことを報告し、令和 6 年度事業計画について、日本学術会議第 3 部夏季部会とシンポジウムを共催すること、および学術講演会のテーマ、日程、講演者について協議した。		
今後の課題等	令和 7 年度、8 年度に開催予定の学術講演会のテーマについて、引き続き協議する。		

中国・四国地区会議		代表幹事	薮田 ひかる
主な活動	審議内容		
	運営協議会 第1回：中国・四国地区会議主催の令和6年度公開学術講演会／地区ニュース No.55 の内容／「学術の動向」への投稿。（学術講演会は令和6年11月30日に高知工科大学にて開催予定。地区ニュース No.55 は令和6年3月に発行。「学術の動向」への投稿は、令和6年1月号に掲載。）第2回：令和5年度事業 報告と令和6年度事業計画について。		
	開催シンポジウム等		
	令和5年11月25日「地方大学の持続可能な開発目標（SDGs）へのアプローチ」（島根大学（ハイブリッド開催））。		
開催状況	運営協議会：第1回 令和5年11月25日 島根大学・Zoom（ハイブリッド開催）、第2回 令和6年3月4日 Zoom		
今後の課題等	社会課題解決を主なテーマの一つとして、分野融合や高度専門人材育成といった今後の議論の活性化に繋げていく。運営委員会協議員だけではなく、中国・四国地区のできるだけ多くの会員・連携会員に地区会議活動に参加いただく工夫が必要である。令和6年11月30日に、運営協議会および学術講演会（高知工科大学）を開催予定。		

九州・沖縄地区会議		代表幹事	内田 誠一
主な活動	審議内容		
	・令和6年3月に運営協議会（書面会議）を開催し、令和5年度の事業報告（案）、令和6年度の事業計画（案）について審議した。 ・令和6年6月に運営協議会（書面会議）を開催し、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催 科学者懇談会・学術講演会の実施概要（案）について審議した。		
	開催シンポジウム等		
	【科学者懇談会および学術講演会の開催】 ・令和6年3月18日に長崎大学との共催により「科学者懇談会」「学術講演会」を開催した。「科学者懇談会」では、磯副会長、内田代表幹事、永安 長崎大学長他の長崎大学関係者、周辺他大学関係者等が出席し、意見交換等を行った。また、「学術講演会」（ハイブリッド開催）では、『革新的技術の創出によって養殖（水産業）の未来を作る』をテーマに4件の講演が行われ、約160名の参加者を得、盛会裏に終了した。 ・令和6年5月に「九州・沖縄地区ニュース第122号」を発行し、令和5年度に開催した「科学者懇談会・学術講演会」の概要ならびに地区会議の活動報告等を掲載した。		

開催状況	【運営協議会】令和6年3月12日～19日、令和6年6月17日～24日（いずれも書面回議） 【学術講演会】令和6年3月18日（ハイブリッド開催）
今後の課題等	・令和6年10月9日に鹿児島大学との共催で「科学者懇談会・学術講演会」を開催予定である。より若年層に関心を持ってもらえるよう広報を検討している。

(10) 若手アカデミー



若手アカデミー					
委員長	小野 悠	副委員長	標葉 隆馬	幹事	南澤 孝太・岩崎 渉
主な活動	審議内容				
	・第25期若手アカデミーにおける活動および審議事項の引き継ぎを行なった。 ・日本学術会議の現状と若手アカデミーが果たすべき役割について議論を行なった。 ・上記を踏まえ、分科会（学術の未来を担う人材育成分科会、ワーク・ライフ・バランス分科会、若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会、国際分科会、未来を拓く学術イノベーション分科会、地域社会とアカデミアの連携に関する分科会、情報発信分科会）ごとに集中した審議や活動を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	・こども霞が関見学デー サイエンスカフェ「せんせいといっしょに自由研究～カガクからのぞく家族と宇宙～」(令和6年8月7日) ・多様な研究人材の育成と未来に関するワークショップ(令和6年8月7日) ・公開シンポジウム「スタートアップが繋げる農学と農業 ～望ましい共創のあり方～」(令和6年8月20日) ・公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」(令和6年9月4日)				

開催状況	令和 5 年 12 月 18 日、令和 6 年 1 月 10 日
今後の課題等	第 25 期に発出した「2040 年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき 10 の課題」に関する見解に基づき、具体的な実現にむけた各種ステークホルダーとの議論を進めること、Web メディアやシンポジウムを含めた多様なコミュニケーション手段を活用して社会への発信を進めることを基本方針とする。

若手アカデミー（運営分科会）					
委員長	小野 悠	副委員長	標葉 隆馬	幹事	南澤 孝太・岩崎 渉
主な活動	審議内容				
	・各分科会の設置や構成員について審議し、運営状況に関する情報交換を行なった。 ・日本学術会議特任連携会員への推薦者について審議し、推薦を行なった。 ・公開シンポジウム「スタートアップが繋げる農学と農業 ～望ましい共創のあり方～」、公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」、公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」の主催について、それぞれ審議を行い、承認した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和 6 年 2 月 1 日※メール、令和 6 年 3 月 22 日、令和 6 年 6 月 17 日※メール、令和 6 年 7 月 18 日※メール				
今後の課題等	若手アカデミーおよび各分科会の活動を効果的に行うため、リーダーシップをとりつつ迅速に審議・意思決定を行う。また、若手アカデミーのあり方そのものを含めた議論・検討を行う。				

若手アカデミー（学術の未来を担う人材育成分科会）					
委員長	小川 剛伸	副委員長	武田 宙也	幹事	八尾 史・仲上 豪二郎
主な活動	審議内容				
	・学術の次世代を担う若手人材の育成および次々世代を担う中学生・高校生・大学生の教育における課題とその解決策に関して、意見交換を行った。 ・今後の活動計画について、委員の興味のある対象を共有した。 ・文部科学省の有志、ならびに研究基盤協議会の有志と「多様な研究人材の育成と				

	未来に関するワークショップ」を開催した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	第1回 令和6年3月1日 ※オンライン会議
今後の課題等	人材育成に関する複数のテーマを設定し、活動を行う。また、文部科学省等のステークホルダーと積極的に情報共有を行う。

若手アカデミー（ワーク・ライフ・バランス分科会）					
委員長	川口 慎介	副委員長	緒形 ひとみ	幹事	菅野 早紀
主な活動	審議内容				
	第25期若手アカデミーが発出した『見解』であげられた学術界の体質改善にむけ、ワークライフバランスにかかるベストプラクティス事例の情報収集と共有を進めることとなった。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	第1回 令和6年3月13日 ※オンライン会議				
今後の課題等	主催側、参加側の双方に大きな負担が生じている各種集会開催における託児のありかたについてベスト事例を共有することでワーク削減を目指す。				

若手アカデミー（若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会）					
委員長	藤岡 沙都子	副委員長	石川 麻乃	幹事	田井 明・山内 紀子
主な活動	審議内容				
	多忙な状況にある若手科学者が高い障壁を感じることなく異分野融合による新たな研究領域の展開を主導、推進できる方法論の模索に向けた意見交換を行なった。オンライン会合でメンバーの研究内容・興味・関心の共有を行なった。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし。
	開催シンポジウム等
	なし。
開催状況	令和6年3月4日第1回分科会※オンライン開催
今後の課題等	異分野融合に関する複数のテーマを設定し、ワーキンググループでの活動を行う。

若手アカデミー（国際分科会）					
委員長	加納 圭	副委員長	坂元 晴香	幹事	門田 有希
主な活動	審議内容				
	前期の活動概要をもとに、今後の活動方針等について意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和6年3月4日 ※オンライン会議				
今後の課題等	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024 の運営実施補助、今後の WSF や STS フォーラムへの派遣などに向けた課題整理と方針立案を行う。				

若手アカデミー（未来を拓く学術イノベーション分科会）					
委員長	武田 秀太郎	副委員長	藤岡 沙都子	幹事	廣野 陽子
主な活動	審議内容				
	第25期若手アカデミーが発出した『見解』であげられた、「課題4：セクターを越えた共創プラットフォームの整備」を実現する、従来型の産官学連携を超えた新たなイノベーションを産み出す在り方について、議論を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし。				

	開催シンポジウム等
	2024年9月4日公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」(若手アカデミー主催)(福岡県福岡市)の計画 2024年10月25-27日公開シンポジウム「第2回那須会議」(若手アカデミー、那須会議実行委員会主催)(栃木県那須郡)の計画
開催状況	第1回 令和6年3月14日 ※オンライン会議
今後の課題等	若手アカデミーメンバーと社会のイノベーションエコシステムとの交流を計り、より実効的な議論を行う。

若手アカデミー(地域社会とアカデミアの連携に関する分科会)					
委員長	木村 草太	副委員長	櫻田 涼子	幹事	田井明、門田有希
主な活動	審議内容				
	第25期若手アカデミーが発出した『見解』であげられた、「地域連携の推進」を実現する方法について、議論を行った。9月のシンポジウムに向け、ファシリテートの方針の検討と分科会からの報告者の選定を行った。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし。				
	開催シンポジウム等				
	2024年9月4日公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」(若手アカデミー主催)(福岡県福岡市)の計画 2024年10月25-27日公開シンポジウム「第2回那須会議」(若手アカデミー、那須会議実行委員会主催)(栃木県那須郡)の計画				
開催状況	第1回 令和6年3月14日 ※オンライン会議				
今後の課題等	若手アカデミーメンバーと地域社会・地域における学術関係者との交流を計り、より実効的な議論を行う。				

若手アカデミー(情報発信分科会)					
委員長	大西楠テア	副委員長	中谷武志	幹事	久保田好美 河内山 拓磨
主な活動	審議内容				
	若手アカデミーのHPを充実させるとともに、メンバーの専門分野・関心を基礎とした情報発信を積極的に進めていくこととなった。また、アウトリーチの在り方について情報の収集と共有を行うこととなった。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	なし。				

	開催シンポジウム等 令和6年8月7・8日、日本学術会議庁舎6階-C会議室においてサイエンスカフェ「せんせいといっしょに自由研究〜カガクから覗く(のぞく)家族と宇宙」を実施した。また、デジタルメディア esse-sense (https://esse-sense.com/) と連携して、同メディアに、若手アカデミーが作成した「2040年の科学・学術と社会を見据えて、いま取り組むべき10の課題」の特集記事を掲載する企画を進めている。
開催状況	第1回 令和6年3月6日 ※オンライン会議
今後の課題等	『10の課題』の社会実装に向けた状況や課題について情報発信を行うこと。